

気仙沼市文化財調査報告書第23集

裏方A貝塚

－防災集団移転促進事業（浦の浜地区）に伴う
発掘調査報告書－

2021

気仙沼市教育委員会

裏方 A 貝塚

－防災集団移転促進事業（浦の浜地区）に伴う
発掘調査報告書－

2021

気仙沼市教育委員会

刊行にあたって

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）が引き起こした巨大津波は、気仙沼市においても甚大な被害をもたらしました。住家被災棟数約 16,000 棟、1,200 人を超える尊い命が犠牲となりました。

未曾有の大震災によって、高台への防災集団移転、災害公営住宅や個人住宅の再建等が必要となりました。本市には、縄文時代の貝塚や集落跡、中世の城館跡など 180 か所以上の遺跡が周知されていますが、その多くは沿岸部の丘陵地に立地しています。そのため、津波の浸水域を避けるためには、必然的に埋蔵文化財との関わりが増してきます。

本市では、復旧・復興事業の円滑な推進と埋蔵文化財の適切な保護との調整を図るため、職員の再任用や任期付職員の採用に加え、他自治体へ職員の派遣要請を行い、埋蔵文化財の発掘調査に対応する専門職員を確保するほか、文化庁、宮城県教育委員会等の支援により、調査体制を整備してまいりました。

本書は、平成 27 年度に、国の東日本大震災復興交付金事業として実施した裏方 A 貝塚（防災集団移転促進事業〔浦の浜地区〕）の発掘調査成果をまとめた報告書です。裏方 A 貝塚は、大島の浦の浜漁港に面した丘陵地の縄文時代貝塚として古くから知られていた遺跡ですが、これまで、発掘調査による成果は少なかつた遺跡でした。しかし、今回の発掘調査では多くの縄文土器が出土しました。

この報告書が市民の皆さんはじめ多くの方々に活用され、地域の歴史を明らかにする一助となるとともに、埋蔵文化財に対するご理解がいっそう深まりますよう願ってやみません。

最後になりますが、遺跡の保存にご理解いただき、また、発掘調査に際してご協力をいただきました関係者の皆さんに厚く御礼申し上げる次第であります。

令和 3 年 3 月

気仙沼市教育委員会

教育長 小山 淳

例　　言

1. 本書は、東日本大震災の復興事業である防災集団移転促進事業（浦の浜地区）に係る裏方A貝塚の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、気仙沼市教育委員会生涯学習課が主体となり、宮城県教育庁文化財保護課（現、文化財課）の協力のもと実施した。なお、調査は、平成27年7月13日から同17日および同年8月18日から同21日まで確認調査を実施し、平成27年10月1日から同31日まで本発掘調査を行った。
3. 遺跡の略称はUKAとし、遺物の注記にあたっては、略称・地点・日付を併記した。
4. 測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第X系による。
5. 本書の編集・執筆は、第4章のほかは石川郁が行った。
6. 石質の肉眼鑑定については株式会社パリノ・サーヴェイに委託して行った。また、原稿については、同社作成のものを一部再編集した。
7. 遺物の分類・計量は、須藤好直、石川が行った。
8. 遺物の観察は、原田享二、石川が行った。
9. 遺物の実測・石器トレースは令和元年度に株式会社吉田建設に、土器トレース・拓本・写真撮影は、令和2年度に株式会社イビソクにそれぞれ委託した。
10. 本調査において記録した諸資料及び検出された遺物は、気仙沼市教育委員会で保管している。
11. 発掘調査から報告書の作成に至るまで、次の方々や諸機関からご指導・ご協力を賜った。記して感謝する次第である。（五十音順）

一般社団法人気仙沼復興協会 株式会社大島建設 株式会社小松工業

気仙沼市（建設部防災集団移転推進課〔現、住宅課〕）

公益社団法人気仙沼市シルバー人材センター

凡　　例

1. 方位　　・ 方位は、原則として図版左上に方位円によって示した。この方位は、真北を指す。
2. 標高　　・ 土層堆積状況図の標高の基準面は、東京湾平均海面（Tokyo Peil : T.P.）である。
3. 断面図　・ 断面図に記した基準標高はmを省いて記し、各ポイントはA-A'、B-B'などと記した。
また、土層説明の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局ほか監修、1970）を使用した。
4. 縮尺　　・ 図版の縮尺は各図版に記した。遺物図版の縮尺は原則1/3であるが、例外は以下のとおりである。
　　土製品・石斧：1/2、石鏃：4/5
5. トーン　　・ 石器実測図のトーンは、以下のとおりである。

 磨面  敲打面  砥面

目 次

刊行にあたって

例言・凡例

目 次

第1章 調査の概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 確認調査の概要	1
第3節 調査過程	8
1. 調査の目的	8
2. 調査の方法と経過	8
(1) 発掘調査 8 / (2) 整理調査・報告書作成 9	
3. 調査の体制	10
第2章 遺跡の立地	11
第1節 地理的環境	11
第2節 歴史的環境と周辺の遺跡	13
第3章 発掘調査の成果	17
第1節 概要	17
1. 概観	17
2. 基本層序	21
第2節 検出された遺構と遺物	21
第4章 裏方A貝塚出土石器類の石質	49
1. はじめに	49
2. 試料	49
3. 分析方法	49
4. 結果	49
5. 考察	49
第5章 まとめ	55

挿図目次

第1図	トレンチ設定図	2	第15図	包含層①出土遺物(5)〔土器5〕	26
第2図	確認調査出土遺物1〔土器〕	5	第16図	包含層①出土遺物(6)〔土器6〕	28
第3図	確認調査出土遺物2〔土製品・石器〕	6	第17図	包含層①出土遺物(7)〔土器7〕	29
第4図	調査区割図	8	第18図	包含層①出土遺物(8)〔土製品・石器1〕	30
第5図	気仙沼市位置図	11	第19図	包含層①出土遺物(9)〔石器2〕	31
第6図	調査地点位置図	11	第20図	包含層①出土遺物(10)〔石器3〕	32
第7図	気仙沼市地形区分図【大島】	12	第21図	包含層①出土遺物(11)〔石器4〕	33
第8図	周辺の遺跡	14	第22図	包含層①出土遺物(12)〔石器5〕	34
第9図	調査区全体図および基本層序	17	第23図	包含層①出土遺物(13)〔石器6〕	35
第10図	調査区土層堆積状況	18	第24図	包含層①出土遺物(14)〔石器7〕	36
第11図	包含層①出土遺物(1)〔土器1〕	22	第25図	包含層②出土遺物(1)〔土器〕	44
第12図	包含層①出土遺物(2)〔土器2〕	23	第26図	包含層②出土遺物(2)〔石器〕	46
第13図	包含層①出土遺物(3)〔土器3〕	24	第27図	遺物包含層の範囲	57
第14図	包含層①出土遺物(4)〔土器4〕	25			

表目次

第1表	確認調査の概要	3	第11表	包含層①出土遺物観察表(4)〔土器4〕	29
第2表	確認調査出土遺物観察表(1)〔土器〕	5	第12表	包含層①出土遺物観察表(5)〔土製品〕	31
第3表	確認調査出土遺物観察表(2)〔土製品〕	6	第13表	包含層①出土遺物観察表(6)〔石器1〕	31
第4表	確認調査出土遺物観察表(3)〔石器〕	6	第14表	包含層①出土遺物観察表(7)〔石器2〕	33
第5表	周辺の遺跡	15	第15表	包含層①出土遺物観察表(8)〔石器3〕	35
第6表	出土遺物数量表(1)〔縄文土器〕	20	第16表	包含層①出土遺物観察表(9)〔石器4〕	37
第7表	出土遺物数量表(2)〔石器〕	20	第17表	包含層②出土遺物観察表(1)〔土器〕	45
第8表	包含層①出土遺物観察表(1)〔土器1〕	23	第18表	包含層②出土遺物観察表(2)〔石器〕	46
第9表	包含層①出土遺物観察表(2)〔土器2〕	25	第19表	岩石組成	50
第10表	包含層①出土遺物観察表(3)〔土器3〕	27			

写真目次

写真1	14 トレンチ土層堆積状況（東から）	2	写真15	作業風景(2)	9
写真2	14 トレンチ全景（南から）	2	写真16	Aベルト土層堆積状況（西から）	19
写真3	15 トレンチ土層堆積状況（東から）	3	写真17	Bベルト土層堆積状況（東から）	19
写真4	15 トレンチ全景（南から）	3	写真18	Cベルト土層堆積状況（西から）	19
写真5	16 トレンチ 土層堆積状況（西から）	4	写真19	調査区全景【西側】（西から）	19
写真6	16 トレンチ全景（南から）	4	写真20	調査区全景【中央】（南から）	19
写真7	17 トレンチ土層堆積状況（東から）	4	写真21	調査区全景【東側】（東から）	19
写真8	17 トレンチ全景（南から）	4	写真22	遺物出土状況【石器】（包含層①上層）	19
写真9	18 トレンチ 土層堆積状況（西から）	4	写真23	遺物出土状況【土器】（包含層①下層）	19
写真10	18 トレンチ全景（北から）	4	写真24	包含層①出土遺物(1)〔土器1〕	37
写真11	19 トレンチ全景（北から）	4	写真25	包含層①出土遺物(2)〔土器2〕	38
写真12	20 トレンチ全景（東から）	4	写真26	包含層①出土遺物(3)〔土器3〕	39
写真13	確認調査出土遺物	7	写真27	包含層①出土遺物(4) 〔土器4・土製品・石器1〕	40
写真14	作業風景(1)	9			

写真28 包含層①出土遺物(5)〔石器2〕	41	写真32 包含層②出土遺物(2)〔石器〕	48
写真29 包含層①出土遺物(6)〔石器3〕	42	写真33 岩石(1)	52
写真30 包含層①出土遺物(7)〔石器4〕	43	写真34 岩石(2)	53
写真31 包含層②出土遺物(1)〔土器〕	47		

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）において、気仙沼市は15,000棟以上の住家が被災し、人的被害も行方不明者を含めるとおおよそ1,500人にもおよぶといった、甚大な被害を受けた（令和3年1月31日現在）。本遺跡が所在する大島地区においても、一部損壊を含めると3割強にあたる1,200棟以上の家屋が被災し、また、100ha以上の森林火災、大津波により島が南北に分断されるなど、多大な被害をもたらした。

気仙沼市は、平成23年10月7日に「気仙沼市震災復興計画」を策定し、「津波死ゼロのまちづくり」を目標のひとつに掲げ、市民の生命および財産を守ることができる安全なまちづくりを実現するため、高台や内陸部への防災集団移転や災害公営住宅整備を推進することとした。その後大島地区では、候補地の選定をすすめ、その結果、平成26年1月に田尻地区および浦の浜地区の2か所に決定した。このことにより、事業課〔建設部防災集団移転推進課（現 住宅課）〕から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に埋蔵文化財の有無について照会があった。市教委は、田尻地区は埋蔵文化財包蔵地に該当しないが、浦の浜地区は、周知の埋蔵文化財包蔵地である裏方A貝塚に該当しているため、浦の浜地区のみ協議書の提出が必要である旨回答した。

平成27年3月24日付けで「浦の浜地区防災集団移転促進事業と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が気仙沼市長〔担当 建設部防災集団移転推進課〕（以下、「事業者」という。）から市教委に提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である裏方A貝塚（県遺跡番号 59019）内に該当していることから、確認調査を実施する必要がある旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同年6月10日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第236号）。

つづいて、同月18日、文化財保護法第94条第1項の規定により、事業者から「埋蔵文化財発掘の通知」が提出され、同年7月3日付けで県教委から通知が発出された（文第967号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成27年7月13日から確認調査を実施することとなった。

第2節 確認調査の概要

確認調査は、平成27年7月13日から同17日および同年8月18日から同21日に実施した。実働は9日間である。対象地（3,100m²）内に20本のトレーナーを設定した。調査面積は204m²を測る。

当該団地は、道路南西側の1～3号地、北側の4・5号地、東側の6・7号地の7戸の計画である。トレーナーは、1～3号地に各2本ずつ、4・5号地計6本、6・7号地計7

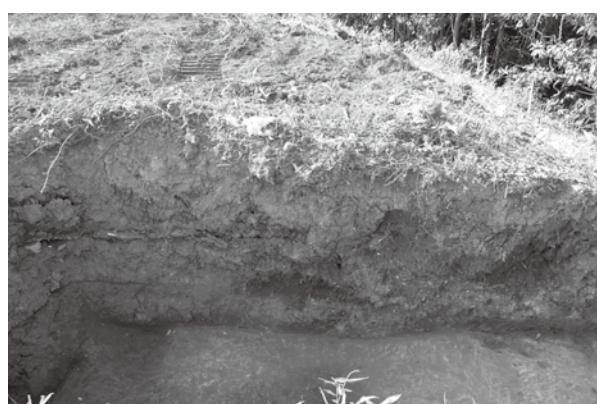
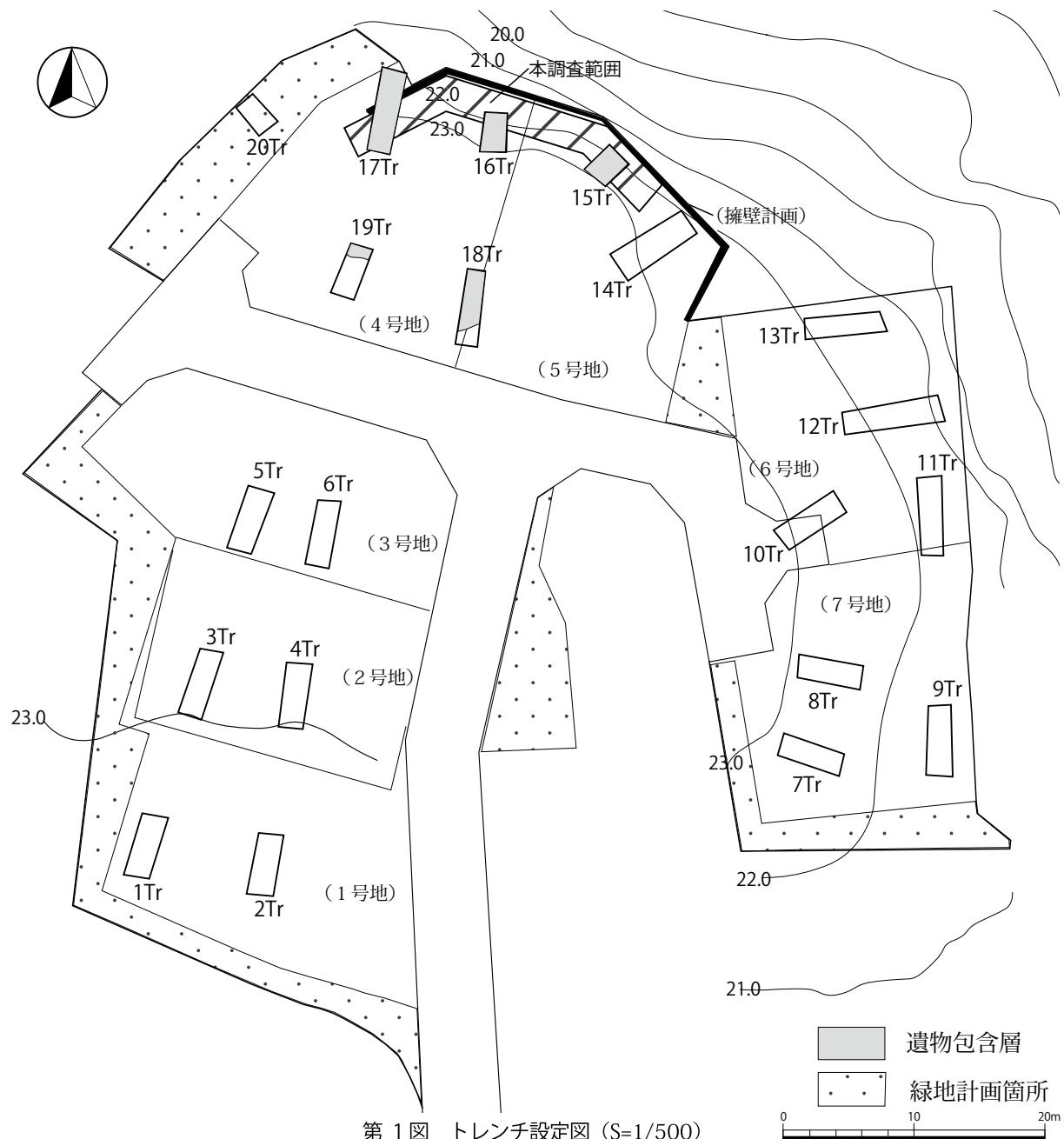


写真1 14トレンチ土層堆積状況（東から）



写真2 14トレンチ全景（南から）

本、西側の緑地に1か所設定した。各トレーニングの概要は第1表のとおりである。

1～3号地は、北側の3号地から南側の1号地に向かって若干の傾斜がみられるが、ほぼ平坦に整地され、標高はおおよそ22.8～23.3mを測る。6・7号地は、南西から北東に向かって若干の傾斜がみられるが、標高22.6～22.8mと、1～3号地と比して一段低く整地されている。4・5号地は盛土が施されており、現況標高はおおよそ23.0～23.5mを測る。

調査の結果、1～3号地（1～6トレーニング）は、おおよそ0.1～0.5m掘削したところで地山が確認された。地山の標高は1

号地で22.5m、2・3号地で22.9m

第1表 確認調査の概要

を測る。当該区域において遺構・遺物は検出されなかった。6・7号地（7～13トレーニング）は、おおよそ0.2～0.5m掘削したところで地山が確認された。地山の標高はおおよそ21.5～22.2mを測る。8トレーニングで径1.0mを測る遺構状の落ち込みを確認したが、深さが0.1mと浅く、遺構とは判断しなかった。当該区域において遺構・遺物は検出されなかった。4・5号地（14～19トレーニング）においては、18・19トレーニングで1.4mほど掘削したところで地山が確認された。地山確認面の標高はおおよそ21.6mを測る。旧地形は、18・19トレーニングから北側に向かって傾斜がみられ、15トレーニングでは最大2.3m掘削したところで地山が確認された。標高はおおよそ20.6mを測る。当該区域において

トレーニングNo.	区域	方向	規模		遺物 包含層	備考
			平面	最大深さ		
1トレーニング	1号地	南北	5m×2m	0.29m		
2トレーニング	1号地	南北	5m×2m	0.42m		
3トレーニング	2号地	南北	5m×2m	0.13m		
4トレーニング	2号地	南北	5m×2m	0.16m		
5トレーニング	3号地	南北	5m×2m	0.52m		
6トレーニング	3号地	南北	5m×2m	0.35m		
7トレーニング	7号地	東西	5m×2m	0.48m		
8トレーニング	7号地	東西	5m×2m	0.36m		
9トレーニング	7号地	南北	5m×2m	0.39m		
10トレーニング	6号地	北東→南西	5m×2m	0.52m		
11トレーニング	6号地	南北	6m×2m	0.51m		
12トレーニング	6号地	東西	8m×2m	0.48m		
13トレーニング	6号地	東西	6m×2m	0.43m		
14トレーニング	5号地	北東→南西	6.5m×2m	1.74m	盛土から北斜面	
15トレーニング	5号地	北東→南西	2.7m×2m	2.35m	全面	盛土から北斜面
16トレーニング	4号地	南北	3m×2m	2.65m	全面	盛土から北斜面
17トレーニング	4号地	南北	6.5m×2m	2.07m	全面	盛土から北斜面
18トレーニング	5号地	南北	6m×1.8m	1.78m	北2/3	盛土
19トレーニング	4号地	南北	4m×2m	1.50m	北1/4	盛土
20トレーニング	西緑地	北西→南東	3m×2m	0.64m		



写真3 15トレーニング土層堆積状況（東から）



写真4 15トレーニング全景（南から）



写真5 16 トレンチ土層堆積状況 (西から)



写真6 16 トレンチ全景 (南から)



写真7 17 トレンチ土層堆積状況 (東から)



写真8 17 トレンチ全景 (南から)



写真9 18 トレンチ土層堆積状況 (西から)



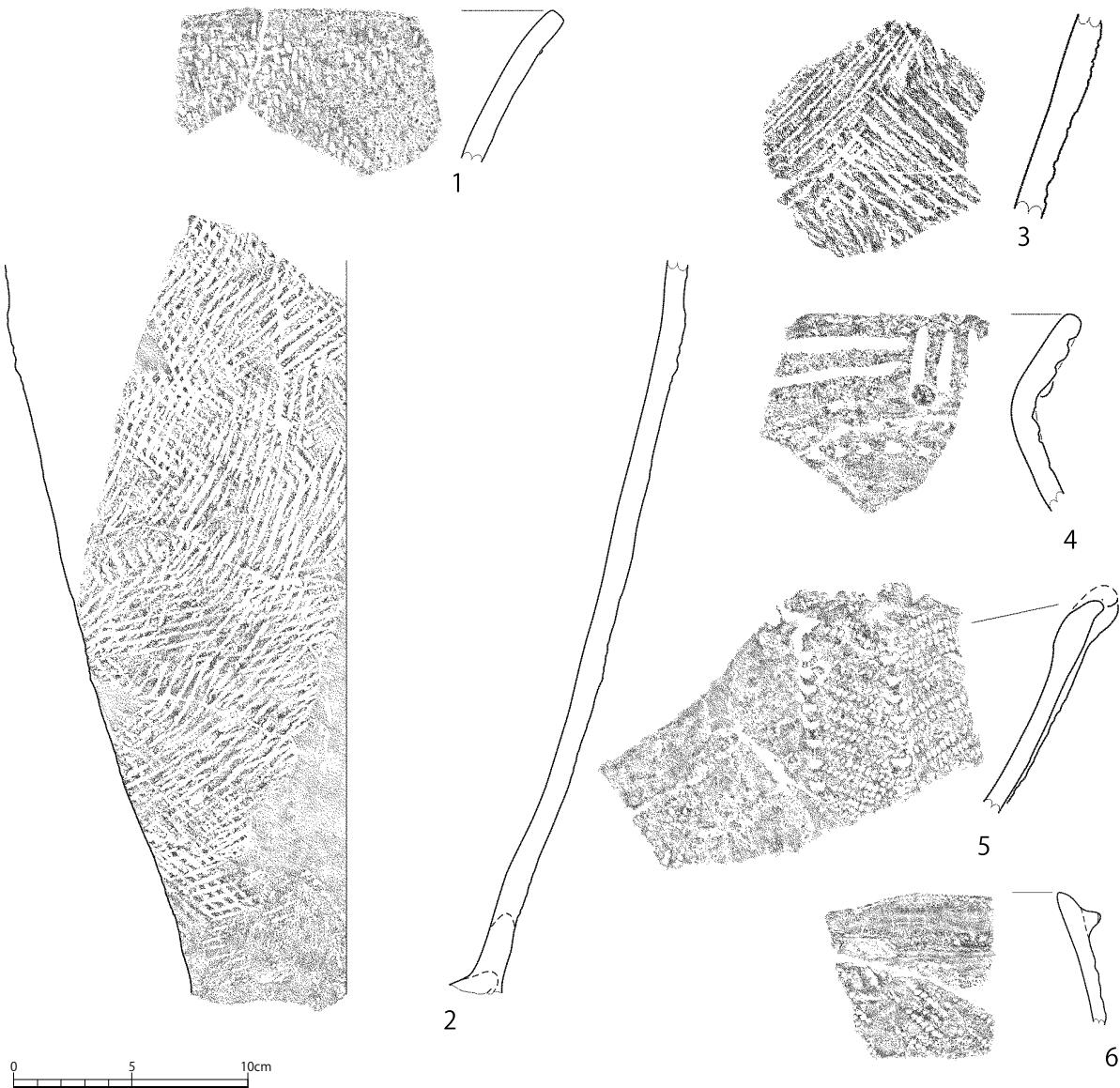
写真10 18 トレンチ全景 (北から)



写真11 19 トレンチ全景 (北から)



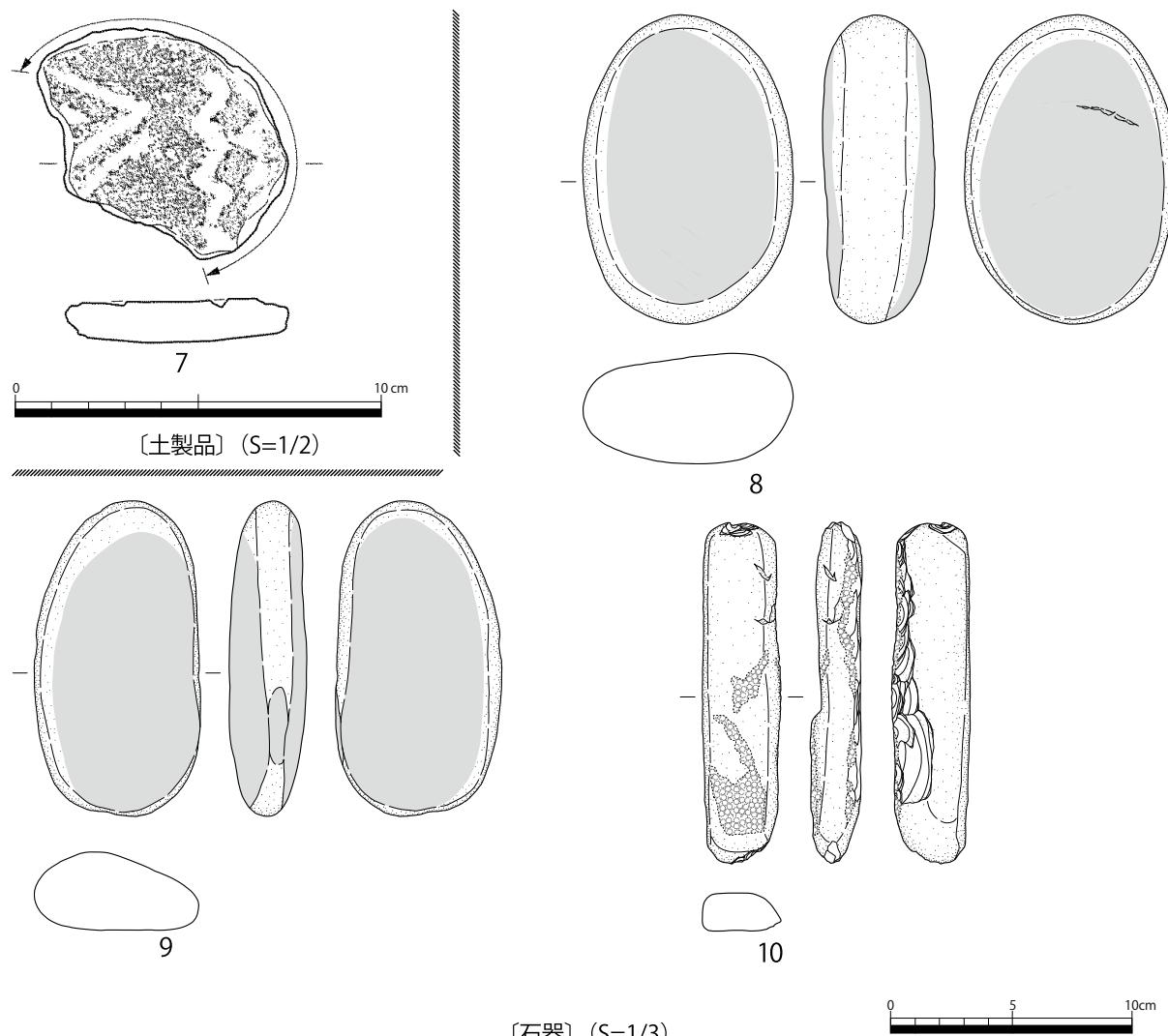
写真12 20 トレンチ全景 (東から)



第2図 確認調査出土遺物(1)〔土器〕(S=1/3)

第2表 確認調査出土遺物観察表(1)〔土器〕

図番号	写真番号	出土地点	層位	器種部位	法量(cm)	特徴	胎土	焼成	色調	時期(型式)	備考
2-1	13-1	17Tr	包含層	深鉢口縁部		縄文RL細い粘土紐(半サミ有)貼付	雲母・砂粒・白色軟質砂岩粒(多)	良好	暗褐色	前期(大木3式)	
2-2	13-2	17Tr	包含層	深鉢同部		燃糸文Lr粗く斜交	石英・砂粒・白色軟質砂岩粒(多)	良好	褐色	前期(大木5式)	
2-3	13-3	17Tr	包含層	深鉢同部		燃糸文Lr斜交 内面:ナテ(下方→上方)	雲母・砂粒・白色軟質砂岩粒(少)	良好	褐色	前期(大木5式)	
2-4	13-4	17Tr	包含層	深鉢口縁部		竹管沈線→円形浮文、竹管小口側端刺突	石英(多)、金雲母・白色軟質砂岩粒	良好	外:暗褐色 内:褐色	前期(大木6式)	外面一部煤付着
2-5	13-5	14・17Tr	包含層	深鉢胴部		波状口縁、縄文LR、[口唇] 竹管側面押圧、粘土板(竹管小口側端刺突有)貼付	砂粒(多)、金雲母(少)	良好	褐色	中期(大木7b式)	
2-6	13-6	17Tr	包含層	深鉢口縁部		縄文LR 内面:ヨコミガキ	砂粒・白色軟質砂岩粒(多)、雲母(少)	良好	褐色	中期(大木8a式)	



第3図 確認調査出土遺物(2)〔土製品・石器〕

第3表 確認調査出土遺物観察表(2)〔土製品〕

図番号	写真番号	出土地点	層位	種別	法量(cm)			重量(g)	特徴	備考
					最大長	最大幅	最大厚			
3-7	13-7	17Tr	包含層	円盤状土製品	5.60	5.30	0.95	12.5	ヘラ描鋸歯状沈線	前期(大木3)土器を転用

第4表 確認調査出土遺物観察表(3)〔石器〕

図番号	写真番号	出土地点	層位	器種	石質	法量(mm)			重量(g)	備考
						最大長	最大幅	最大厚		
3-8	13-8	17トレンチ	包含層	磨石	砂岩	126.0	86.0	45.0	753.5	
3-9	13-9	17トレンチ	包含層	磨石	輝石デイサイト	132.0	70.0	32.5	468.2	
3-10	13-10	17トレンチ	包含層	敲石	粘板岩	139.5	32.0	21.0	146.5	

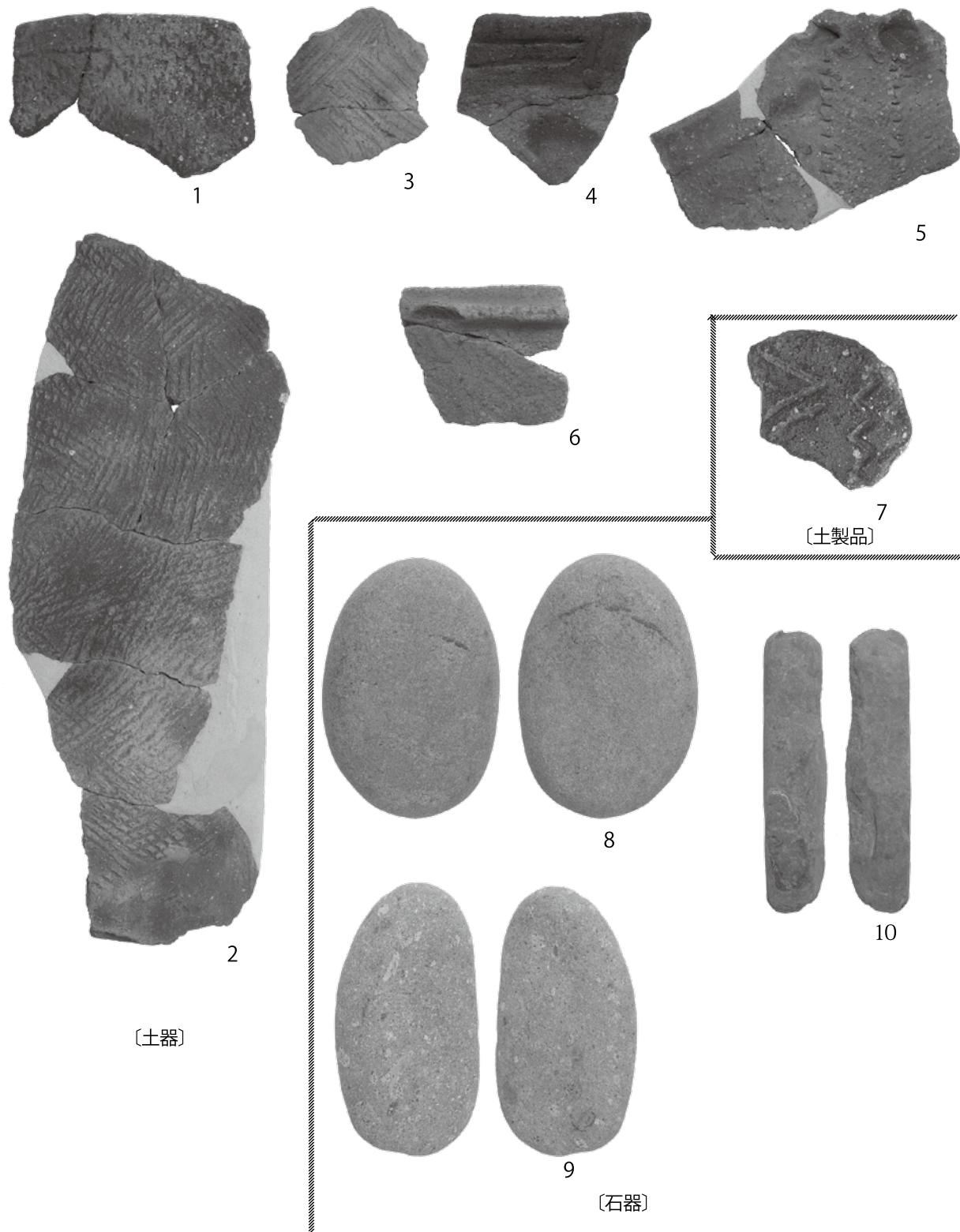


写真 13 確認調査出土遺物

は、15～19トレンチで遺物包含層が検出された。遺物は、14トレンチで縄文土器32点、17トレンチで縄文土器535点（うち、円盤状土製品2点）、石器10点（いずれも礫石器）が検出された。そのうち、縄文土器6点、円盤状土製品1点、石器3点を図示した。

なお、北西部に設定した20トレンチは、おおよそ0.5m掘削したところで地山が確認された。地山確認面の標高は21.0～21.5mを測り、遺構・遺物は検出されなかった。

第3節 調査過程

1. 調査の目的

本調査は、防災集団移転促進事業に伴う裏方A貝塚の事前調査として実施した。

本調査の目的は、当該地における埋蔵文化財の記録保存であり、発掘調査・整理調査を通じて遺構・遺物の質・量的実態を記録することを第一とした。

今回の調査に先立って実施した確認調査の結果、当該地に埋蔵文化財が遺存していることが確認された。その成果を受けて、本調査範囲を擁壁設置工事により掘削深度が深くなる北側62.5m²として実施することとした。

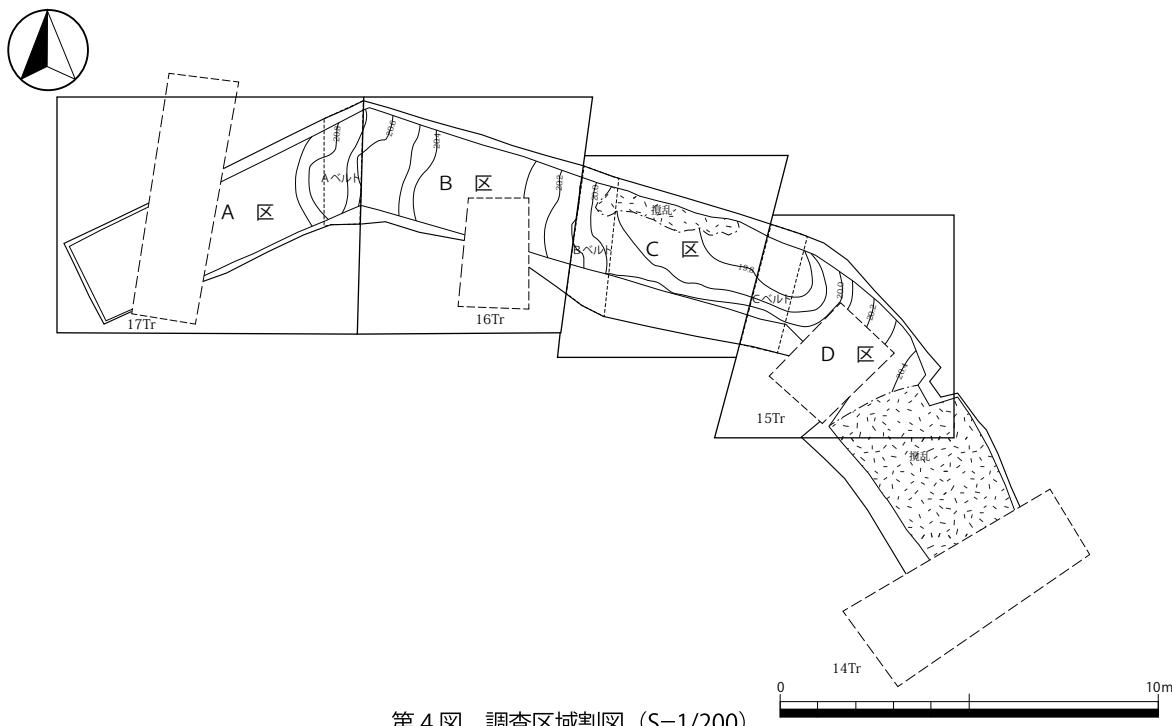
2. 調査の方法と経過

(1) 発掘調査

本発掘調査は、平成27年10月1日から同31日まで実施した。

① 調査区設定・表土掘削

10月1日、調査区設定を行った。調査範囲は、確認調査で遺物包含層が確認された15～19トレンチのうち、擁壁工事により遺跡が影響を受ける15～17トレンチ周辺のみと



した。

同月 1 日・5 日、重機により表土および盛土層の掘削を行った。

② ベルト設定

調査区内に幅 1 m のベルトを 3 本設定した (A～C ベルト)。なお、ベルトを境とし、A～D 区に調査区割した (第 4 図)。

③ 遺物包含層掘削

同月 5 日より人力による遺物包含層の掘削を開始した。遺物包含層の掘削にあたっては、区域毎に 10～15cm ずつ面的に行つた。

④ 遺物取り上げ

遺物包含層を包含層① (灰黄褐色基調) と包含層② (黒褐色基調) に分け、さらにそれぞれ上下層ごとに一括で行った (第 3 章第 1 節参照)。また、ベルトにおいては、層位ごとに行つた。

⑤ 測量

同月 28 日・29 日に平面測量を行つた。平面測量は、平板を用いて行つた。

⑥ 埋め戻し

同月 31 日、重機により埋め戻しを行い、発掘調査を終了した。(本発掘調査実働 22 日)

(2) 整理調査・報告書作成

基礎整理作業は、遺物洗浄を平成 27 年度から同 28 年度に断続的に行い、遺物注記および接合は平成 28 年度に行った (一般社団法人気仙沼復興協会より作業員派遣)。なお、注記等に用いた遺跡の略号は UKA とし、遺物注記においては区域・層位および日付を併記した。

遺物の復元・実測・トレース・写真撮影は、令和元年度に株式会社吉田建設、令和 2 年度に株式会社イビソクに委託して行つた。

その他の整理作業および報告書作成は、令和 2 年度に行つた。



写真 14 作業風景 (1)



写真 15 作業風景 (2)

3. 調査の体制

発掘調査は、平成27年度に、以下の体制で行った。

【調査主体】 気仙沼市教育委員会

教育長 白幡 勝美

教育次長 小松 三喜夫

【調査担当】 気仙沼市教育委員会 生涯学習課

生涯学習課長 菅原 京子

課長補佐 鈴木 實夫（再任用）

主幹兼文化振興係長 幡野 寛治

主幹 原田 享二（市任期付） 永濱 功治（鹿児島県派遣）

野崎 進（山梨県笛吹市派遣）

主査 千葉 純子 石川 郁（市任期付） 山本 克美（横浜市派遣）

嘱託員 齊藤 千歳 藤本 愛

（ゴシック体表示は埋蔵文化財担当、下線は当該調査担当）

【発掘作業員】

確認調査：公益社団法人気仙沼市シルバー人材センターに委託

伊東 佐男 菊田 吉幸 菊池 明典 熊谷 大間 佐藤 秀一 菅原 隆夫

本調査・基礎整理：一般社団法人気仙沼復興協会より派遣

伊藤 喜利子 伊藤 正治 小倉 正 小野寺 勝 菊池 功輝 小松 文一

【整理作業員】（平成28年度）

千葉 秀一 村上 英博

整理調査・報告書作成は、令和2年度に、以下の体制で行った。

【調査主体】 気仙沼市教育委員会 教育部

教育長 小山 淳

教育部長 池田 修

【調査担当】 気仙沼市教育委員会 教育部生涯学習課

参事兼生涯学習課長 三浦永司

課長補佐兼文化振興係長 幡野 寛治

技術補佐 鈴木 實夫（市任期付）

主幹 原田 享二（市任期付） 石川 郁（市任期付）

技術主幹 須藤好直（市任期付） 熊谷 満（市任期付） 佐藤典邦（市任期付）

主査 鈴木一弘（横浜市派遣）

技術主査 鈴木 志穂

技師 森 千可子

主事 濱 秀斗（町田市派遣） 齊藤 千歳（会計年度任用職員）

藤本 愛（会計年度任用職員） 吉城美穂（会計年度任用職員）

（ゴシック体表示は埋蔵文化財担当）

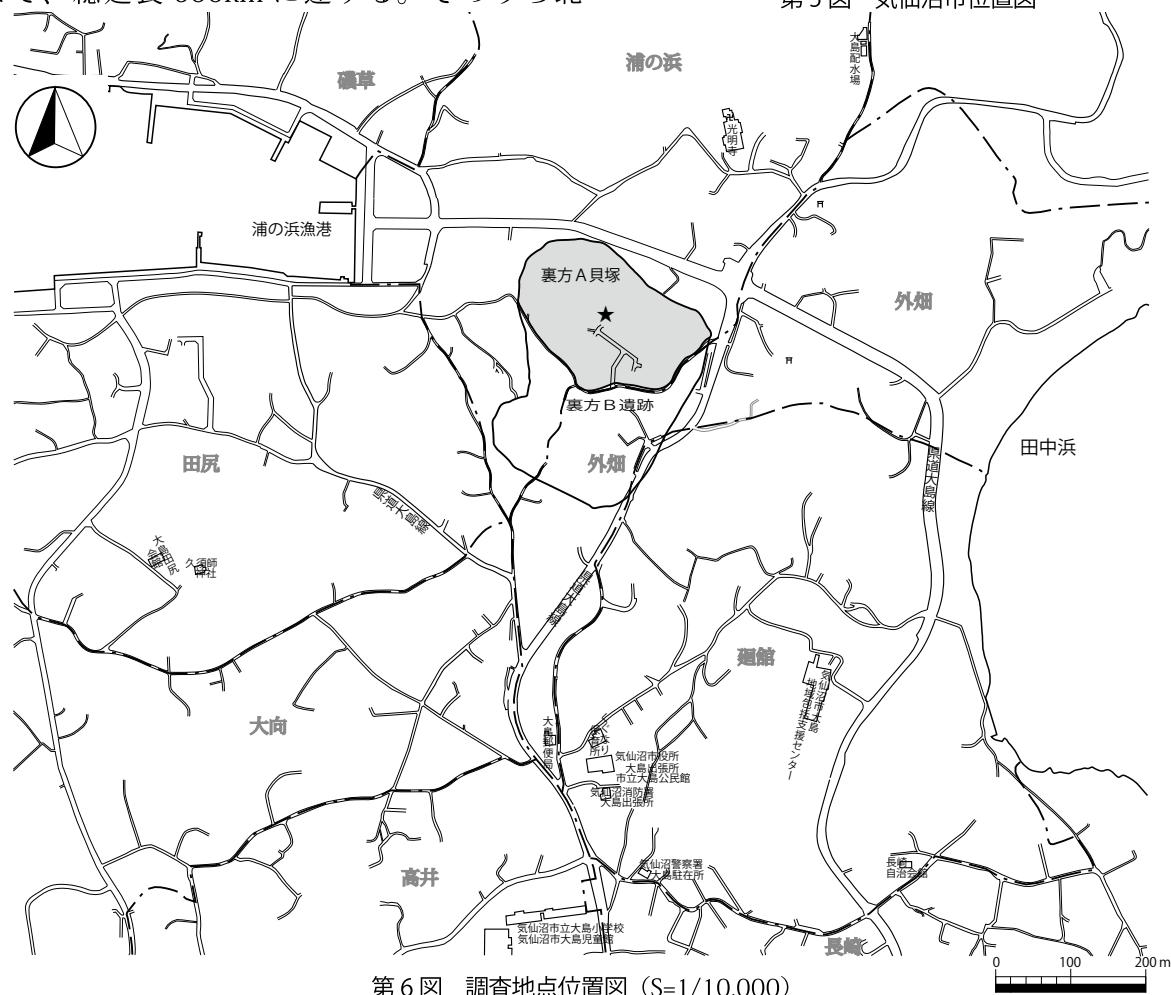
第2章 遺跡の立地

第1節 地理的環境

気仙沼市は、宮城県の北東部に位置する(第5図)。北は岩手県陸前高田市、西は岩手県一関市、南は宮城県本吉郡南三陸町に接し、東側は太平洋に面している。西側には標高400～700mの北上山地が南北に連なり、山地から派生した丘陵が太平洋の近くまで伸びている。山地を源流とする河川が太平洋に注いでおり、河口付近に小規模な沖積地が形成されている。海岸部は、入り江と岬が鋸歯状に入り組んだ地形で、三陸リアス海岸とよばれている。三陸リアス海岸は、青森県八戸市から宮城県石巻市の金華山まで、総延長600kmに達する。そのうち北



第5図 気仙沼市位置図

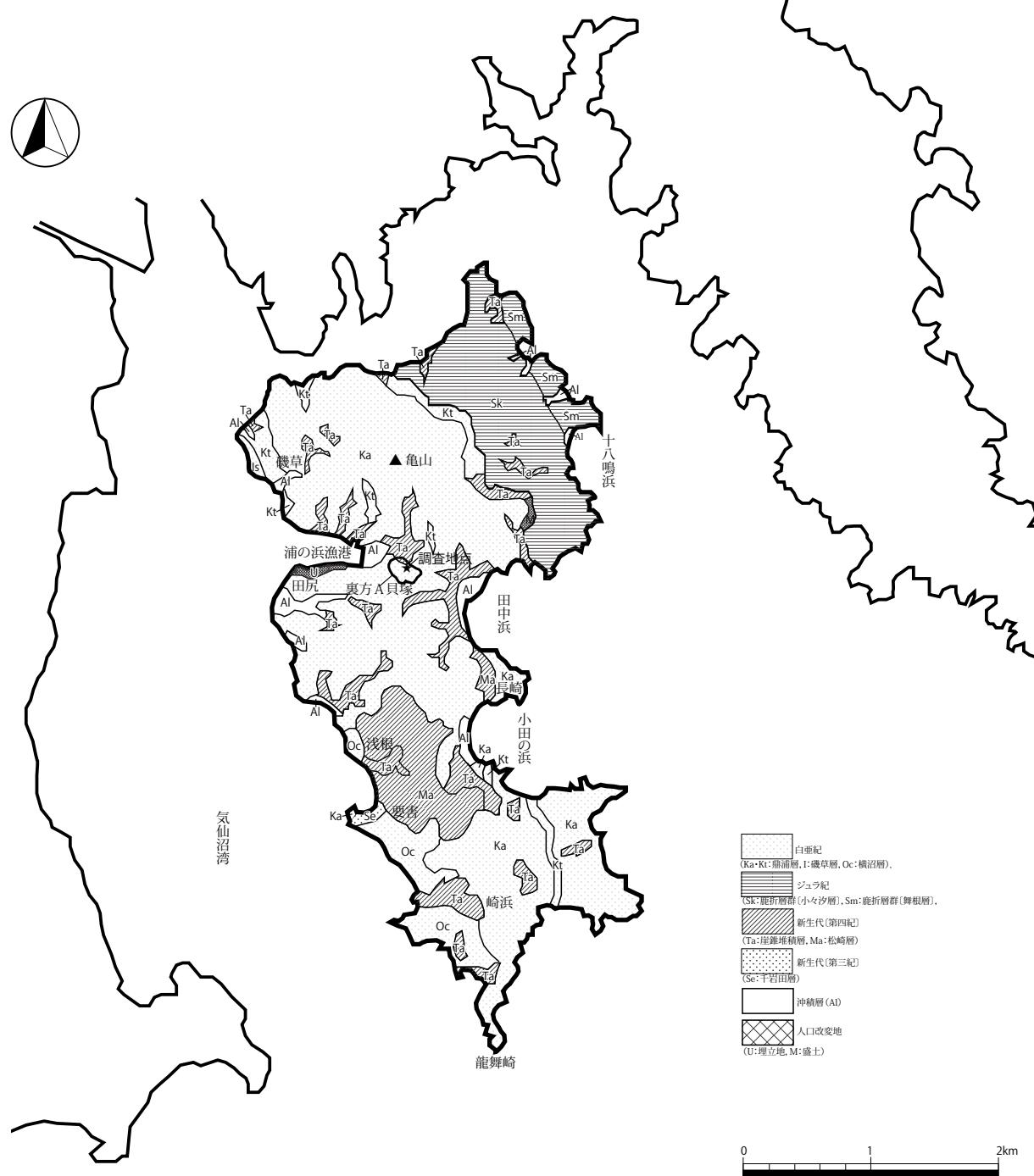


第6図 調査地点位置図 (S=1/10,000)

部は隆起海岸のため直線的であるが、岩手県宮古市以南は沈降地形で、湾と岬が交互に連続する海岸となっている。特に、大船渡湾以南は沈降と隆起を繰り返したため、海岸線に沿って平らな丘陵が並ぶ海岸段丘を形成している。

裏方A貝塚は、気仙沼湾に浮かぶ大島に所在する。大島は、全周約24.3kmを測る東北地方最大の島である。本遺跡は、大島の中央やや北寄り、浦の浜に面した丘陵上（標高約24m）に立地する（第6図）。調査地点は、丘陵北側端部にあたる。

地質をみると、気仙沼を含む北上山地一帯は、古生代から新生代に至るまで、古い時代



第7図 気仙沼市地形区分図【大島】(S=1/50,000)
(宮城県気仙沼市(1988)『気仙沼市表層地質分類図』を元に作成)

から新しい時代の地層が揃っている地域として、地質学上重要な地域とされている。そのなかで、大島においては、亀山から田中浜を結ぶ東側に中生代ジュラ紀の鹿折層群、亀山の西半分から田中浜、小田の浜から南端の龍舞崎にかけては中生代白亜紀の噴出岩層（輝石安山岩）である鼎浦層がみられる。鼎浦層は、小田の浜以南から龍舞崎にかけてもみられ、また、西海岸の駒形・横沼周辺には同じ白亜紀の横沼層で形成されている。さらに、浅根・要害周辺は新生代第四紀の松崎層で形成されている（第7図）。

第2節 歴史的環境と周辺の遺跡

気仙沼市には、181の遺跡が登録されている（令和3年1月31日現在）。そのうち、調査地周辺の遺跡を第8図に示した。裏方A貝塚が所在する大島には、本遺跡を含め、9遺跡が登録されている（1～9）。本市に所在する遺跡の特徴のひとつとして、中世の城館跡と縄文時代の貝塚が多いことがあげられる。中世の城館跡は82遺跡、縄文時代の貝塚は19遺跡を数える。そのうち、大島では、城館跡が2遺跡（大島古館跡（8）、高谷館跡（9））、貝塚が3遺跡（裏方A貝塚（1）、磯草貝塚（2）《市指定史跡》、駒形貝塚（3））である。

○縄文時代

縄文時代の遺跡は、前述した大島の3貝塚のほか、浦島貝塚（11）、藤ヶ浜貝塚（17）《いざれも市指定史跡》、古館貝塚（19）が気仙沼湾に面して立地している。また、気仙沼湾のやや内湾に内の脇1号貝塚（13）、内の脇2号貝塚（14）、南最知貝塚（15）《いざれも市指定史跡》、田柄貝塚《出土品のうち、骨角器730点が国重要文化財（考古資料）指定》、高谷貝塚（16）などの貝塚が所在している。

裏方A貝塚付近では、市道を挟んで南側に裏方B遺跡（4）が接しており、北東には浦の浜遺跡（5）《市指定史跡》が隣接している。いざれも発掘調査で遺構は検出されていないが、浦の浜遺跡ではかつて開田した際に大量の縄文土器が出土したとされており、市指定史跡に指定されている。

近年の発掘調査においては、緑館遺跡（21）、高谷遺跡（27）、杉の下貝塚（12）、台の下遺跡、台の下貝塚、波怒棄館遺跡などで縄文時代の遺構・遺物が検出されている。

○弥生時代・古墳時代

市内で弥生時代・古墳時代の遺跡は少ない。弥生時代の遺構はこれまで検出されておらず、藤ヶ浜貝塚や田柄貝塚で少量の弥生土器が出土した程度である。古墳時代の遺跡は、本吉町に三島古墳群、卯名沢古墳群、寺谷古墳群が知られている。三島古墳群は現在8基が残存しているが、かつては21基あったといわれている。明治時代末期、宅地造成の際に多量の玉類が出土し、現在は東京国立博物館に所蔵されている。

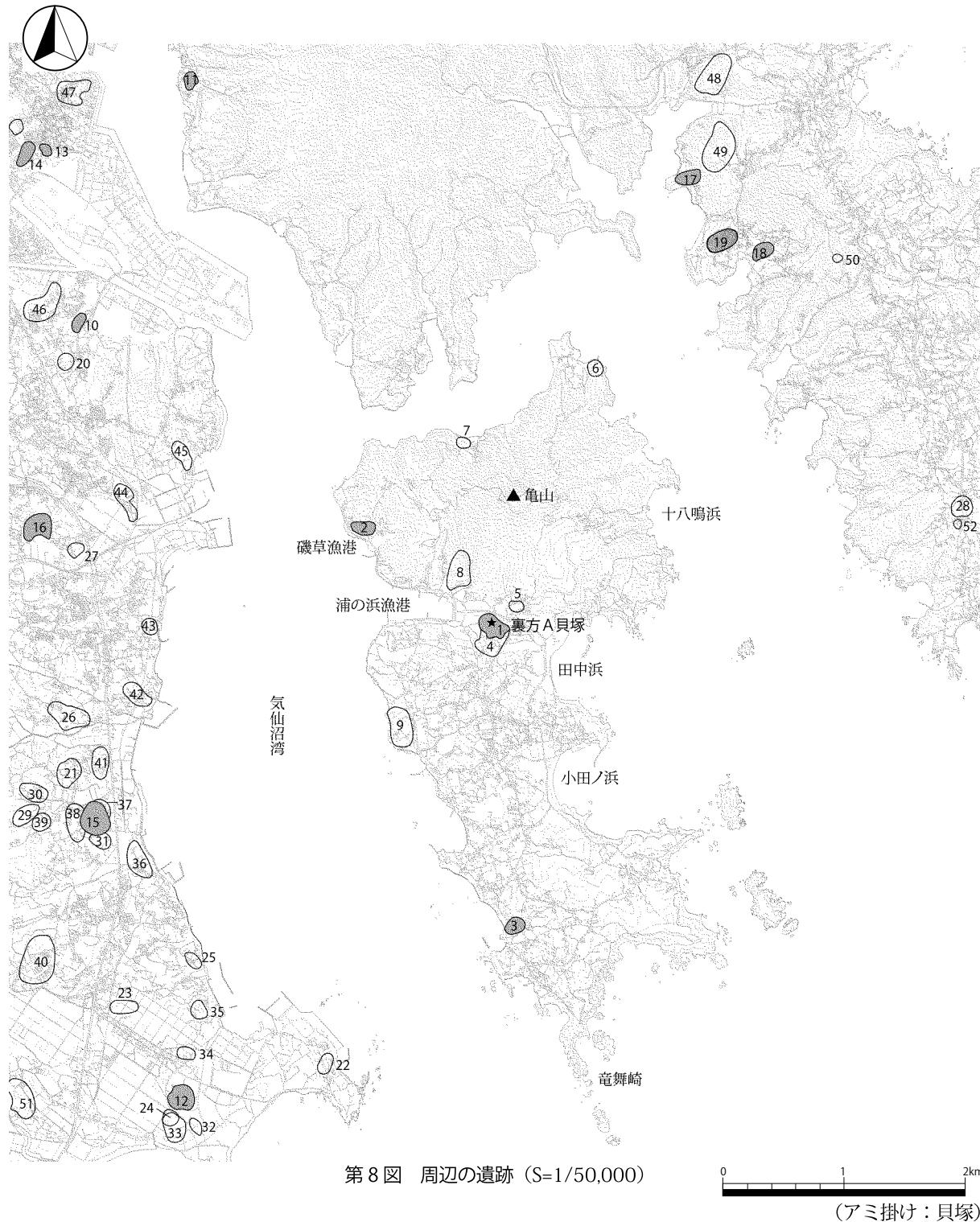
○古代

かつては、市内の古代遺跡も多くはないとされてきた。しかし、近年の発掘調査において、緑館遺跡（21）、南最知貝塚（15）、星谷遺跡（26）、杉の下貝塚（12）、波路上西館跡（33）などで古墳時代後期～平安時代の竪穴建物跡が検出されている。

また、市内北部の塚沢横穴墓群（塚沢A地区横穴墓群・塚沢B地区横穴墓群）では昭和50年の発掘調査で人骨や副葬品が出土している。8～9世紀に造営されたものと推定されており、太平洋沿岸で最北の横穴墓である。

○中世

気仙沼地域は、貞応2（1223）年に熊谷直宗が下向して以来、熊谷氏が治めていたが、



正平18・貞治2（1363）年に葛西氏に降って以後、熊谷氏は葛西氏に臣従して葛西氏の勢力下に入ることとなった。当初は赤岩城を居城としていたが、天文2（1533）年に葛西氏の命により熊谷直光が氣仙沼熊谷氏を討伐し、長崎城が熊谷氏の本城となった。

市内には多くの城館跡が知られているが、これまでの発掘調査で遺構・遺物が検出された城館跡は、猿喰東館跡（41）、小屋館城跡（44）、陣山館跡、谷地館跡、津谷館跡のみである。また、文献史料でも記載されていない城館が多いが、有力な武士の屋敷も「館」といっていたことに起因するものと想定できる。江戸時代の延宝年中（1673－1680）に仙台藩より幕府へ書き上げた『仙台領古城書上』には現在の気仙沼市内に該当する城館跡は17城のみである。大島に所在する大島古館、高谷館についての記載はみられない。しかし、高谷館については、『大島村風土記御用書出』（安永風土記）に、

第5表 周辺の遺跡一覧

No.	遺跡名	遺跡番号	所在地	種別	時代	備考	No.	遺跡名	遺跡番号	所在地	種別	時代	備考
1	裏方A貝塚	59019	浦の浜	貝塚	縄文（前・中・晚）	調査地	29	海蔵寺遺跡	59022	最知南最知	集落	古代	
2	磯草貝塚	59001	磯草	貝塚	縄文（後・晚）	市史跡	30	海蔵寺北遺跡	59023	最知南最知	集落	古代	
3	駒形貝塚	59018	駒形	貝塚	縄文（後・晚）		31	長磯高遺跡	59025	長磯後沢	散布地	古代	
4	裏方B遺跡	59090	浦の浜	散布地	縄文（前・中）		32	杉の下南遺跡	59096	波路上杉ノ下	散布地 集落	古代	
5	浦の浜遺跡	59005	浦の浜	散布地	縄文（晚）	市史跡	33	波路上西館跡	59036	波路上杉ノ下	城館跡	中世	
6	外浜遺跡	59021	外浜	散布地	縄文		34	波路上東館跡	59037	波路上杉ノ下	城館跡	中世	
7	葡萄遺跡	59020	亀山	散布地	縄文（晚）		35	堀合館跡	59038	波路上内田	城館跡	中世	
8	大島古館跡	59085	磯草	城館跡	中世		36	森館跡	59039	長磯森	城館跡	中世	
9	高谷館跡	59086	大向	城館跡	中世		37	末永館跡	59040	最知南最知	城館跡	中世	
10	松岩貝塚	59002	赤岩老松	貝塚	縄文（後・晚）		38	最知中館跡	59041	最知南最知	城館跡	中世	
11	浦島貝塚	59003	大浦	集落 貝塚	縄文（前～晚）	市史跡	39	塚館跡	59042	最知南南最知	城館跡	中世	
12	杉の下貝塚	59030	波路上杉ノ下	貝塚 集落	縄文		40	南最知城跡	59043	長磯中原・原ノ沢	城館跡	中世	
13	内の脇1号貝塚	59033	幸町	貝塚	縄文（中・後）	市史跡	41	猿喰東館跡	59045	最知北最知	城館跡	中世	
14	内の脇2号貝塚	59014	南ヶ丘	貝塚	縄文（前）	市史跡	42	相馬館跡	59046	岩月台ノ沢	城館跡	中世	
15	南最知貝塚	59035	最知南最知	貝塚 集落	縄文（前・中）・古墳	市史跡	43	八幡館跡	59047	岩月千岩田	城館跡	中世	
16	高谷貝塚	59094	松崎高谷	貝塚	縄文		44	小屋館城跡	59049	松崎中瀬	城館跡	中世	
17	藤ヶ浜貝塚	63001	唐桑町宿浦	貝塚	縄文（前・中・晚）・弥生	市史跡	45	大館跡	59050	松崎片浜	城館跡	中世	
18	長浜貝塚	63003	唐桑町鮪立	貝塚	縄文（前・後・晚）		46	館森館跡	59051	赤岩館森	城館跡	中世	
19	古館貝塚	63017	唐桑町鮪立	貝塚	縄文（前～後）		47	細浦城跡	59066	柏崎	城館跡	中世	
20	老人の松遺跡	59004	赤岩老松	集落	縄文（後）		48	唐桑城跡	63004	唐桑町宿浦	城館跡	中世	
21	緑館遺跡	59024	最知北最知	集落	縄文（中）・古墳（後）・古代		49	南館跡	63007	唐桑町宿浦	城館跡	中世	
22	岩井崎遺跡	59029	波路上岩井崎	散布地	縄文		50	黒船番所跡	63018	唐桑町中	番所	近世	
23	内田遺跡	59095	波路上内田	散布地	縄文		51	堀合館跡	62007	本吉町後田	城館跡	中世	
24	波路上西遺跡	59097	波路上杉ノ下	散布地	縄文		52	崎浜遺跡	63019	唐桑町崎浜	塚	中世	
25	長磯浜遺跡	59100	長磯浜	散布地	縄文								
26	星谷遺跡	59104	岩月星谷	集落	縄文・古代								
27	高谷遺跡	59109	松崎高谷	散布地	縄文								
28	大日遺跡	63020	唐桑町大日	散布地	縄文								

高谷館 高サ六丈餘 東西一九間 南北二七間

右館ハ先年当村市左衛門先祖菊田越中居住候処ニ御座候

右館地ハ當時畠ニ罷成高井屋敷ト申唱候事

と記されている。応永4（1397）年4月に菊田義直が大島一村を与えられ、高谷館を築いて大島を治めた。その後菊田氏は田尻下に屋敷を構え、高谷館は畠地となった。

なお、大島には、「館の沢」、「廻館」など、「館」を想定させる地名もあり、その地にも館があった可能性も想定できるが、詳細は明らかでない。

第3章 発掘調査の成果

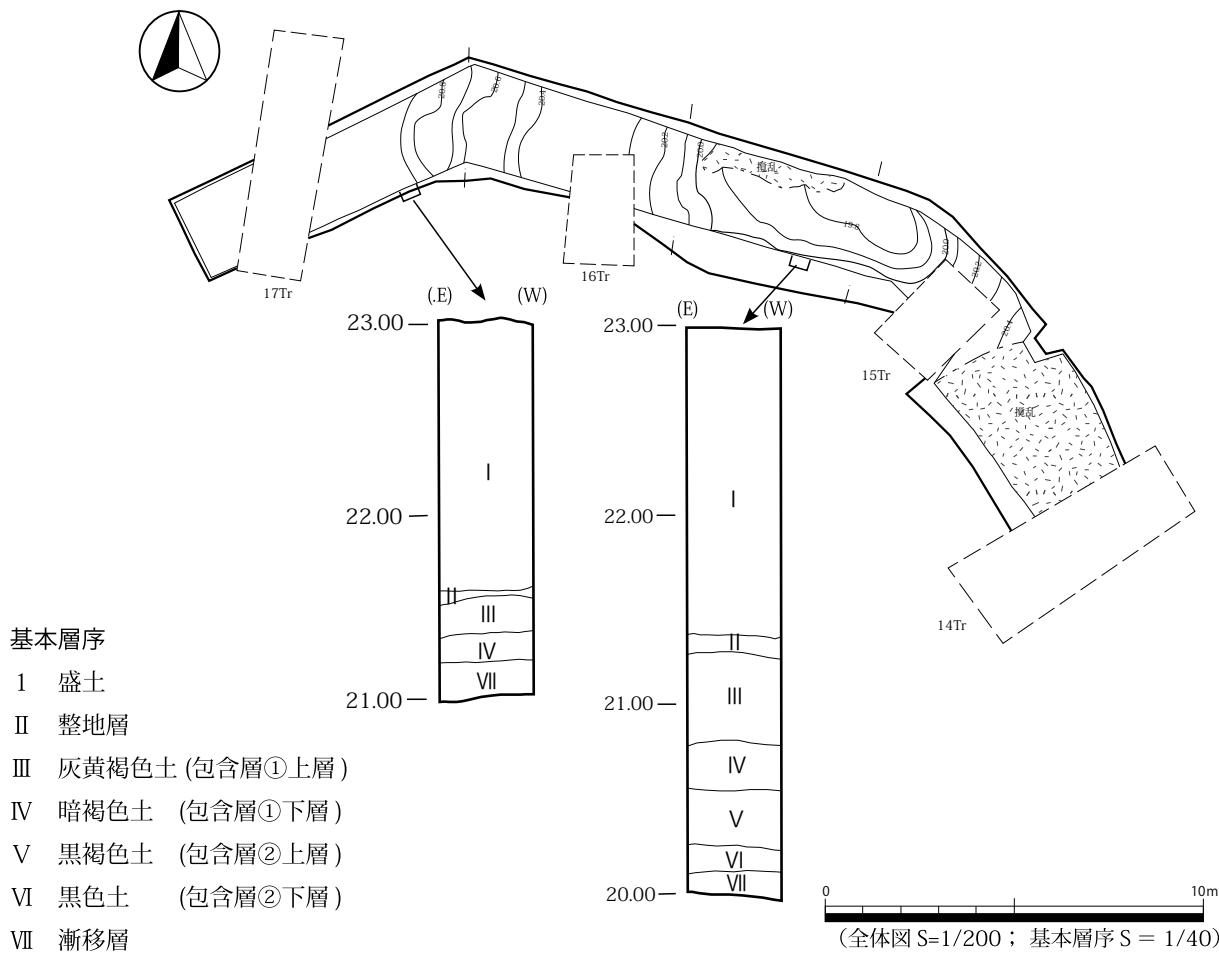
第1節 概要

1. 概観

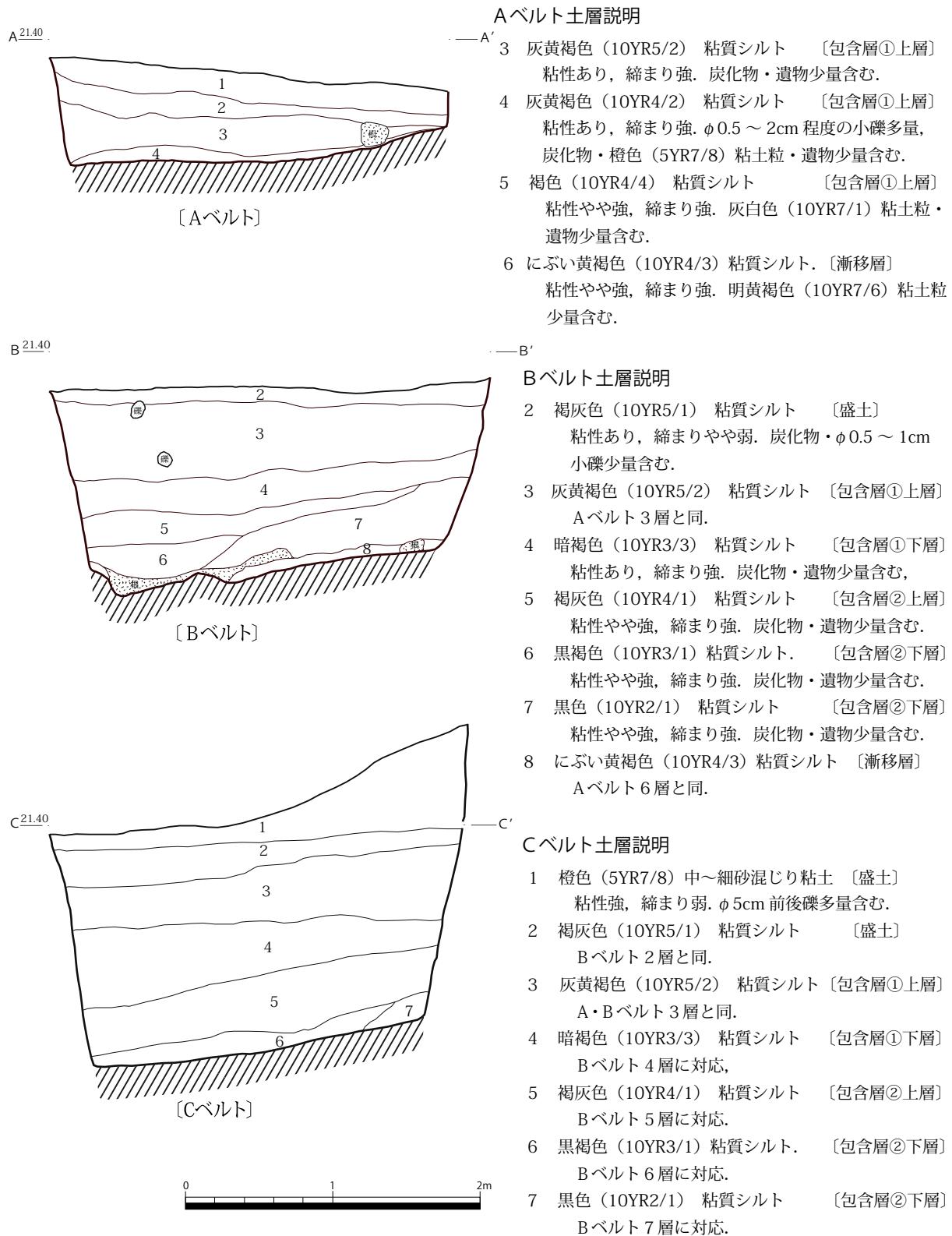
裏方A貝塚は、大島の西部の丘陵から斜面にかけて立地する縄文時代の貝塚で、遺跡の範囲は 250m × 150m の範囲と推定されている。また、北斜面に 2か所、南斜面に 1か所の貝層が分布しており、縄文時代中期を主体として、前期・晩期の遺物が出土している^(註1)。

近年、平成 8 年度に個人住宅、平成 16・29 年度に市道整備に伴う確認調査を遺跡の東側端で行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。また、平成 29 年度に丘陵の北側斜面下で防潮堤建設に伴う確認調査を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。これまでに調査を行った箇所は少なく、遺構・遺物は検出されていない。遺跡は、丘陵の北側縁辺から斜面にかけての比較的狭い範囲で遺存しているのかも知れない。

今回の調査において遺構は検出されなかったが、遺物包含層が検出され、多量の遺物が出土した。遺物包含層は、上層の包含層①および下層の包含層②で若干異なる様相を呈している。遺物包含層より出土した遺物は、遺物包含層①・②合わせて縄文土器 12,406 点、



第9図 調査区全体図および基本層序



第10図 調査区土層堆積状況



写真 16 Aベルト土層堆積状況（西から）



写真 17 Bベルト土層堆積状況（東から）



写真 18 Cベルト土層堆積状況（西から）



写真 19 調査区全景【西側】（西から）



写真 20 調査区全景【中央】（南から）



写真 21 調査区全景【東側】（東から）



写真 22 遺物出土状況【石器】（包含層①上層）



写真 23 遺物出土状況【土器】（包含層①下層）

石器 575 点を数える。その内訳は、第 6・7 表のとおりである。

なお、調査にあたっては、3か所にベルトを設定し、区域分けを行った。各区域ごとにベルトおよびサブトレーンチで色調などを観察しながら、およそ 20cm 前後を基本として、面的に掘り下げた。遺物の取上げは、包含層①上層・下層・包含層②上層・下層に分けて一括取上げとした。ベルトは、層位ごとに取り上げたが、時間の制約等により 2 層一括で

第6表 出土遺物数量表(1) [縄文土器]

	地区	出土地点	層位	土器				地区	出土地点	層位	土器		
				口縁	底部	破片					口縁	底部	破片
包含層① 上層	A	Aベルト	3層	4	1	43	包含層② 上層	C	Bベルト	5層	0	6	36
	A	Aベルト	4層	18	5	107		D	Cベルト	5層	9	2	56
	A	Aベルト	5層	9	9	94		B	南壁	5層	0	1	1
	C	Bベルト	2・3層	31	12	340		B	包含層②	上層	2	3	59
	A	包含層①	上層	225	91	2,784		C	包含層②	上層	51	52	568
	B	包含層①	上層	73	38	933	小計			62	64	720	
	C	包含層①	上層	49	12	792	包含層② 下層	C	包含層②	下層	1	0	19
	D	包含層①	上層	0	1	19		小計			1	0	19
	小計			409	169	5,112	包含層② 下層	C	Bベルト	5・6層	17	5	127
包含層① 下層	C	Bベルト	4層	69	28	679		D	Cベルト	5・6層	17	3	131
	D	Cベルト	4層	9	4	86		小計			34	8	258
	C	南壁	4層	4	1	15	包含層① 下～②	B	サブトレ		6	3	56
	A	包含層①	下層	0	0	5		C	サブトレ		9	3	62
	B	包含層①	下層	209	103	2,074		小計			15	6	118
	C	包含層①	下層	321	168	3,320				12,406			
	小計			612	304	6,179							
包含層①	D	Cベルト	3・4層	55	27	584							
	小計			55	27	584							

第7表 出土遺物数量表(2) [石器]

出土地点	石鏃	石槍	石匙	石錐	石笠	磨製石斧	打製石斧	磨石	敲石	磨敲石	石皿	砥石	凹石	石核	剥片	石製品	
包含層①上層	9	3	4	1		1		22	1	14	2	7	2	2	159		解体具10, 切断具6, 台石1, 不定形石器7
包含層①下層	8		3	4	3	3	1	24	3	24	3	11		2	102		解体具5, 切断具1, 不定形石器4
包含層①	2			1			2	8		10		3	1	1	44		不定形石器1
包含層②上層	1	1				1	1	3		1		1			8		解体具3, 切断具1, 不定形石器1
包含層②下層															1		
包含層②								7		1				1	5		不定形石器1, 台石1
包含層①下層～②								3				2			5	1	
盛土 (I層)					1			2		1		1			9		不定形石器1
表採	1		1			1									16	1	楔形石器1
合 計	21	4	8	6	4	6	4	61	4	51	5	25	3	6	349	2	楔形石器1, 解体具18, 切断具8, 不定形石器15, 台石2

合 計 611点

取上げを行った箇所もある。そのため、一部の遺物は、包含層①下層～包含層②上層、包含層②上層～下層と、混在することとなった。

2. 基本層序

基本層序は、A区およびD区の南壁で確認した（第9図）。層序を大別すると、後世の盛土（I・II層）、包含層①（III・IV層）、包含層②（V・VI層）である。

A区は、包含層①の下層が漸移層であり、包含層②は確認されなかった。A区とD区の比高差は約1mを測り、D区の基本層序確認地点付近からさらに北側に向かって傾斜している。

第2節 検出された遺構と遺物

遺物包含層

調査区内で最大厚おおよそ1.2mを測る遺物包含層が検出された。堆積状況の様相を把握するため、C区にサブトレンチを掘削した。その結果、2種類の様相を異にする遺物包含層が認められた（以下、上層の遺物包含層を「包含層①」、下層の遺物包含層を「包含層②」という。）。

包含層①は遺物を大量に含み、大別すると灰黄褐色土を基調とする上層および暗褐色土を基調とする下層に分かれる。包含層②は、包含層①と比し遺物が少なく、黒褐色土を基調とする上層および黒色土を基調とする下層に分かれる。

縄文土器

遺物包含層から12,406点検出された（第6表）。そのうち、49.8%にあたる6,179点が包含層①下層で検出された。また、41.2%にあたる5,112点が包含層①上層で検出された。すなわち、全体の91.0%（11,291点）が包含層①で検出されている。

石器

遺物包含層から575点検出された（第7表）。そのうち、43.7%にあたる251点が包含層①上層、35.0%にあたる201点が包含層①下層で検出された。すなわち、全体の91.3%（525点）が包含層①で検出されている。器種別にみると、剥片が最も多く57.4%（349点）、次いで磨石11.7%（67点）、磨敲石8.7%（50点）等である。

〔包含層①上層〕

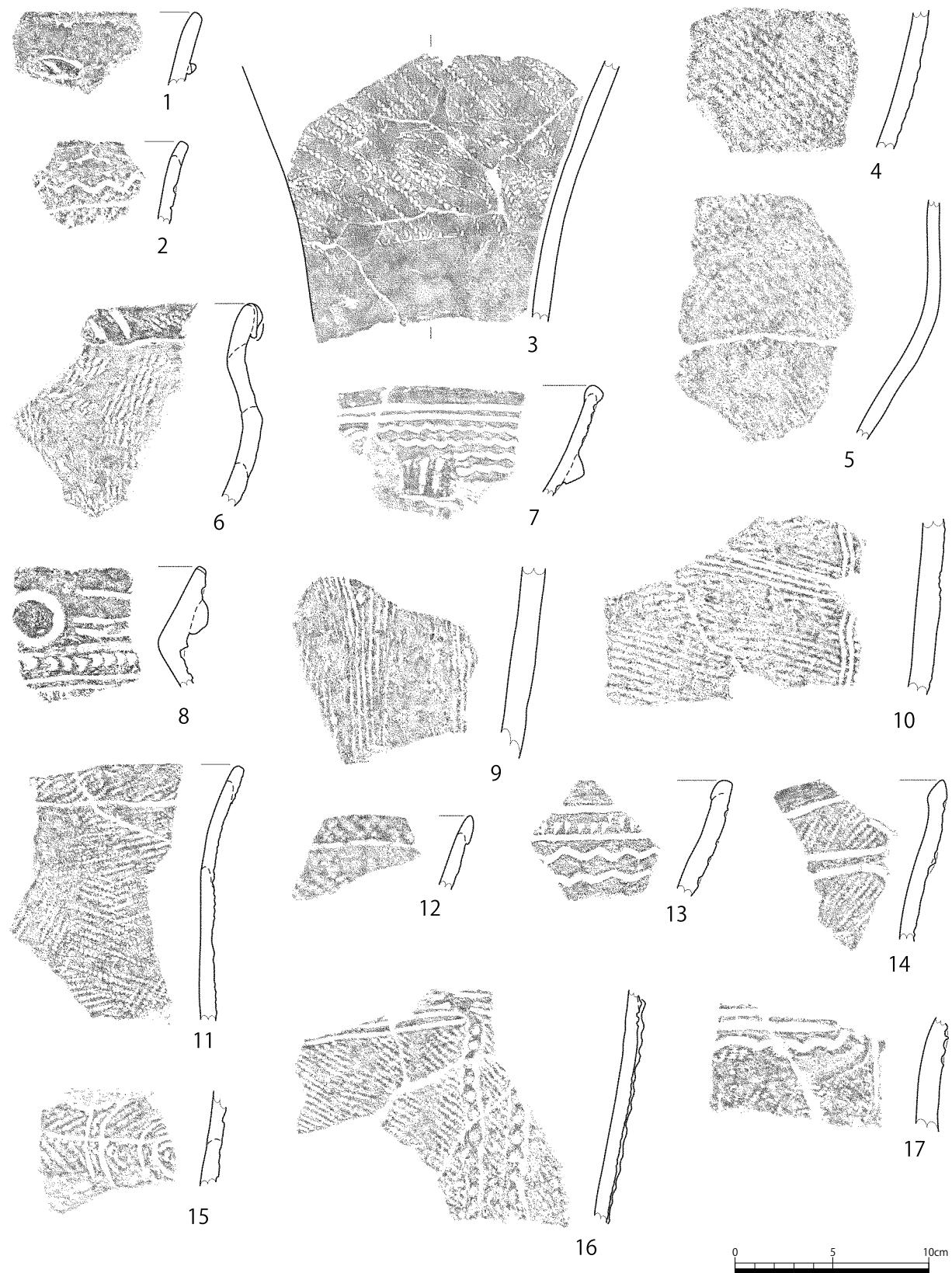
包含層①上層では5,112点の縄文土器片が検出された。そのうち、24点を図示した。上層で検出された縄文土器は、点数は多いものの、細片が多く、また、摩耗しているもののが多かったため、図示し得る遺物は少なかった。

第11図1～10は前期に帰属するもので、1～5が大木3式、6～10が大木6式に比定される。また、第11図11～第13図24が中期に帰属するもので、11～13が大木7a式、14～17が大木7b式、18～23が大木8a式、24が大木8b式に比定される。

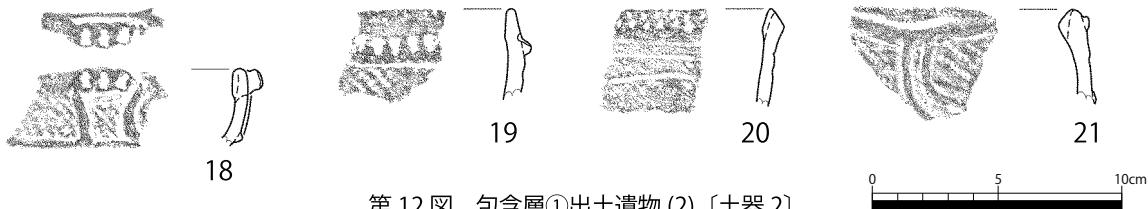
縄文土器は、大木3式から大木8b式が混在して検出された。すべての土器を分類した訳ではないが、大木7式から大木8式が多くみられる傾向が認められた。次いで前期の大

【土器】

包含層①上層



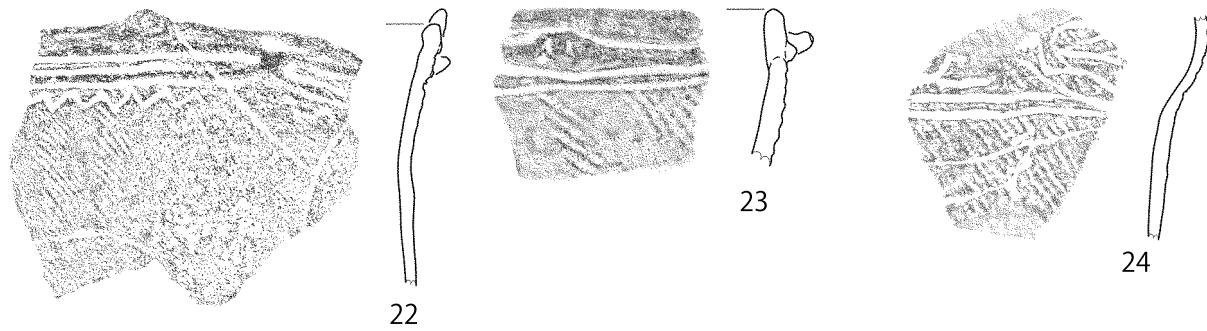
第11図 包含層①出土遺物(1) [土器1]



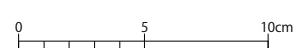
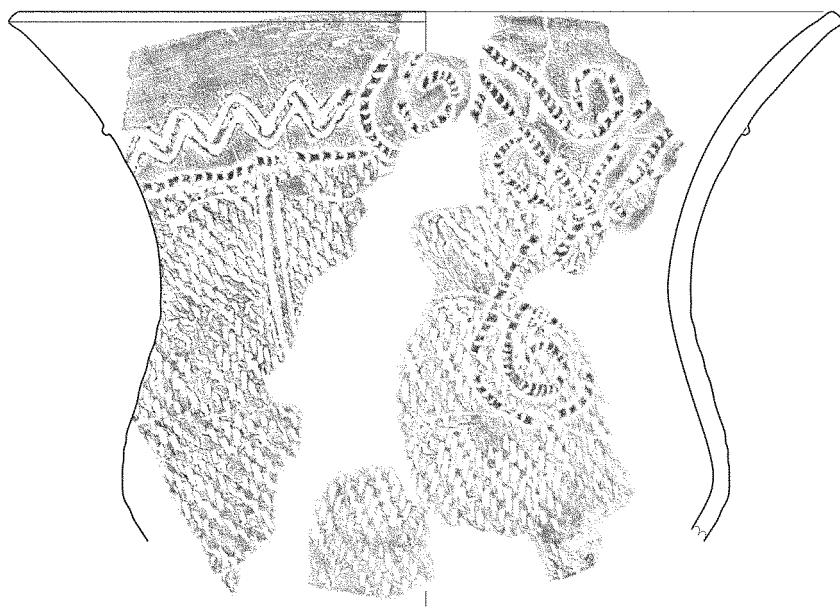
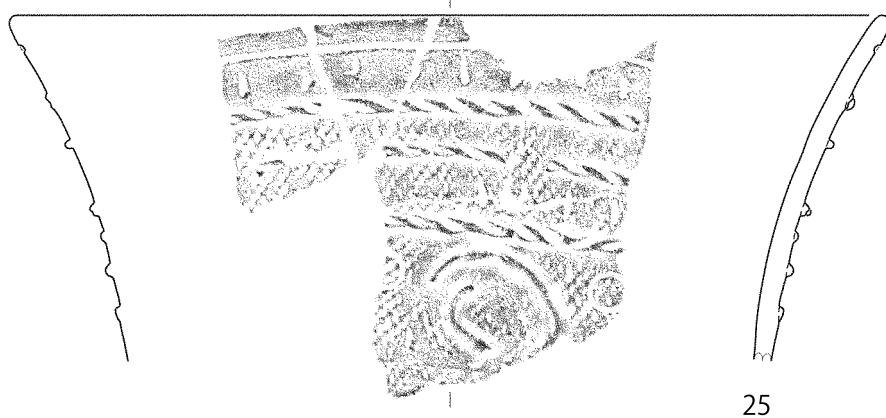
第12図 包含層①出土遺物(2) [土器2]

第8表 包含層①出土遺物観察表(1) [土器1]

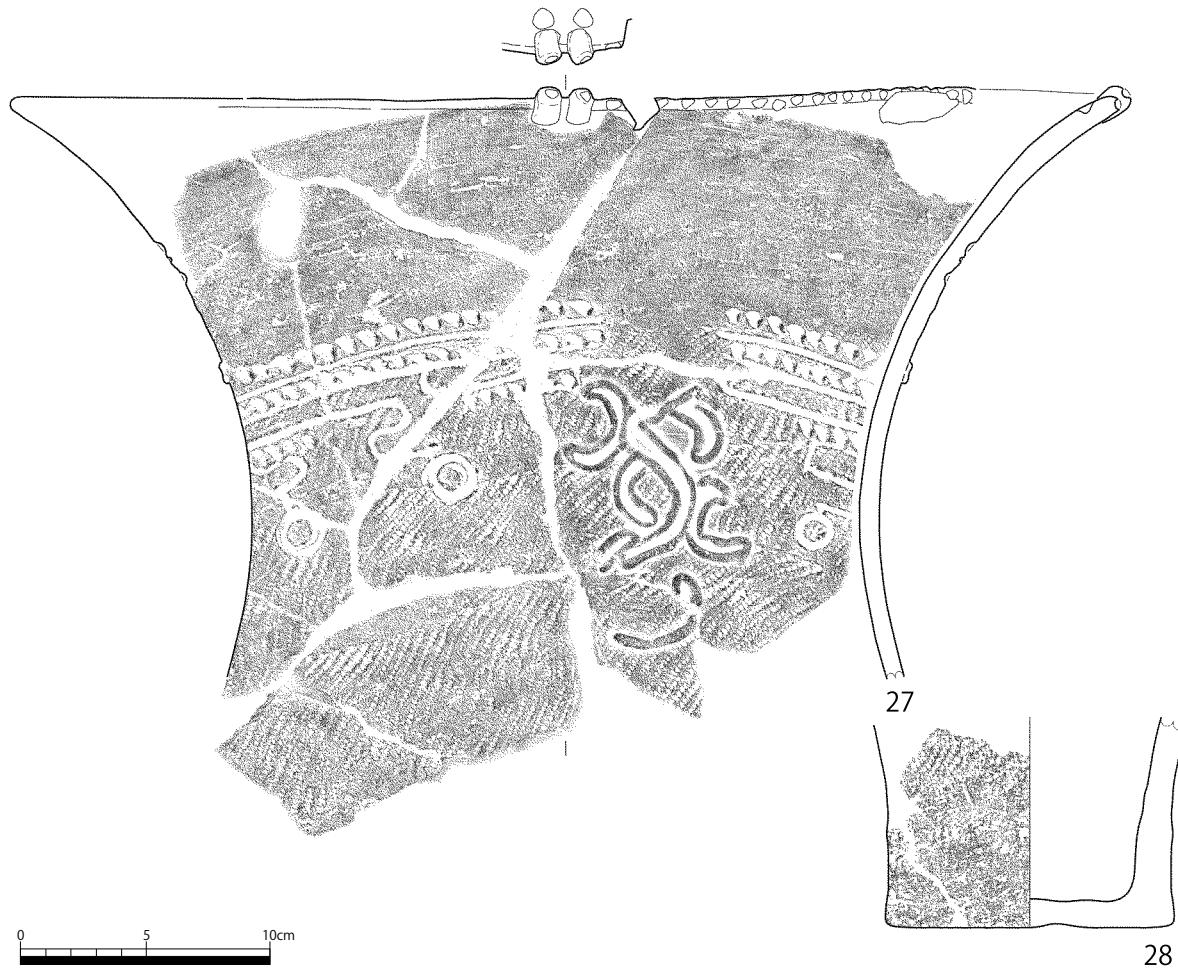
図番号	写真番号	出土地点	層位	器種 部位	法量 (cm)	特徴	胎土	焼成	色調	時期 (型式)	備考
11-1	24-1	A区 Aベルト	4層	深鉢 口縁部		粘土紐貼付(キザミ有),ヨコミガキ	金雲母(多),砂粒(少),白色軟質砂岩粒	良好	暗褐色	前期 (大木3式)	煤付着
11-2	24-2	A区 Aベルト	5層	深鉢 口縁部		縄文LR→ヘラ描鋸歯文・ヘラ描直線文	砂礫・白色軟質砂岩粒(多)	良好	黄褐色	前期 (大木3式)	
11-3	24-3	C区 Bベルト	2・3層	深鉢 胴部		縄文RL→織維結束	砂粒・白色軟質砂岩粒(少)	良好	外:橙褐色 内:黒褐色	前期 (大木3式)	内面煤付着
11-4	24-4	A区 Aベルト	5層	深鉢 胴部		縄文RL	石英・白色軟質砂岩粒(多)	良好	黄褐色	前期 (大木3式)	内外面一部煤付着 摩耗顯著
11-5	24-5	A区 包含層①	上層4	深鉢 胴部		縄文RL	砂礫粒・白色軟質砂岩粒(多)	良好	外:黄褐色 内:暗褐色	前期 (大木3式)	外:摩耗顯著 内:一部煤付着
11-6	24-6	A区 Aベルト	5層	深鉢 口縁部		折返口縁:縄文L→竹管沈線【折返部】無節縄文Lr	砂粒・白色軟質砂岩粒(少)	良好	外:黒褐色 内:褐色	前期 (大木6式)	内外面一部煤付着
11-7	24-7	A区 包含層①	上層4	深鉢 口縁部		竹管沈線(直線2条,波状4条),貼付突起(縦位沈線有)	砂粒(少)	良好	外:暗褐色 内:黄褐色	前期 (大木6式)	内外面煤付着
11-8	24-8	A区 Aベルト	4層	深鉢 口縁部		押圧【口唇部】竹管沈線(直線)3条,半截竹管2条,竹管小口側面刺突,粘土貼付	砂粒・白色軟質砂岩粒(少)	良好	外:暗褐色 内:黄褐色	前期 (大木6式)	内外面一部煤付着
11-9	24-9	C区 Bベルト	2・3層	深鉢 胴部		板目状燃糸文L	砂礫粒・白色軟質砂岩粒(多)	良好	暗褐色	前期 (大木6式)	摩耗顯著
11-10	24-10	C区 Bベルト	2・3層	深鉢 胴部		縄文LR,半截竹管(横位直線4条,縦位蛇行2条)	砂礫粒・白色軟質砂岩粒(多)	良好	黄褐色	前期 (大木6式)	内外面摩耗顯著
11-11	24-11	A区 包含層①	上層1	深鉢 口縁部		縄文LR(多方向),ハケメ調整	雲母・砂礫粒(少)	良好	橙褐色	中期 (大木7a式)	
11-12	24-12	A区 包含層①	上層4	深鉢 口縁部		縄文RL	雲母・砂粒(少)	良好	外:橙褐色 内:黄褐色	中期 (大木7a式)	
11-13	24-13	A区 Aベルト	4層	深鉢 口縁部		竹管沈線(横位直線1条,横位波状2条),ヘラ刺突	砂粒(少)	良好	褐色	中期 (大木7a式)	内面一部煤付着
11-14	24-14	A区 包含層①	上層4	深鉢 口縁部		波状口縁:縄文L→竹管沈線(横位直線J字,逆J字)	砂粒(多),金雲母・白色軟質砂岩粒	良好	外:暗褐色 内:黒褐色	中期 (大木7b式)	内外面煤付着
11-15	24-15	A区 包含層①	上層2	深鉢 胴部		結束羽状縄文LR RL→半截竹管沈線(滿文)	雲母・砂粒(少)	良好	橙褐色	中期 (大木7b式)	
11-16	24-16	A区 包含層①	上層2	深鉢 胴部		縄文LR,半截竹管(横位直線4条),縦位粘土紐貼付(押圧有)	砂粒(少)	良好	橙褐色	中期 (大木7b式)	
11-17	24-17	A区 包含層①	上層2	深鉢 胴部		結束羽状縄文LR RL→竹管沈線(横位沈線2条,横位連弧文),粘土紐貼付	砂粒(少)	良好	橙褐色	中期 (大木7b式)	
12-18	24-18	C区 Bベルト	2・3層	深鉢 口縁部		口唇部に突起(押圧3か所),縄文RL,隆帶区画	白色軟質砂岩粒(微)	良好	橙褐色	中期 (大木8a式)	
12-19	24-19	C区 Bベルト	2・3層	深鉢 口縁部		縄文LR,縄文原体LR側面押圧,ヘラ描沈線(横位直線2条)	砂粒(多),雲母・白色軟質砂岩粒(少)	良好	橙褐色	中期 (大木8a式)	
12-20	24-20	C区 Bベルト	2・3層	深鉢 口縁部		縄文LR,縄文原体LR側面押圧,ヘラ描直線2条	雲母・砂粒(多),白色軟質砂岩粒(少)	良好	褐色	中期 (大木8a式)	摩耗顯著
12-21	24-21	C区 Bベルト	2・3層	深鉢 口縁部		縄文RL,粘土紐貼付,隆線2条	砂粒・白色軟質砂岩粒(少)	良好	外:暗褐色 内:橙褐色	中期 (大木8a式)	外面一部煤付着



包含層①下層



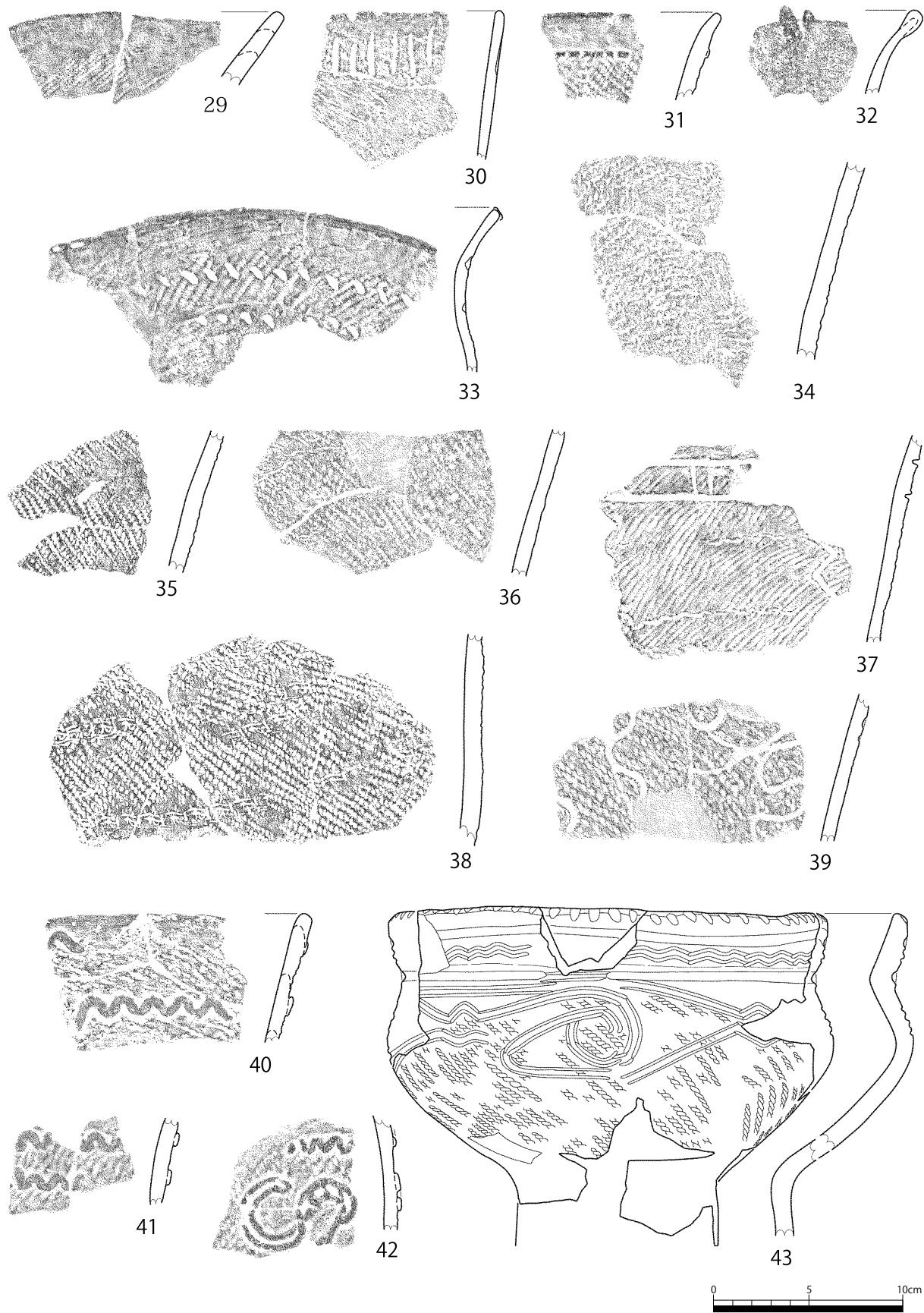
第13図 包含層①出土遺物(3)〔土器3〕



第14図 包含層①出土遺物(4)〔土器4〕

第9表 包含層①出土遺物観察表(2)〔土器2〕

図番号	写真番号	出土地点	層位	器種部位	法量(cm)	特徴	胎土	焼成	色調	時期(型式)	備考
13-22	25-22	A区 包含層①	上層1	深鉢 口縁部		縄文LR、粘土小塊貼付突起(上部に凹み)、ヘラ描(横位直線文3条、鋸歯文)	砂粒・白色軟質砂岩粒(少)、金雲母(微)	良好	黄褐色	中期 (大木8a式)	
13-23	25-23	C区 Bベルト	2・3層	深鉢 口縁部		縄文LR、磨消縄文、口縁下に貼付突起(隆線)、突帯の一部突出(縄文原体RL側面押圧3か所)、ヘラ描沈線(直線2条)	石英・砂粒・白色軟質砂岩粒(多)	良好	黄褐色	中期 (大木8a式)	外面摩耗顕著
13-24	25-24	A区 包含層①	上層1	深鉢 胴部		縄文LR→ヘラ描沈線(横位2条・多方向)	砂粒(少)	良好	褐色	中期 (大木8b式)	
13-25	25-25	C区 包含層①	下層3	深鉢 口縁～胴部	口径 35.1	縄文LR、ヘラ描沈線(横位)、縦長刺突と粘土紐貼付(棒状工具によるキザミ有)を交互に3段、管小口円文、粘土紐貼付渦文	小石・砂粒・白色砂岩粒(多)、赤色砂岩粒(少)	良好	黄褐色	前期 (大木3式)	外:一部煤付着
13-26	25-26	C区 包含層①	下層1	深鉢 口縁～胴部	口径 33.1	縄文RL、半截竹管沈線(鋸歯文)、細い貼付隆線(ヘラ状工具によるキザミ有)による直線文1条・縦長渦文	石英・微砂粒・白色軟質砂岩粒(多)	良好	暗褐色	前期 (大木3式)	
14-27	25-27	D区 Cベルト	3・4層	深鉢 口縁～胴部	口径 44.7	縄文LR、突起2か所(突起頂部・内面突起直下に円錐状刺突)、口唇部にヘラ刺突、貼付隆線(ヘラ状工具によるキザミ有)、ヘラ描沈線交互に3段、円文(3)、細い粘土紐貼付(S字状・三日月状)	雲母・砂礫粒・白色軟質砂岩粒(多)	良好	暗褐色	前期 (大木3式)	外面一部煤付着
14-28	25-28	C区 包含層①	最下層	深鉢 底部	底径 10.8	縄文LR、ヨコミガキ	小石・砂礫粒・白色軟質砂岩粒(多)、雲母(少)	良好	外:褐色 内:暗褐色	前期 (大木3式)	



第15図 包含層①出土遺物(5)〔土器5〕

木3式が検出された。

石器類は251点検出された。磨石・磨敲石で36点を占めるが、解体具が10点、石鏃が9点など、製品も多く検出された。検出された石器のうち、15点を図示した(第18～20図)。65～68は石鏃である。器形はいずれも基部が凹基であるが、包含層①上層で検出された石鏃はすべて凹基に分類できるものであった。また、68は剥片としたが、石鏃の未成品と推察できる。70は石槍である。包含層①上層で石槍は3点検出されているが、ほか2点は小破片であった。71は磨製石斧であるが、刃部が欠損したものである。79は玦状耳飾りである。当該調査で検出された唯一の装身具である。

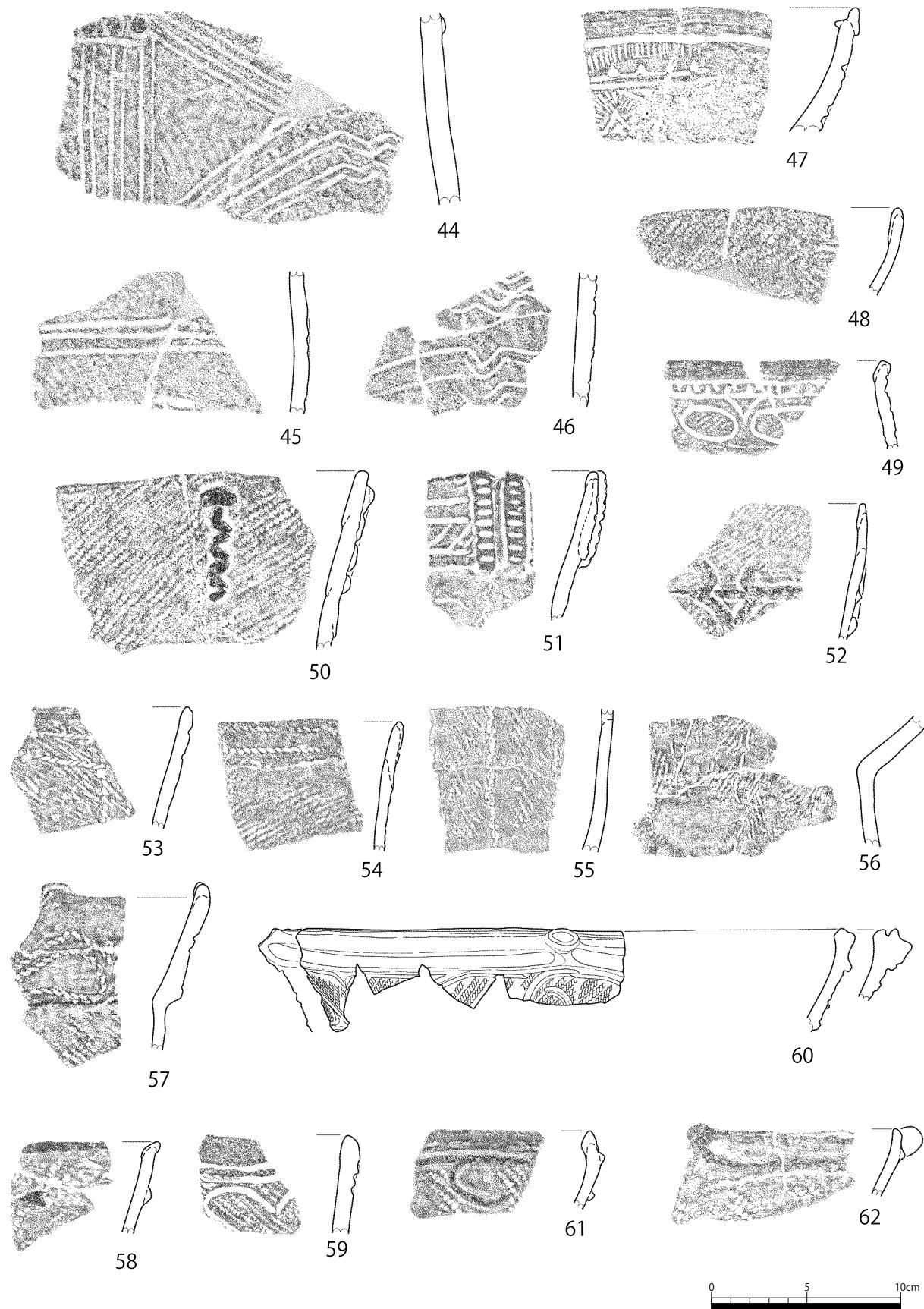
[包含層①下層]

包含層①下層では6,179点の縄文土器が検出された(第7表)。そのうち、39点を図示した。

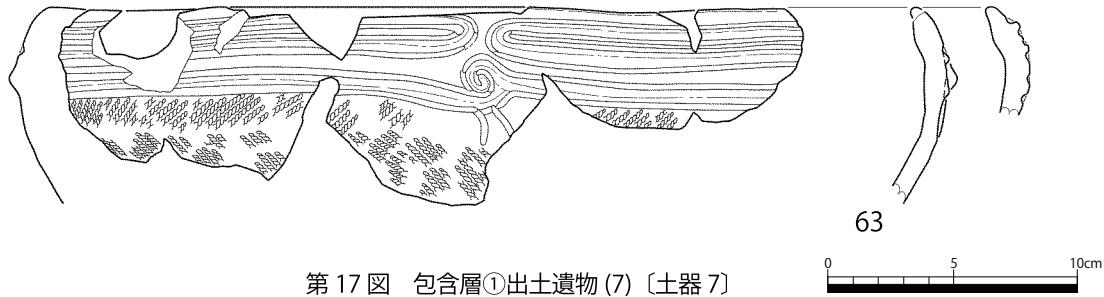
第13図25～第16図46は前期に帰属するもので、25～39が大木3式、40～42が大木4式、43～46が大木6式に比定される。また、第16図47～第17図63は中期に

第10表 包含層①出土遺物観察表(3) [土器3]

図番号	写真番号	出土地点	層位	器種 部位	法量 (cm)	特徴	胎土	焼成	色調	時期 (型式)	備考
15-29	26-29	D区 Cベルト	4層	深鉢 口縁部		無節縄文L 内面ヨコミガキ	石英・微砂粒(多),白色軟質砂岩粒(少)	良好	外:暗褐色 内:黄褐色	前期 (大木3式)	内外面一部 煤付着
15-30	26-30	B区 包含層①	下層2	深鉢 口縁部		縄文RL, 縦位ヘラ描 沈線 内面タテミガキ	石英(多),砂粒(少)	良好	暗褐色	前期 (大木3式)	内外面一部 煤付着
15-31	26-31	D区 Cベルト	4層	深鉢 口縁部		縄文RL, 口縁下に細い降線貼付(ヘラ状工具 貼付(ヘラ状工具によるキザミ有)	石英・砂粒(多)	良好	暗褐色	前期 (大木3式)	
15-32	26-32	C区 Bベルト	4層	深鉢 口縁部		外面から内面にかけて 口唇部を挟んで貼付2個1対	石英・小石(多),砂礫粒(少)	良好	橙褐色	前期 (大木3式)	内:一部煤付 着摩耗顯著
15-33	26-33	C区 包含層①	下層3	深鉢 口縁部		縄文LR, 口唇部ヘラ 押圧, ヘラ刺突列2段	雲母・長石・微砂粒(多)	良好	外:暗褐色 内:黒褐色	前期 (大木3式)	外面煤付 着
15-34	26-34	B区 包含層①	下層2	深鉢 胴部		縄文LR 内面ヨコミガキ	砂粒・白色軟質砂岩粒(多),石英(少)	良好	外:橙褐色 内:暗褐色	前期 (大木3式)	
15-35	26-35	C区 包含層①	下層2	深鉢 胴部		縄文RL 内面ヨコミガキ	石英・小石・微砂粒(多)	良好	外:橙褐色 内:黒褐色	前期 (大木3式)	
15-36	26-36	B区 包含層①	下層1	深鉢 胴部		縄文RL, 結節(織維) 内面ケズリ	石英・小石・砂粒(少)	良好	外:橙褐色 内:黄褐色	前期 (大木3式)	
15-37	26-37	C区 包含層①	下層2	深鉢 胴部		無節縄文L, 結節ir, ヘラ描沈線	石英・微砂粒(多),白色軟質砂岩粒(少)	良好	外:黒褐色 内:暗褐色	前期 (大木3式)	外面煤付 着
15-38	26-38	C区 南壁	4層	深鉢 胴部		縄文RL, 結節2条 内面ヨコミガキ	石英・小石(多),砂粒(少)	良好	外:黄褐色 内:暗褐色	前期 (大木3式)	内外面一部 煤付着
15-39	26-39	C区 包含層①	下層2	深鉢 胴部		縄文RL, 蛇行ヘラ描 沈線, 円文	石英・微砂粒(多),白色軟質砂岩粒(少)	良好	外:黒褐色 内:暗褐色	前期 (大木3式)	
15-40	26-40	B区 包含層①	下層3	深鉢 口縁部		縄文RL, 粘土紐貼付 (横位蛇行文2段)	砂粒・白色軟質砂岩粒(多),雲母(少)	良好	外:暗褐色 内:黄褐色	前期 (大木4式)	内外面一部 煤付着
15-41	26-41	C区 Bベルト	4層	深鉢 胴部		無節縄文L, 粘土紐貼付 (横位蛇行文2段)	石英・小石・砂粒(少)	良好	褐色	前期 (大木4式)	
15-42	26-42	C区 包含層①	下層1	深鉢 胴部		縄文LR, 粘土紐貼付 (横位蛇行文・S字状文)	砂粒(多),石英・小石(少)	良好	黄褐色	前期 (大木4式)	
15-43	26-43	C区 包含層①	下層	深鉢 口縁～胴部		縄文LR, 口唇部竹管 側面押圧, 半截竹管 (波状文・渦文)	小石(多),石英・砂粒(少)	良好	外:橙褐色 内:黒褐色	前期 (大木6式)	外:一部煤付 着 内:煤付着

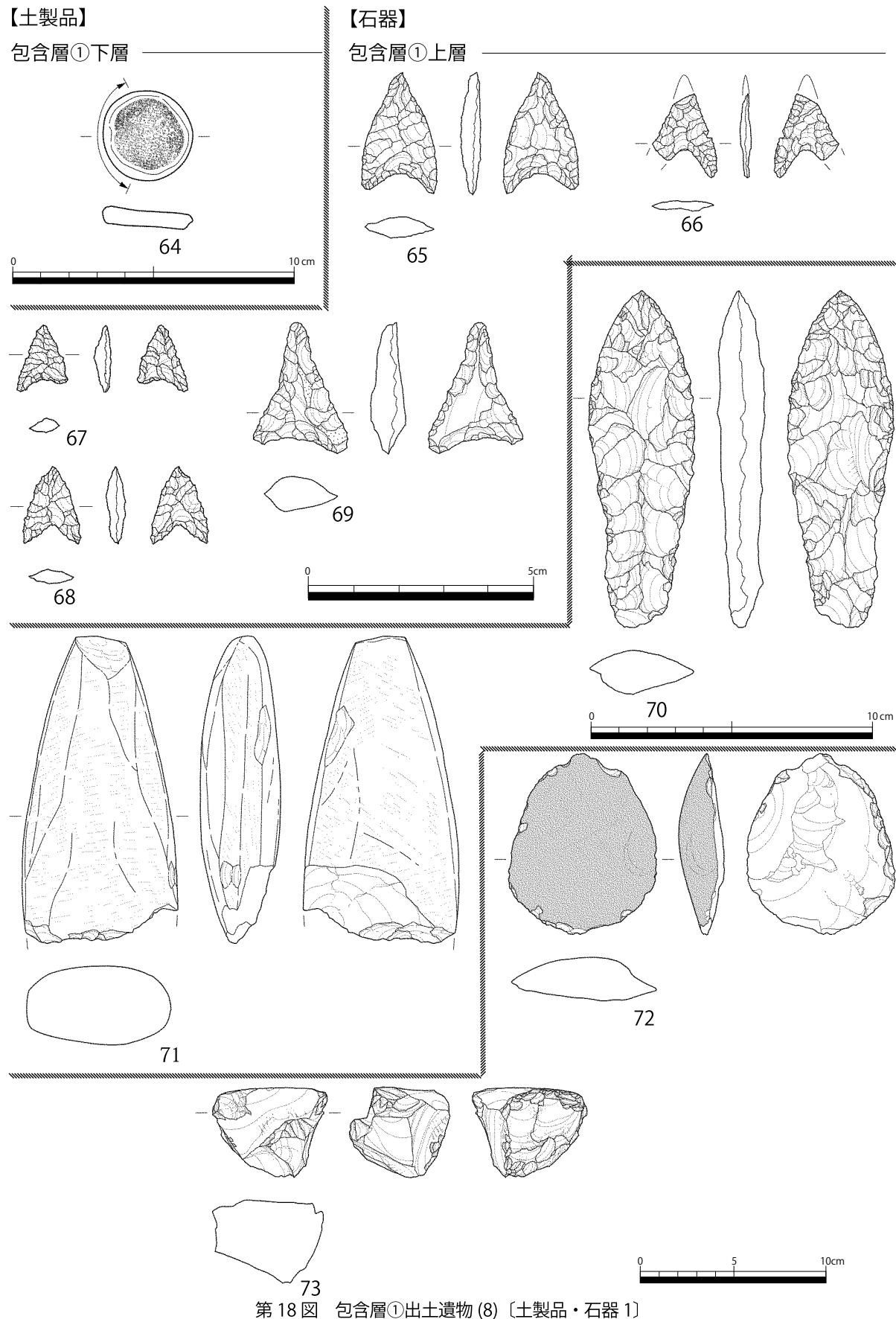


第16図 包含層①出土遺物(6)〔土器6〕



第11表 包含層①出土遺物観察表(4) [土器4]

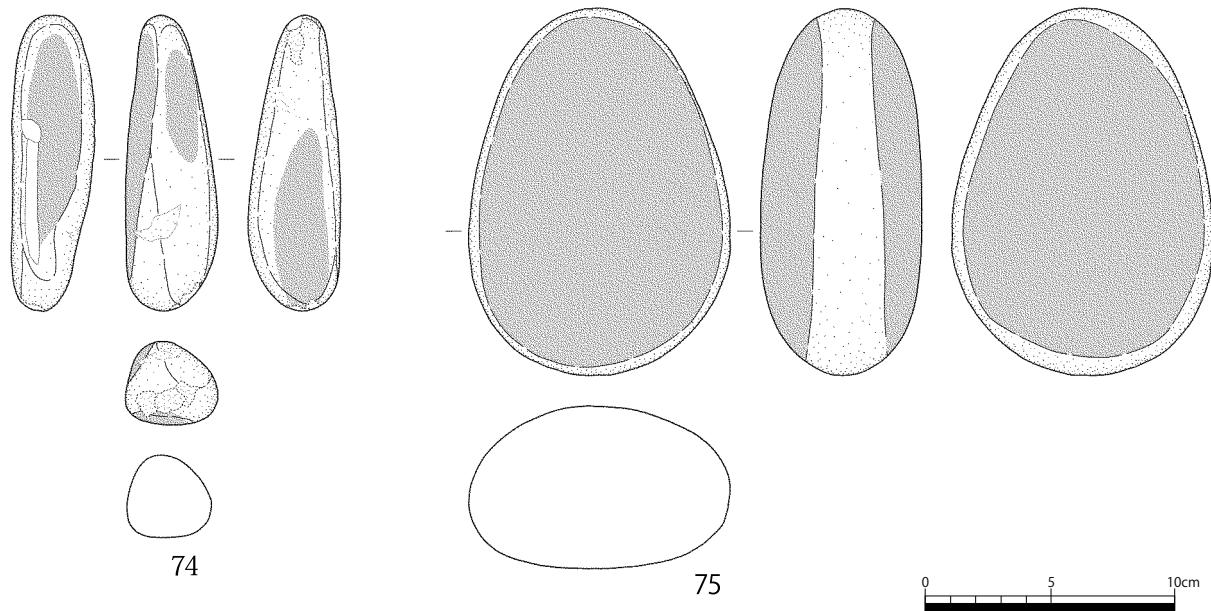
図番号	写真番号	出土地点	層位	器種部位	法量(cm)	特徴	胎土	焼成	色調	時期(型式)	備考
16-44	26-44	C区 包含層①	下層2	深鉢 胴部		縄文RL, 半截竹管による沈線3条で三角形を構成, 凹形浮文	石英・小石・砂礫粒(多)	良好	外:黄褐色 内:暗褐色	前期 (大木6式)	内外面一部煤付着
16-45	26-45	C区 Bベルト	4層	深鉢 胴部		縄文RL, 竹管沈線横位3条	石英・小石・砂礫粒(多)	良好	外:黄褐色 内:黒褐色	前期 (大木6式)	外:一部煤・ 内:煤付着 摩耗顯著
16-46	26-46	C区 包含層①	下層2	深鉢 胴部		半截竹管による沈線	石英・小石・砂礫粒(多)	良好	外:暗褐色 内:黒褐色	前期 (大木6式)	摩耗顯著
16-47	27-47	B区 包含層①	下層2	深鉢 口縁部		折返口縁; 竹管沈線, 三角搔取	雲母・砂粒・白色軟質砂岩粒(多)	良好	暗褐色	中期 (大木7a式)	外面一部煤付着
16-48	27-48	B区 包含層①	下層2	深鉢 口縁部		縄文LR	小石・砂粒(多), 雲母(少)	良好	明褐色	中期 (大木7a式)	
16-49	27-49	B区 包含層①	下層3	深鉢 口縁部		竹管沈線梢円区画内縄文LR, 橫結節R, 平行沈線内竹管小口側面交互刺突	石英・砂礫	良好	暗褐色	中期 (大木7a式)	外面煤付着
16-50	27-50	C区 包含層①	下層1	深鉢 口縁部		縄文LR, 横長粘土貼付突起, 突起から粘土紐貼付蛇行垂線	石英・小石・砂礫粒(多)	良好	外:黄褐色 内:橙褐色	中期 (大木7a式)	
16-51	27-51	C区 Bベルト	4層	深鉢 口縁部		棒状浮文(へラによる押圧有), へラ描沈線, 縱位結節Lr	雲母(多), 砂粒・白色軟質砂岩粒(少)	良好	暗褐色	中期 (大木7a式)	外:煤付着 内:一部煤付着 摩耗顯著
16-52	27-52	C区 Bベルト	4層	深鉢 口縁部		縄文LR, 口縁と体部境界に貼付隆線1条巡らす	金雲母・細砂粒(多)	良好	暗褐色	中期 (大木7a式)	内外面一部煤付着
16-53	27-53	C区 Bベルト	4層	深鉢 口縁部		無筋縄文RL, 縄文原体R側面押圧	金雲母・砂粒・白色軟質砂岩粒(少)	良好	外:橙褐色 内:黄褐色	中期 (大木7a式)	
16-54	27-54	C区 Bベルト	4層	深鉢 口縁部		無筋縄文Lr, 縄文原体側面押圧	石英・微砂粒(多), 白色軟質砂岩粒(少)	良好	外:黒褐色 内:暗褐色	中期 (大木7a式)	内外面煤付着
16-55	27-55	C区 Bベルト	4層	深鉢 胴部		縄文LR, 縱位結節R	小石・砂礫(少), 金雲母(微)	良好	外:橙褐色 内:暗褐色	中期 (大木7a式)	
16-56	27-56	C区 Bベルト	4層	深鉢 胴部		縄文RL, 結節Lr, 結節R	砂礫粒(多), 石英・小石(少)	良好	外:橙褐色 内:黒褐色	中期 (大木7a式)	外:一部煤・ 内:煤付着
16-57	27-57	C区 包含層①	下層1	深鉢 口縁部		縄文LR, 縄文原体LR側面押圧	砂礫粒・白色軟質砂岩粒(少)	良好	橙褐色	中期 (大木7b式)	
16-58	27-58	C区 包含層①	下層2	深鉢 口縁部		縄文LR, 貼付突起	金雲母・砂粒(少)	良好	外:暗褐色 内:黄褐色	中期 (大木7b式)	外面一部煤付着
16-59	27-59	C区 Bベルト	4層	深鉢 口縁部		波状口縁; 縄文RL, 竹管沈線	砂粒(多), 雲母・白色軟質砂岩粒(少)	良好	橙褐色	中期 (大木7b式)	
16-60	27-60	B区 包含層①	下層2	深鉢 口縁部	口径34.8	縄文LR, 粘土紐貼付, へラ描沈線, 中央凹む凹形突起	石英・小石・砂粒(少)	良好	黄褐色	中期 (大木8a式)	
16-61	27-61	C区 Bベルト	4層	深鉢 口縁部		縄文LR, 隆線内縄文磨消	微砂粒(多), 小石(少)	良好	橙褐色	中期 (大木8a式)	内外面一部煤付着
16-62	27-62	B区 包含層①	下層1	浅鉢 口縁部		縄文LR, 趾状突起内面ヨコミガキ	石英・小石・砂粒(少)	良好	外:黒褐色 内:暗褐色	中期 (大木8a式)	内外面煤付着
17-63	27-63	C区 包含層①	最下層	浅鉢 口縁		縄文LR, 粘土紐貼付	石英・小石・砂粒(少)	良好	橙褐色	中期 (大木8b式)	



第18図 包含層①出土遺物(8) [土製品・石器 1]

帰属するもので、47～56が大木7a式、57～59が大木7b式、60～62が大木8a式、63が大木8b式に比定される。

下層においても大木3式から大木8式が混在して検出されたが、上層と比し、大木3式の割合が高い。



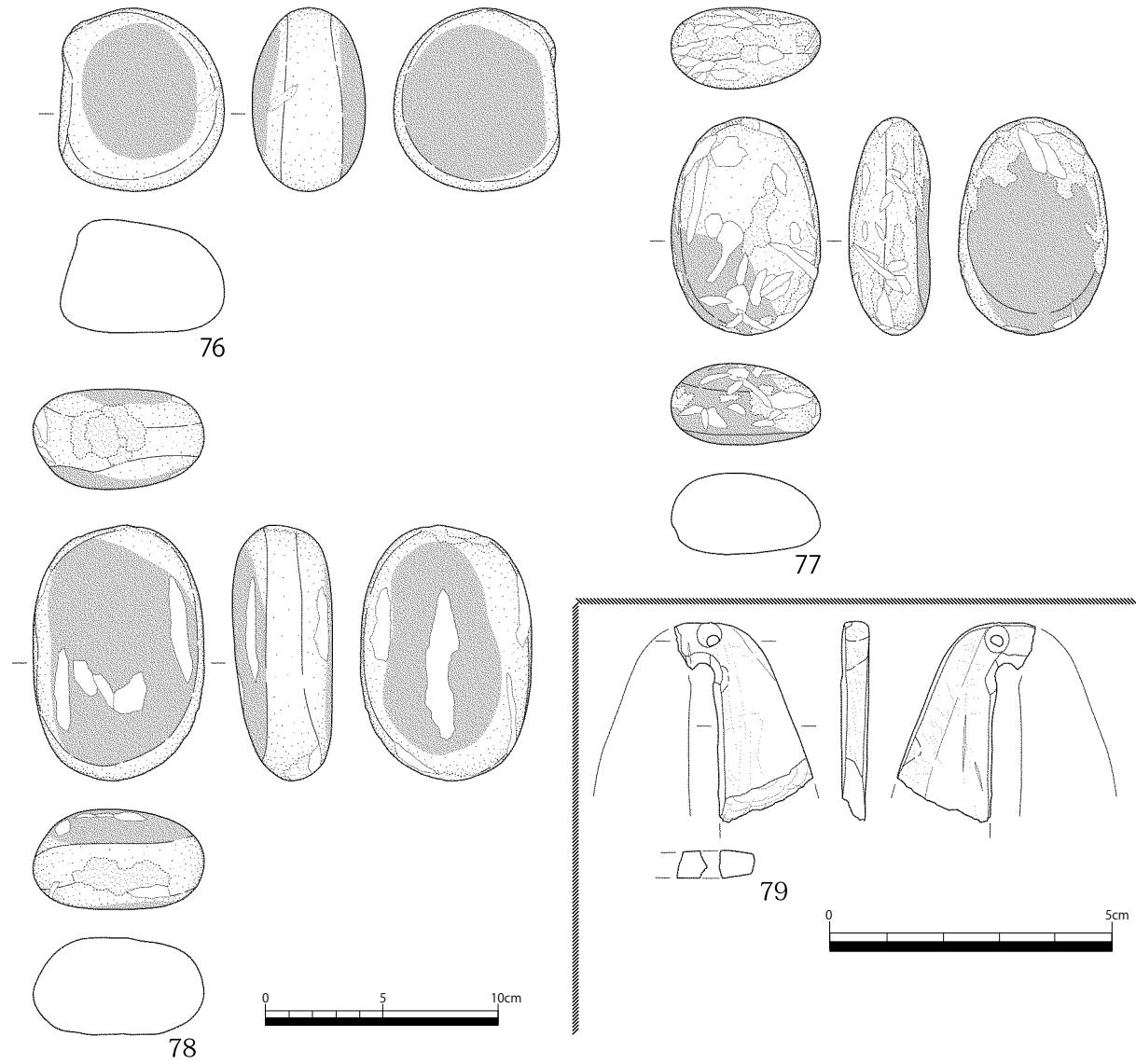
第19図 包含層①出土遺物(9)〔石器2〕

第12表 包含層①出土遺物観察表(5)〔土製品〕

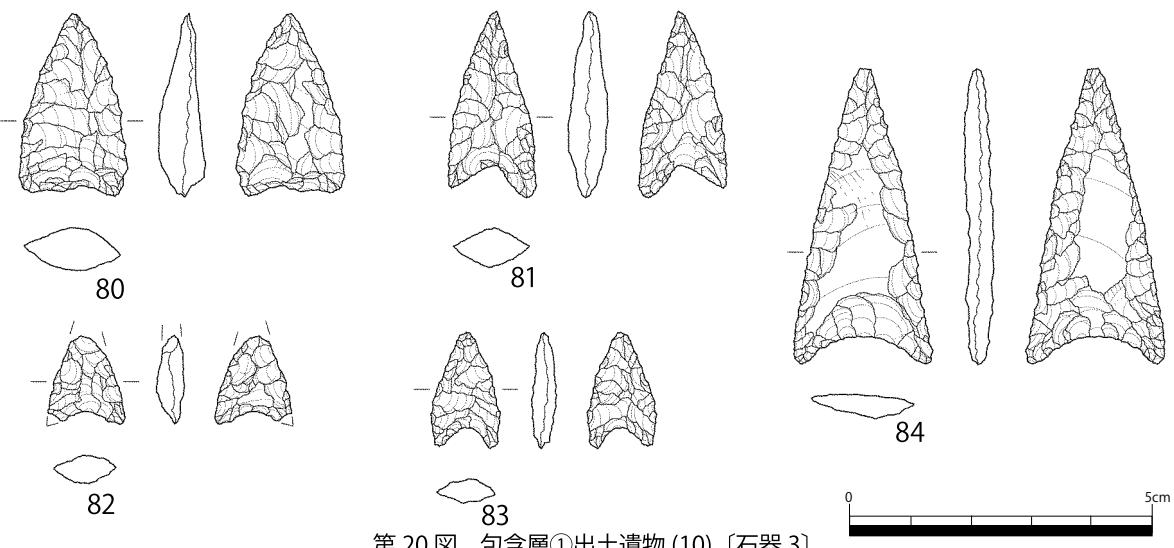
図番号	写真番号	出土地点	層位	種別	法量(cm)			重量(g)	特徴	備考
					最大長	最大幅	最大厚			
18-64	27-64	B区 包含層①	下層1	円盤状土製品	3.00	3.00	0.55	7.0	無文；胎土に石英・小石(多)	

第13表 包含層①出土遺物観察表(6)〔石器1〕

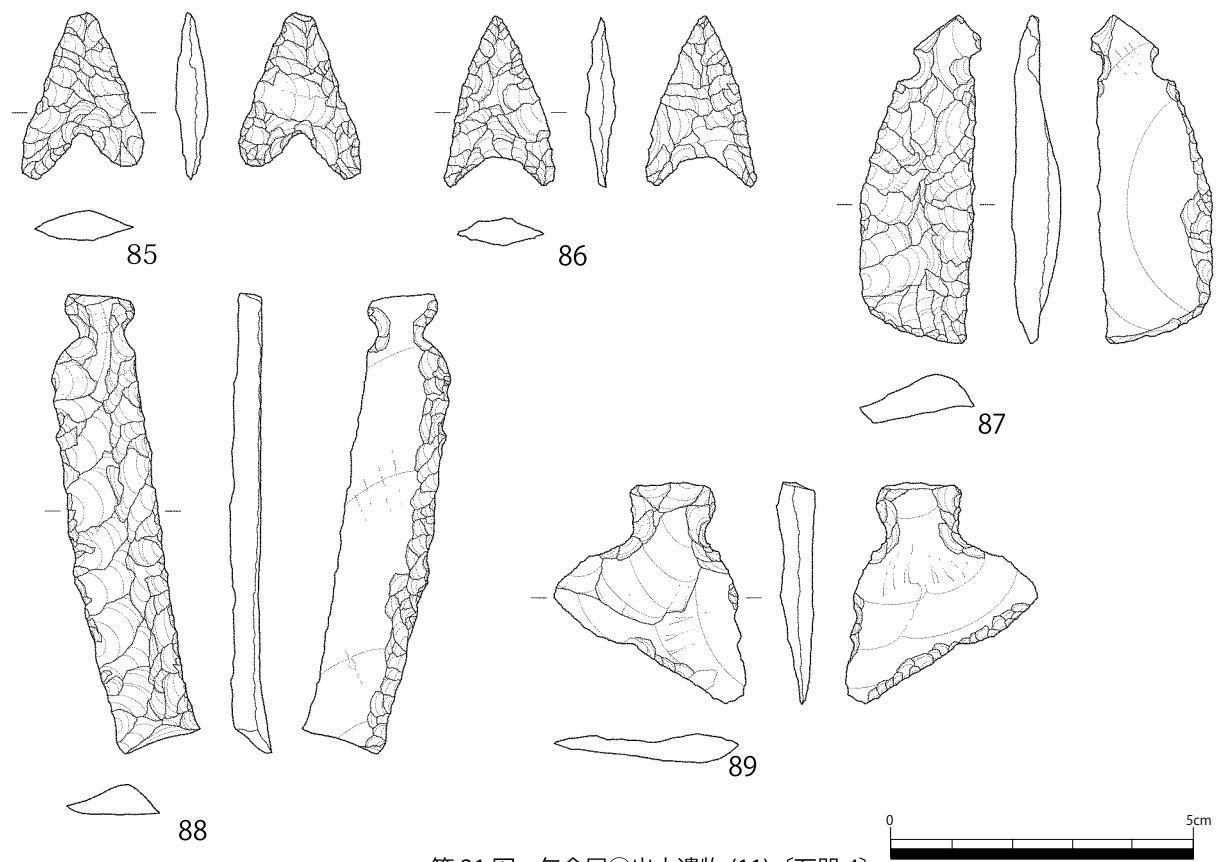
図番号	写真番号	出土地点	層位	器種	石質	法量(mm)			重量(g)	備考
						最大長	最大幅	最大厚		
18-65	27-65	C区 Bベルト	2・3層	石鏃	頁岩	26.0	16.5	5.0	1.41	基部凹形
18-66	27-66	A区 Aベルト	4層	石鏃	玉髓	18.5	13.8	2.3	0.38	基部凹形
18-67	27-67	C区 包含層①	上層4	石鏃	黒曜石	12.5	10.0	3.0	0.15	基部凹形
18-68	27-68	B区 包含層①	上層4	石鏃	黒曜石	15.5	11.5	4.0	0.34	基部凹形
18-69	27-69	C区 包含層①	上層3	剥片	玉髓	28.5	21.0	7.5	2.74	石鏃未製品
18-70	27-70	A区 包含層①	上層3	石槍	珪質頁岩(新第三紀)	119.0	38.0	17.0	68.99	
18-71	28-71	A区 包含層①	上層	磨製石斧	蛇灰岩	109.0	55.5	28.5	249.90	刃部欠損
18-72	28-72	A区 Aベルト	3層	不定形石器	頁岩	96.5	78.5	24.0	193.08	
18-73	28-73	B区 包含層①	上層4	石核	頁岩	47.5	61.0	53.0	154.99	
19-74	28-74	B区 包含層①	上層3	砥石	砂岩	117.0	36.5	33.0	209.50	
19-75	28-75	A区 包含層①	上層4	磨石	安山岩質火山礫凝灰岩	145.0	104.0	64.0	1,452.81	



包含層①下層



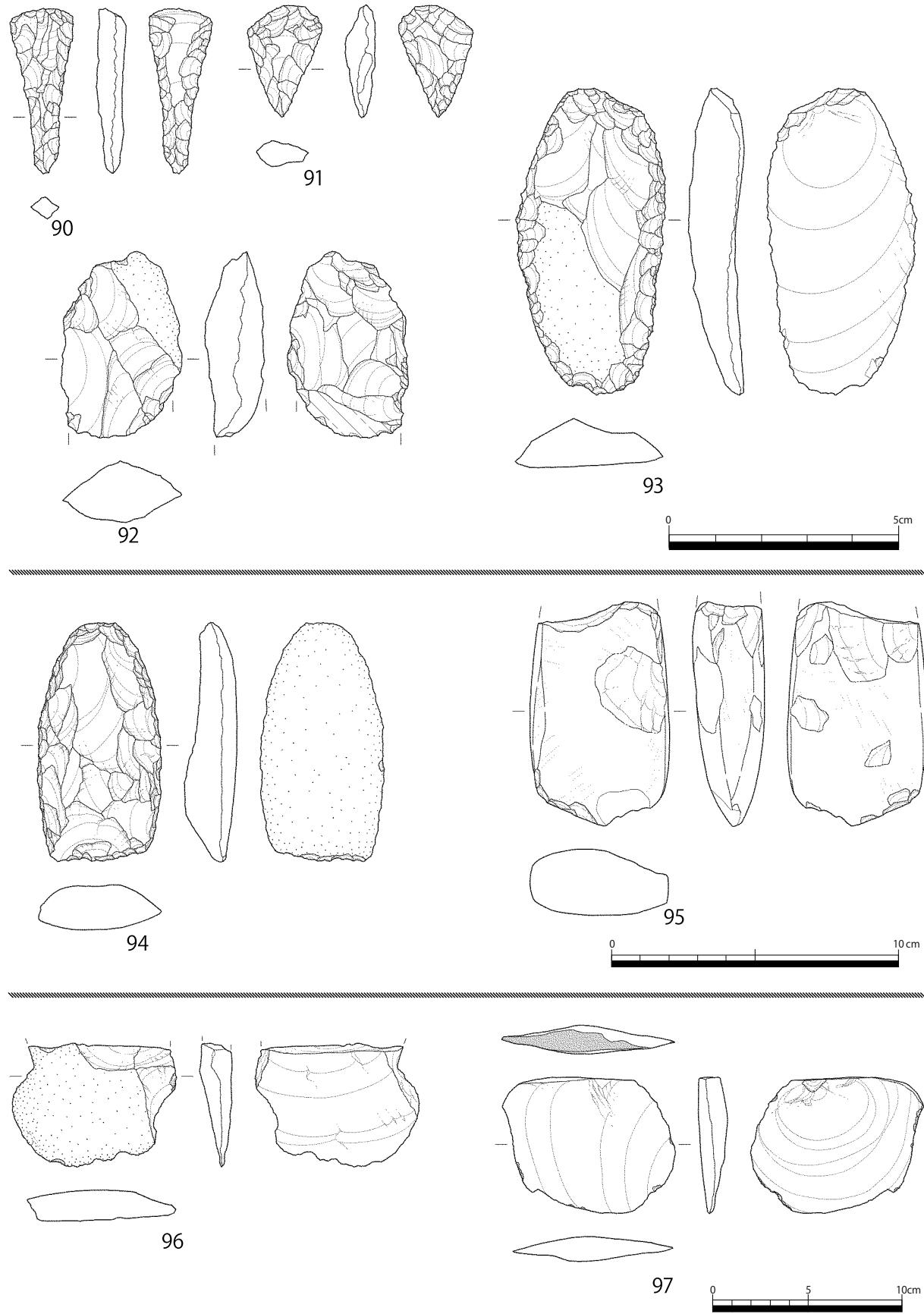
第20図 包含層①出土遺物(10)〔石器3〕



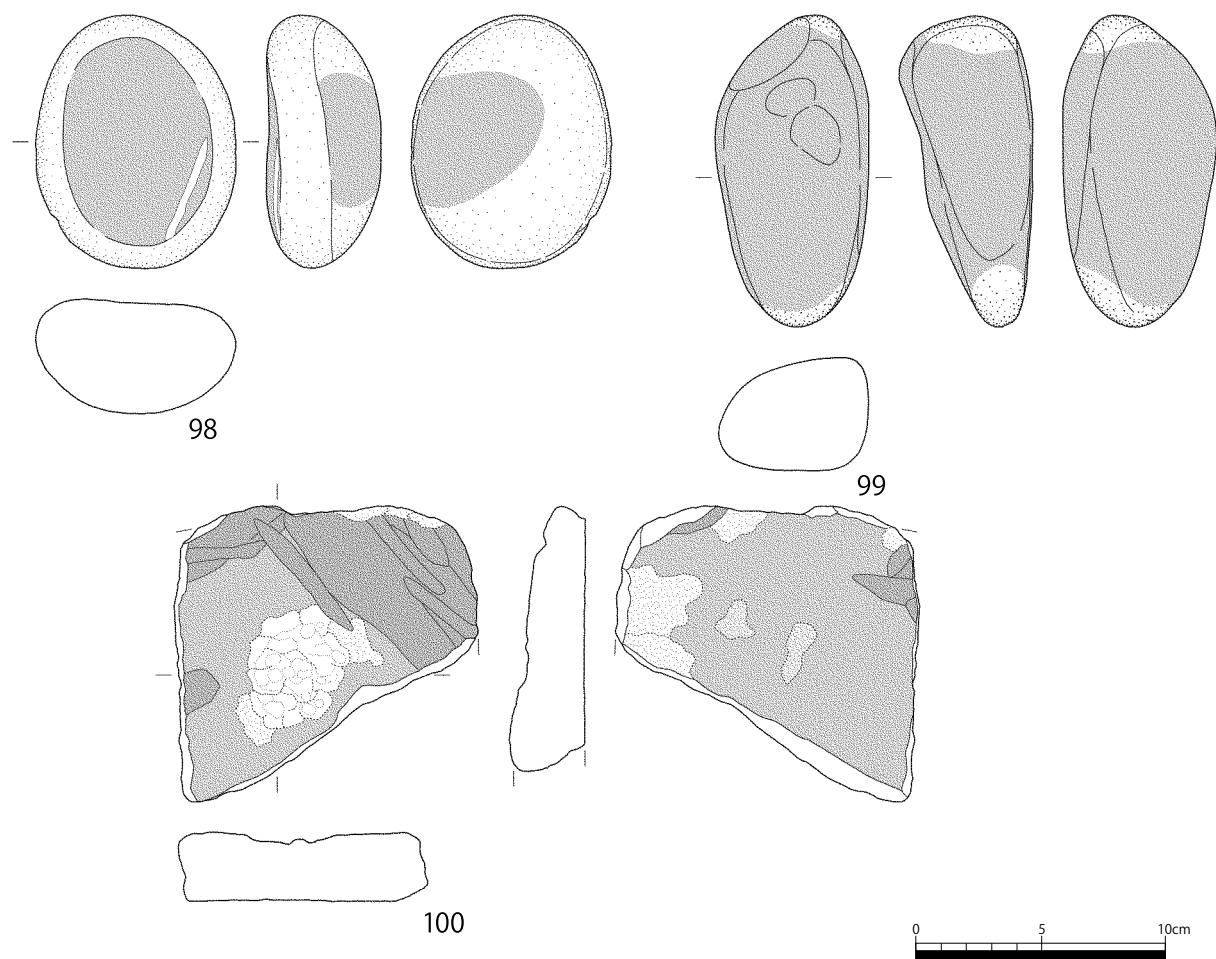
第21図 包含層①出土遺物(11)〔石器4〕

第14表 包含層①出土遺物観察表(7)〔石器2〕

図番号	写真番号	出土地点	層位	器種	石質	法量(mm)			重量(g)	備考
						最大長	最大幅	最大厚		
20-76	28-76	A区 包含層①	上層2	磨石	輝石安山岩	78.0	70.5	48.0	426.15	
20-77	28-77	C区 Bベルト	2・3層	敲石	安山岩	108.5	73.0	42.5	572.34	
20-78	28-78	C区 Bベルト	2・3層	磨敲石	砂岩(アレナイト質)	92.5	63.5	34.5	297.93	
20-79	28-79	B区 包含層①	上層4	瑛状耳飾	蛇紋岩	(35.0)	(24.0)	5.0	4.30	
20-80	28-80	C区 包含層①	下層1	石鎌	頁岩(新第三紀)	29.5	18.5	7.5	2.80	基部平形
20-81	28-81	D区 Cベルト	3・4層	石鎌	頁岩	14.5	12.5	4.5	0.62	基部凹形
20-82	28-82	C区 包含層①	下層1	石鎌	頁岩	30.5	14.5	6.5	1.65	基部凹形
20-83	28-83	B区 包含層①	下層3	石鎌	黒曜石	18.5	11.5	4.0	0.52	基部凹形
20-84	28-84	C区 包含層①	下層1	石鎌	頁岩	48.5	22.5	4.0	3.20	基部凹形
21-85	28-85	C区 包含層①	下層1	石鎌	頁岩	27.0	21.5	5.0	1.47	基部凹形
21-86	28-86	C区 Bベルト	4層	石鎌	頁岩(古期)	28.0	18.0	4.5	1.37	基部凹形
21-87	29-87	C区 包含層①	下層2	石匙	頁岩	54.0	20.0	8.0	6.65	縦型
21-88	29-88	B区 包含層①	下層1	石匙	頁岩(新第三紀)	75.5	15.0	6.5	7.48	縦型
21-89	29-89	C区 包含層①	下層1	石匙	安山岩	36.5	31.5	6.0	4.46	横型



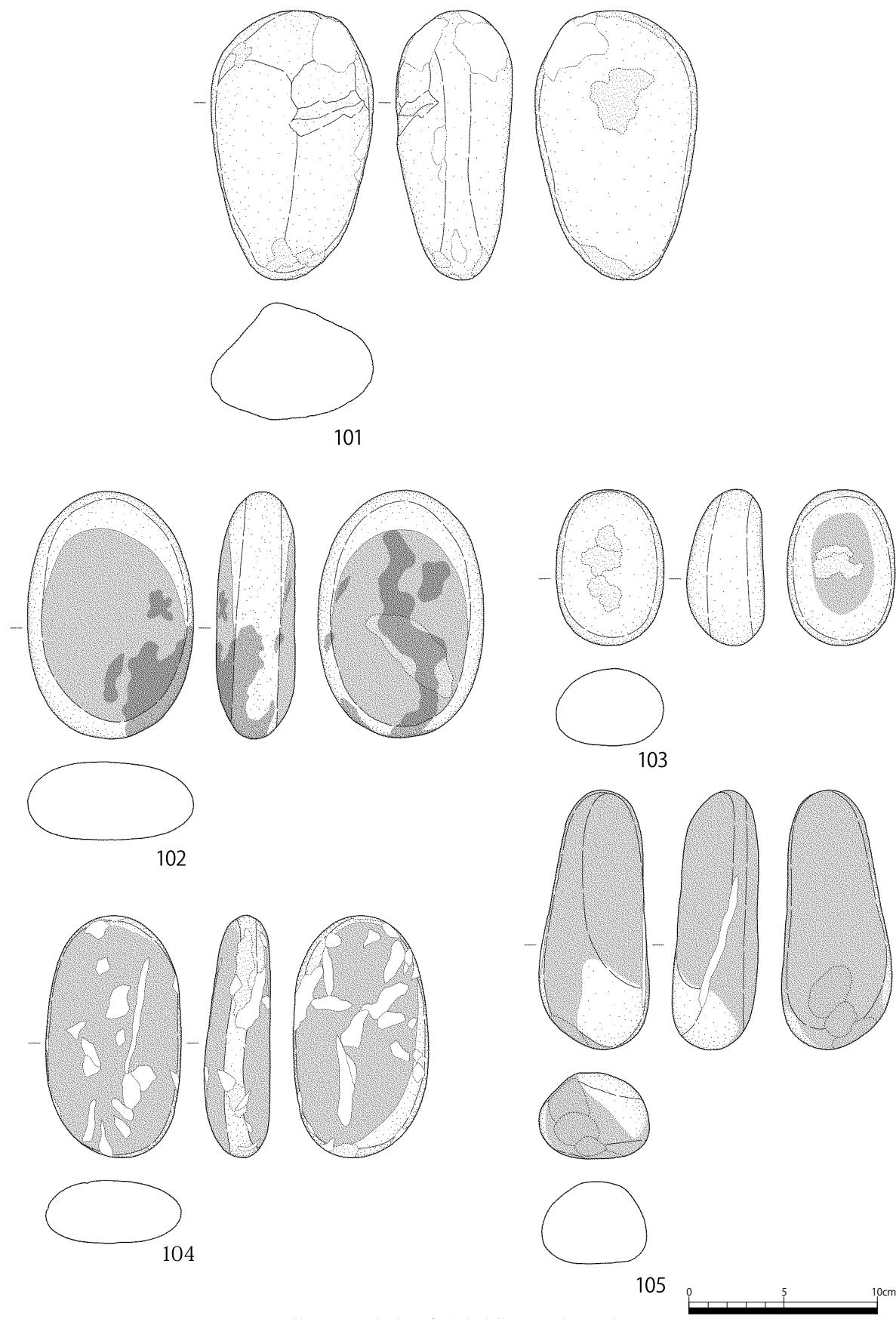
第22図 包含層①出土遺物(12) [石器5]



第23図 包含層①出土遺物(13)〔石器6〕

第15表 包含層①出土遺物観察表(8)〔石器3〕

図番号	写真番号	出土地点	層位	器種	石質	法量(mm)			重量(g)	備考
						最大長	最大幅	最大厚		
22-90	29-90	C区 包含層①	下層1	石錐	頁岩	35.5	14.0	5.0	2.37	
22-91	29-91	D区 Cベルト	3・4層	石錐	珪質頁岩(新第三紀)	24.0	16.0	6.5	2.07	
22-92	29-92	B区 包含層①	下層1	石鏟	チャート	40.5	26.5	13.0	13.95	
22-93	29-93	C区 包含層①	下層1	石鏟	頁岩	66.5	32.5	12.0	22.05	
22-94	29-94	D区 Cベルト	3・4層	打製石斧	細粒黒雲母花崗岩	83.0	43.0	18.5	79.25	
22-95	29-95	C区 包含層①	下層3	磨製石斧	輝石安山岩	78.0	48.5	25.0	143.87	
22-96	29-96	D区 Cベルト	3・4層	不定形石器	砂質頁岩	64.5	85.5	17.0	99.96	
22-97	29-97	B区 包含層①	下層1	不定形石器	頁岩	71.0	90.0	15.0	100.32	
23-98	29-98	B区 包含層①	下層1	石皿	輝石安山岩	100.0	79.5	45.5	522.78	
23-99	29-99	C区 Bベルト	4層	砥石	輝石安山岩	123.0	61.0	53.0	563.06	
23-100	29-100	C区 包含層①	下層1	砥石	砂岩	117.0	121.0	30.0	363.91	



第24図 包含層①出土遺物(14)〔石器7〕

第16表 包含層①出土遺物観察表(9) [石器4]

図番号	写真番号	出土地点	層位	器種	石質	法量(mm)			重量(g)	備考
						最大長	最大幅	最大厚		
24-101	30-101	C区 包含層①	下層1	磨石	砂岩	141.0	85.0	61.0	916.65	
24-102	30-102	B区 包含層①	下層1	磨石	砂岩(花崗岩質)	129.5	87.0	41.5	706.38	
24-103	30-103	C区 包含層①	下層1	敲石	輝石安山岩	82.0	56.5	40.5	295.38	
24-104	30-104	D区 Cベルト	3・4層	磨敲石	砂岩	127.0	71.0	35.0	464.80	
24-105	30-105	D区 Cベルト	4層	磨敲石	輝石安山岩	136.0	58.0	45.0	533.95	

【土器】

包含層①上層

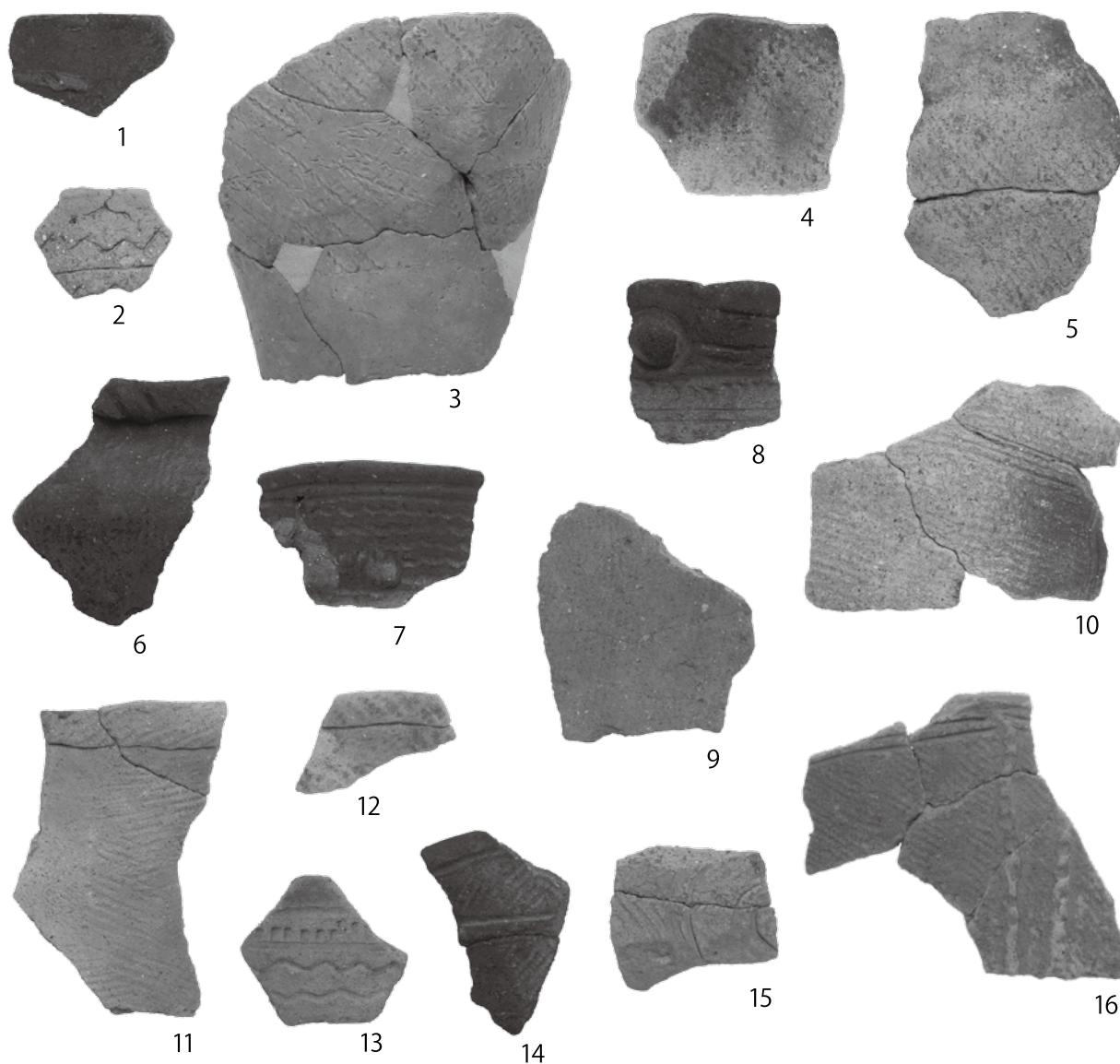
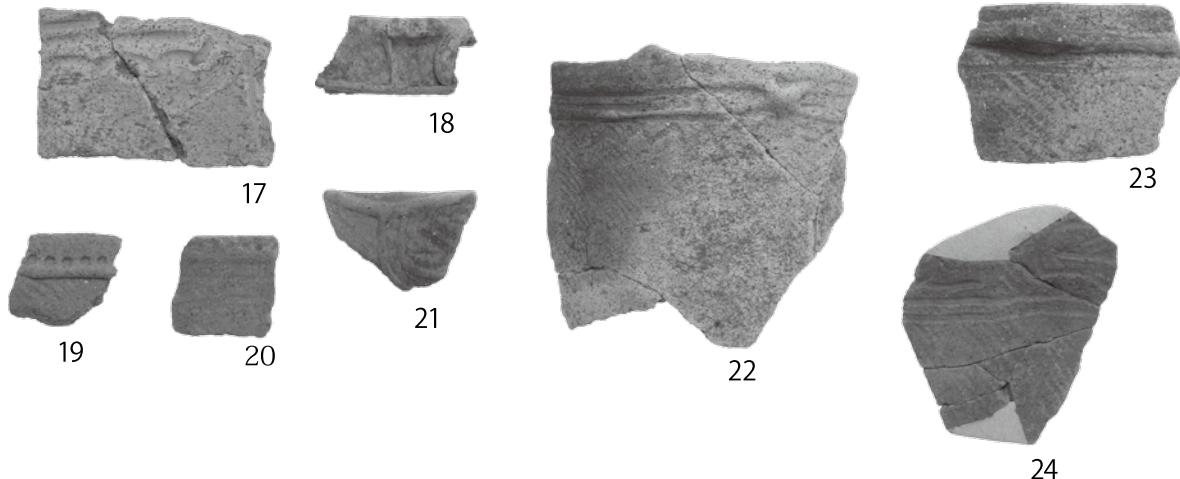


写真24 包含層①出土遺物(1) [土器1]



包含層①下層

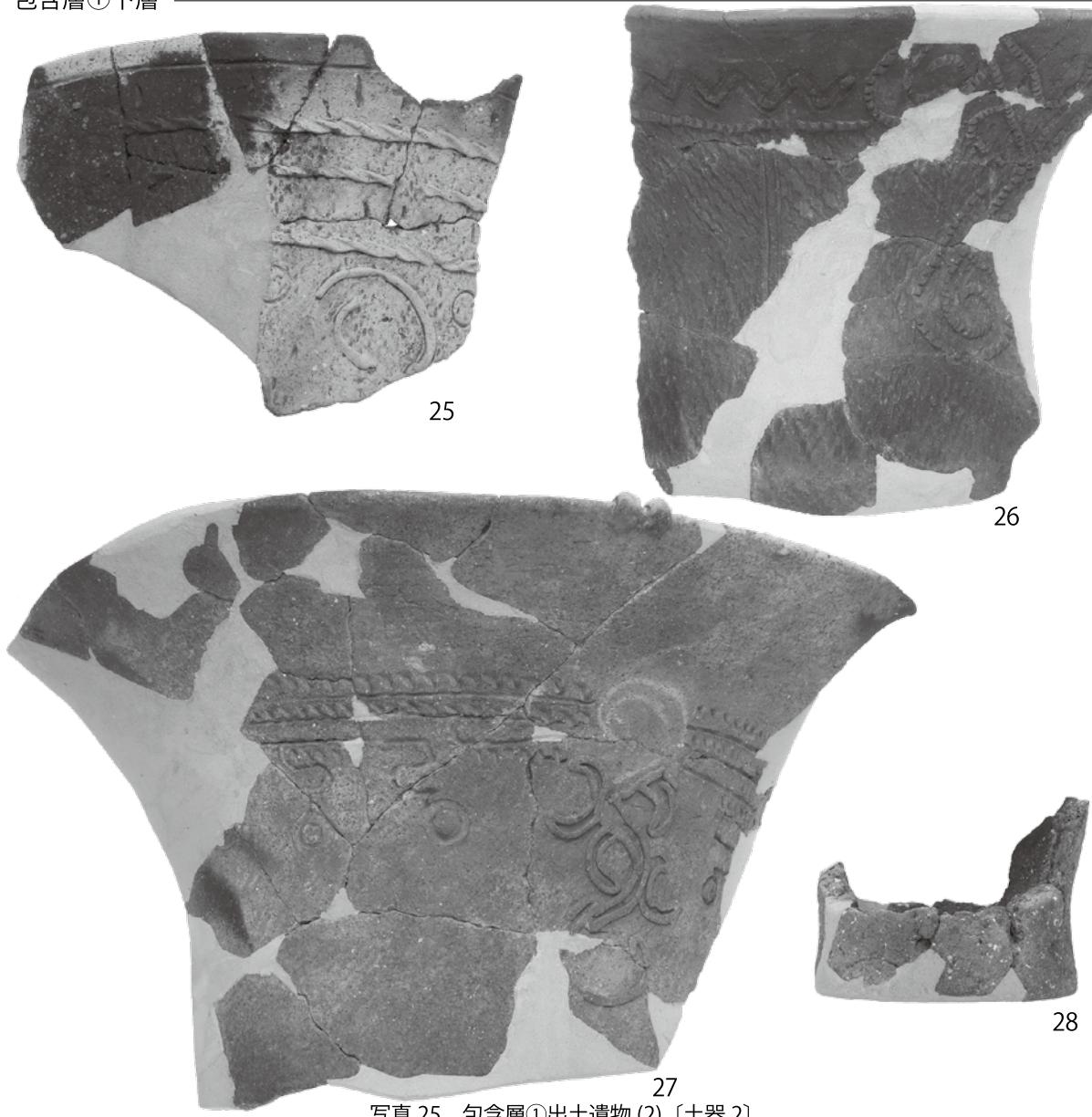


写真 25 包含層①出土遺物(2) [土器 2]

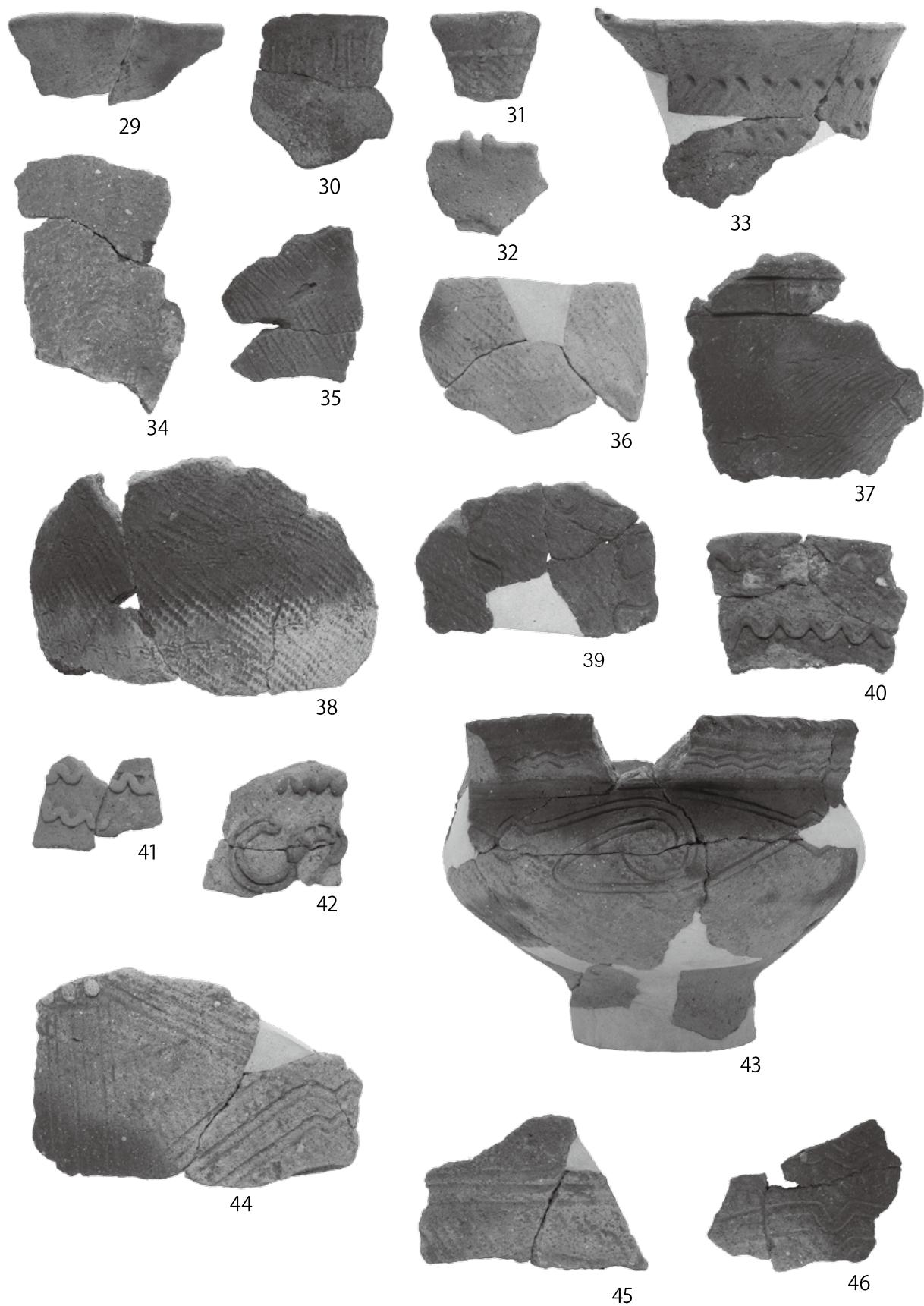
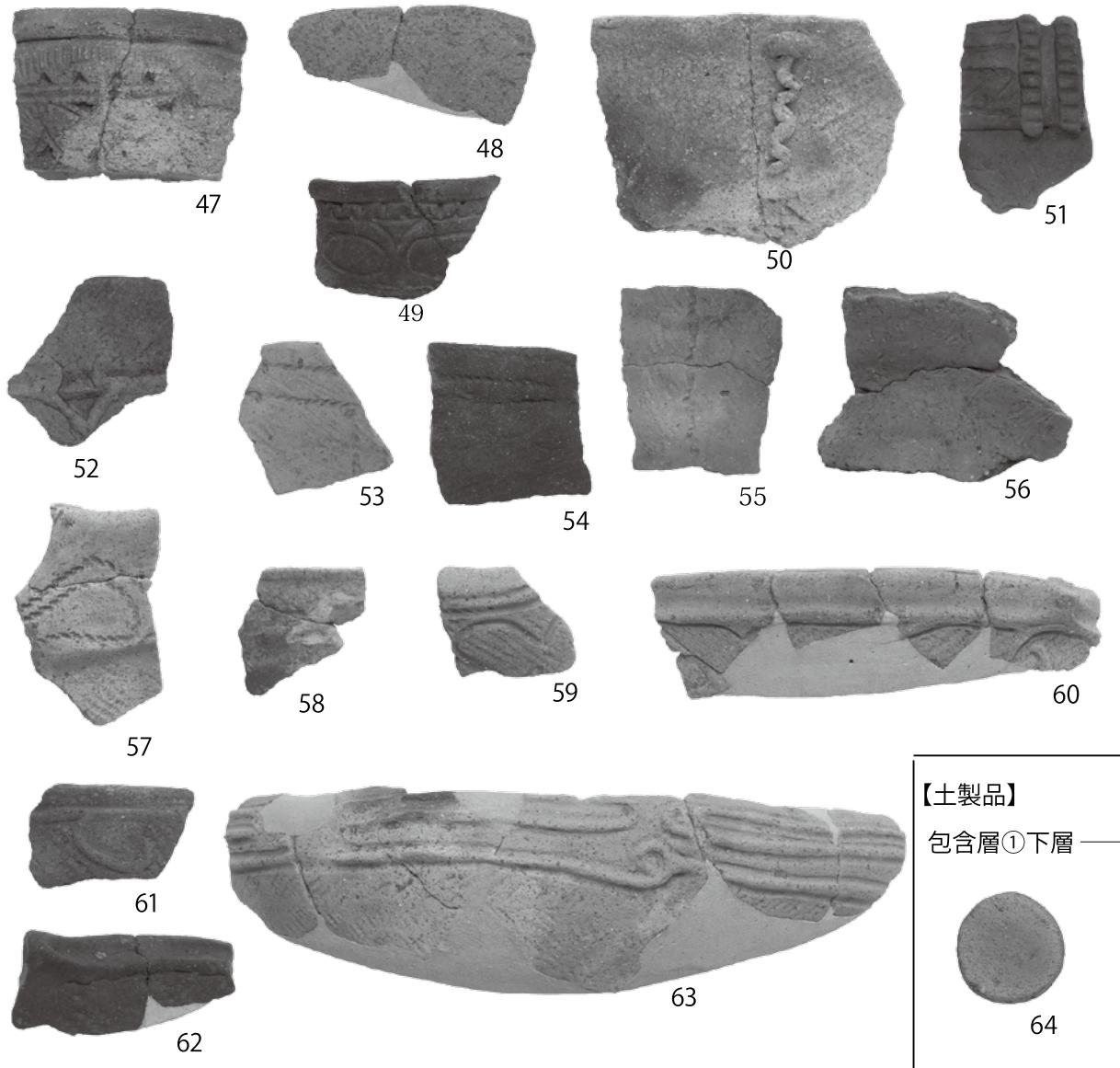


写真26 包含層①出土遺物(3) [土器3]



【石器】

包含層①上層 —

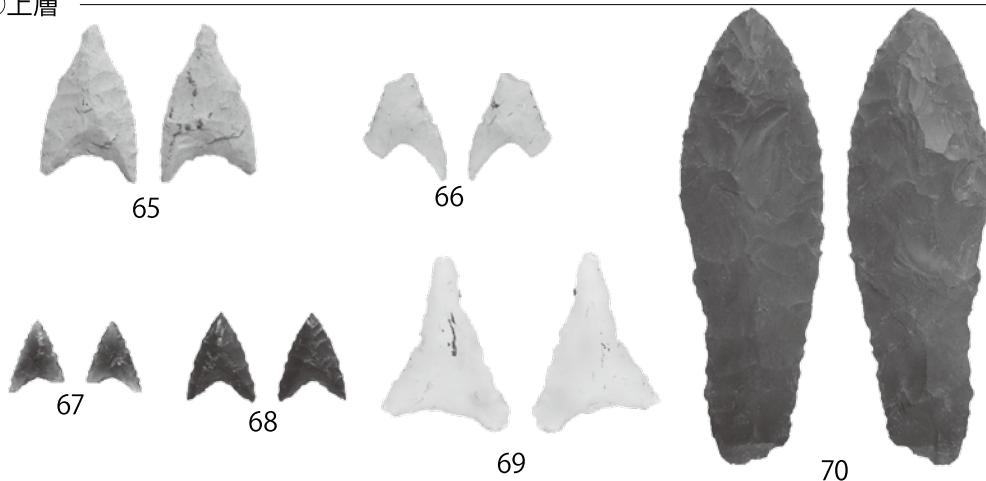
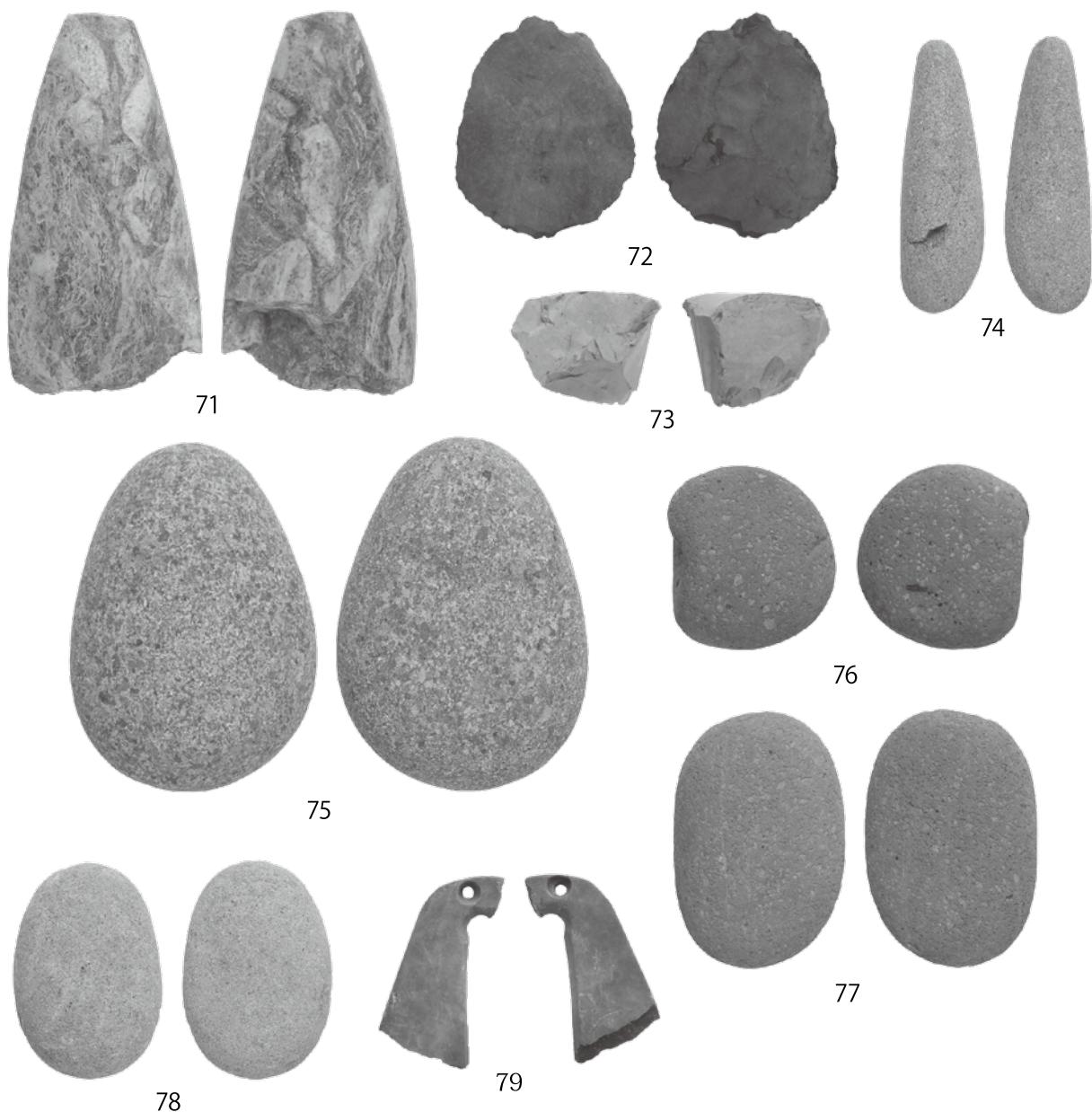


写真 27 包含層①出土遺物(4) [土器4・土製品・石器1]



包含層①下層

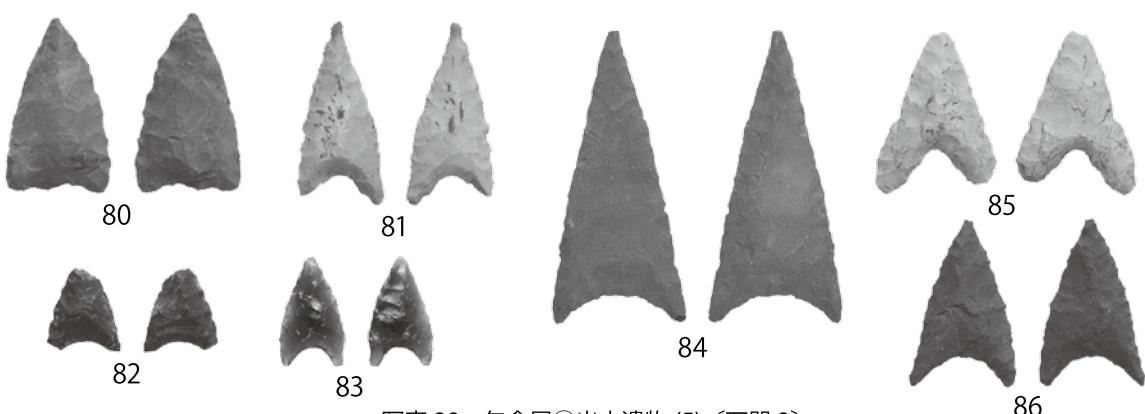


写真28 包含層①出土遺物(5) [石器2]

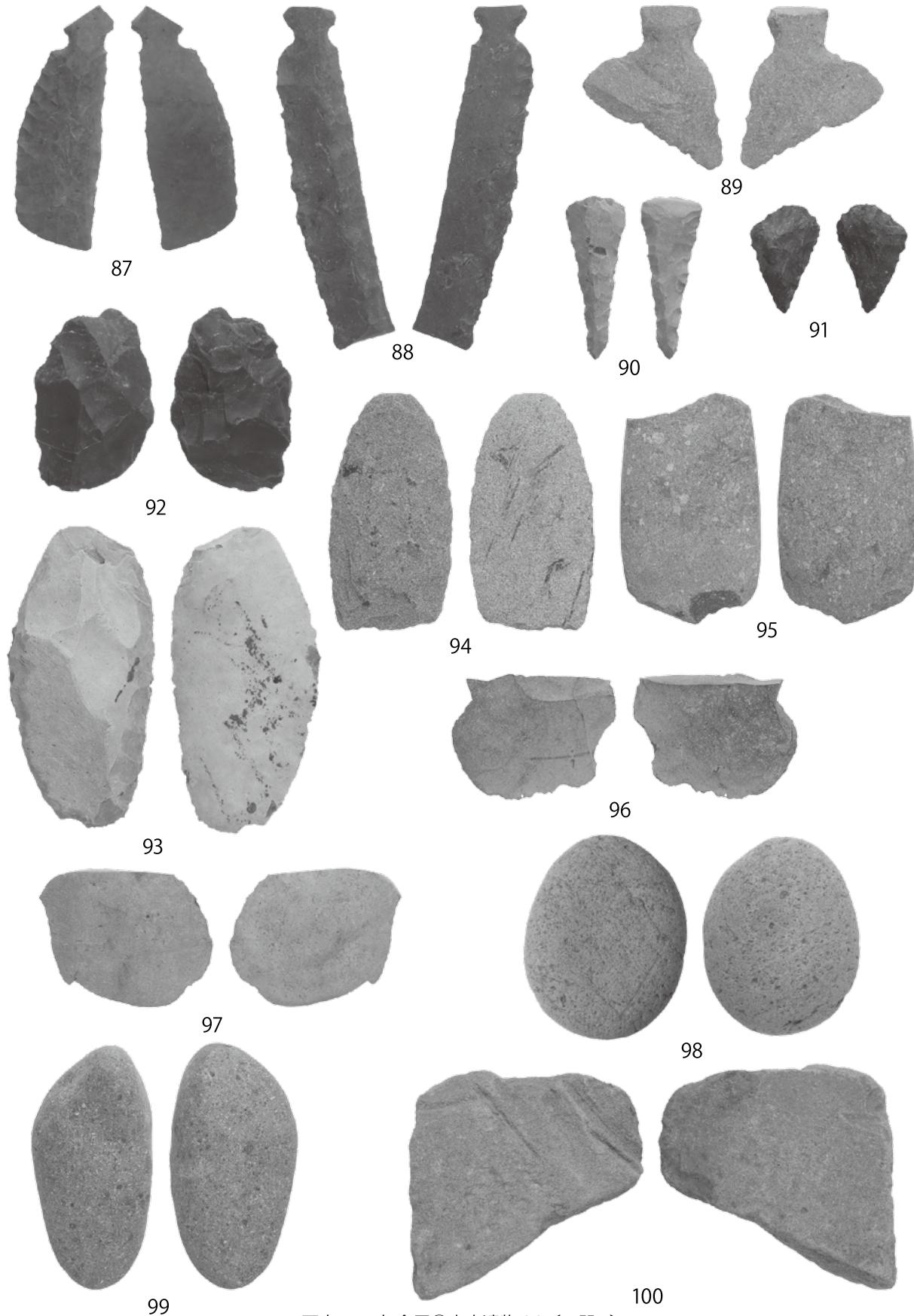


写真29 包含層①出土遺物(6) [石器3]

石器は201点検出された。石鏃、石匙のほか、上層で少なかった石錐、石範なども検出されている。検出された石器のうち、26点を図示した（第20～24図）。80～86は石鏃である。81は平基、ほかはすべて凹基である。当該調査で検出された石鏃は、81を除いてすべて凹基であった。87～89は石匙、90・91は石錐、92・93は石範、94は打製石斧、95は磨製石斧、96・97は不定形石器である。上層と比し、製品の種類・量ともに増加している。

[包含層②]

縄文土器は、上層で720点、下層で19点、上層・下層一括で258点検出された。時間の制約等により、ベルトの5層および6層を一括して掘削を行ったため、ベルト5層・6層出土遺物は上層と下層に分けていない。そのため、記載にあたっては上層と下層を一括して行うこととする。包含層②で検出された土器は合計997点を数え、包含層①と比して少ない。そのうち、18点を図示した。

第25図1～4は、早期から前期前葉に帰属する。5～15は前期に帰属し、大木3式に比定される。16～18は中期に帰属し、大木7a式に比定される。包含層②で検出された縄文土器は、すべてを分類した訳ではないが、大木3式が主体であり、少量の早期～前期前葉の小破片および大木7式あるいは大木8式が混じる。

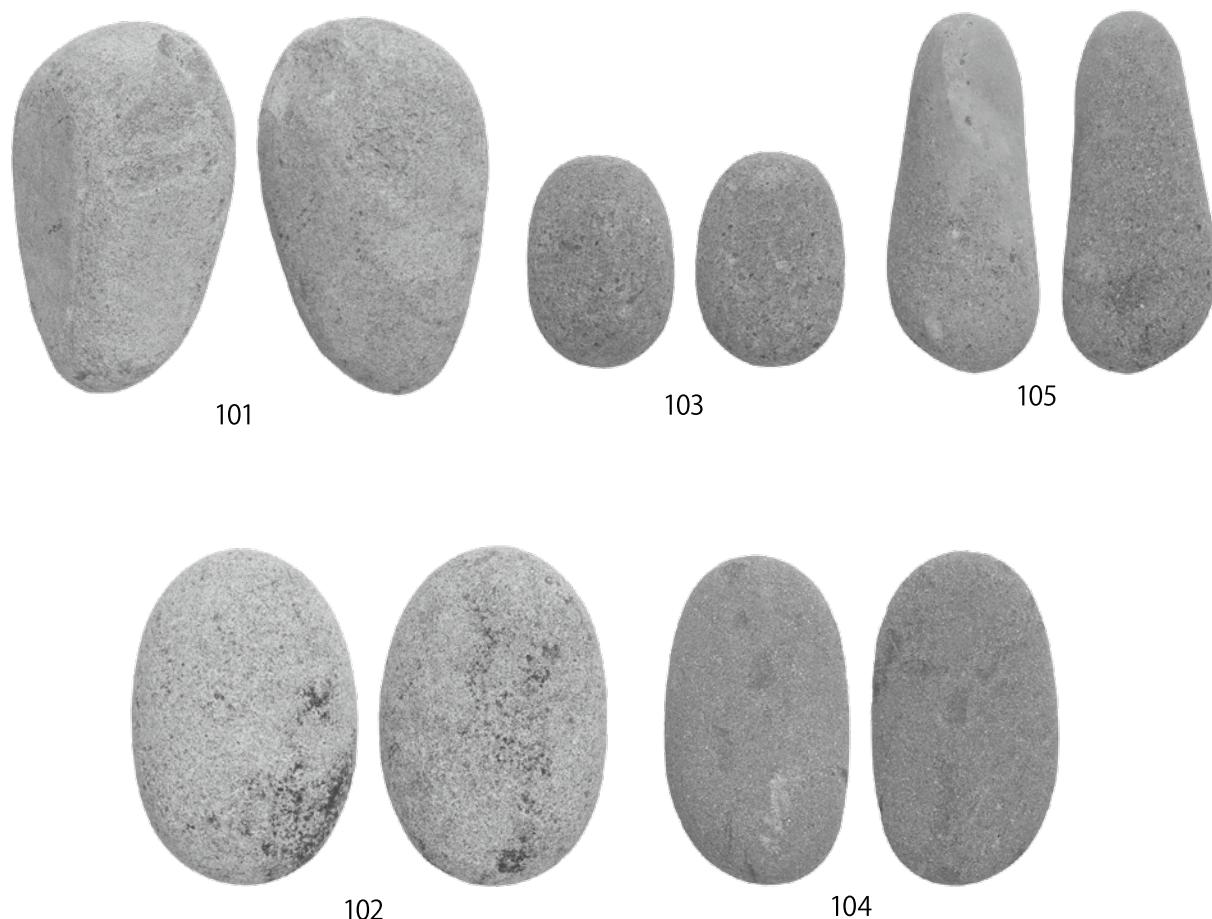
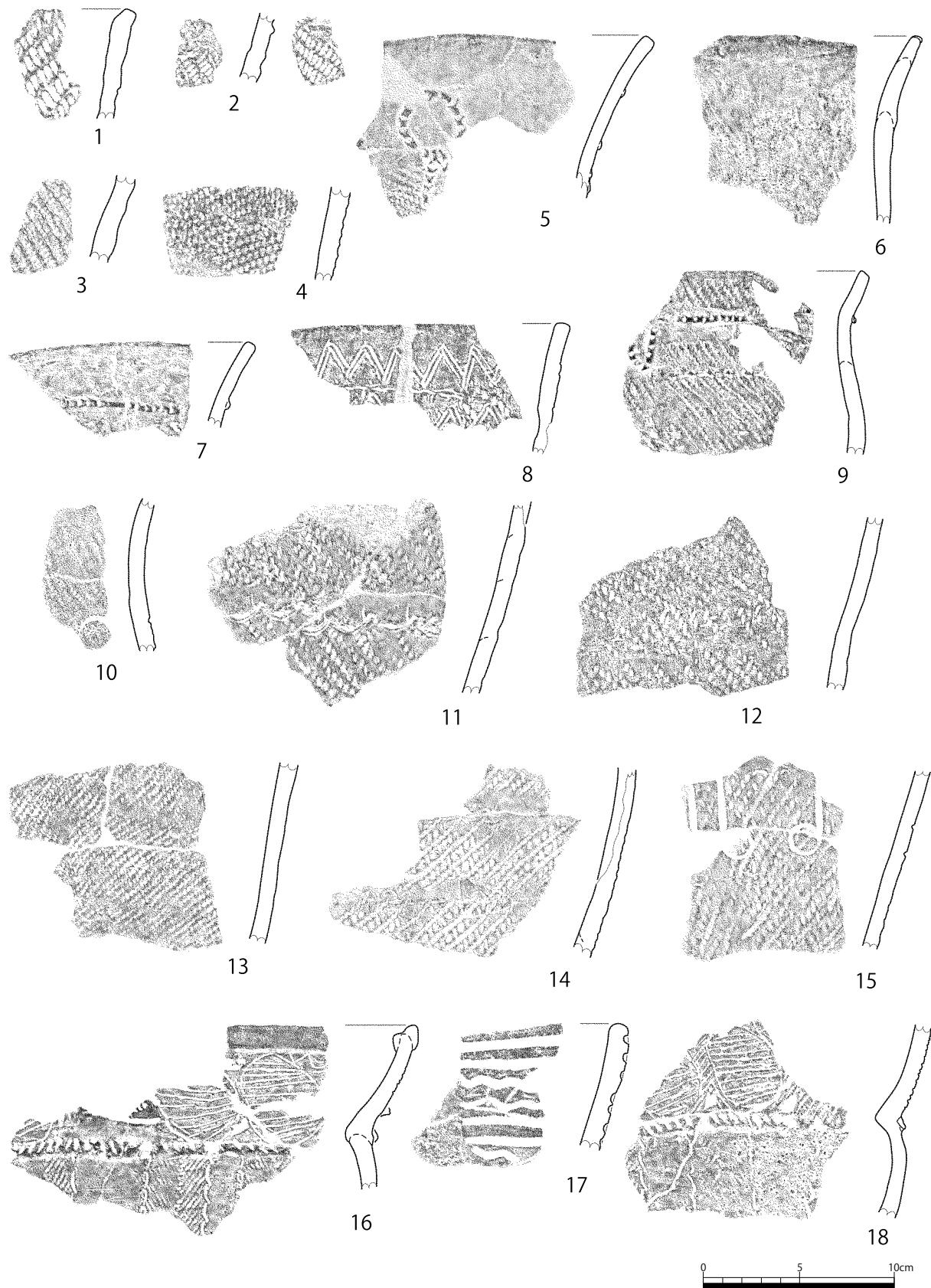


写真30 包含層①出土遺物(7) [石器4]

包含層②上層・下層

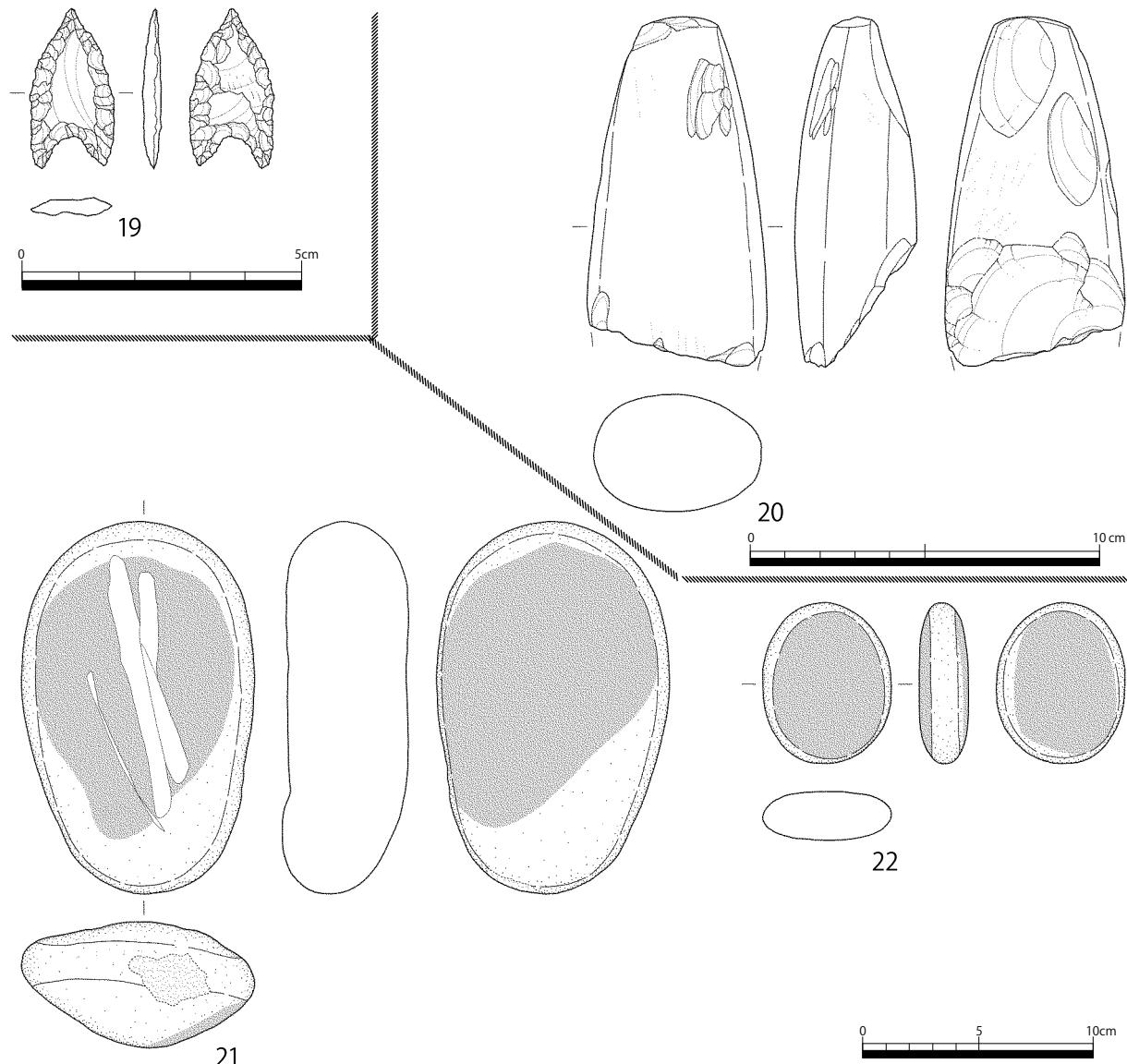


第25図 包含層②出土遺物(1) [土器]

石器は、上層 22 点、下層 1 点、一括 16 点の合計 39 点検出された。そのうち、4 点を図示した。第 26 図 -19 は上層で検出された石鏃である。基部が凹形を呈する。20 は打製石斧、21・22 は磨石で、いずれもベルト 5・6 層で検出されたものである。

第17表 包含層②出土遺物観察表(1) [土器]

図番号	写真番号	出土地点	層位	器種部位	法量(cm)	特徴	胎土	焼成	色調	時期(型式)	備考
25-1	31-1	D区 Cベルト	5・6層	深鉢 口縁部		多条縄文RL, 内面粗いナデ	織維・砂礫粒(多)	良好	明褐色	早期	
25-2	31-2	C区 包含層②	上層	深鉢 胴部		(内外面)多条縄文RLr	織維(多),砂粒(少)	良好	黒褐色	早期～前期 初頭	内外面煤付着 表裏縄文
25-3	31-3	C区 Bベルト	5・6層	深鉢 胴部		多条縄文RLr, 内面ケズリ	織維・石英(多),微砂粒 (少)	良好	外:黄褐色 内:暗褐色	早期～前期 前葉	内外面一部煤付着
25-4	31-4	D区 Cベルト	5・6層	深鉢 胴部		複節縄文RL	織維・石英(多),微砂粒 (少)	良好	黄褐色	早期～前期 前葉	
25-5	31-5	D区 Cベルト	5・6層	深鉢 口縁部		縄文RL, 口縁部から体部 にかけてキザミを有する隆 線貼付	石英・砂粒(多),白色軟質 砂岩粒(少)	良好	外:黒褐色 内:黄褐色	前期 (大木3式)	外面煤付着
25-6	31-6	D区 Cベルト	5・6層	深鉢 口縁部		口唇部に2個1対の貼付痕	砂礫粒(多),石英(少)	良好	黄褐色	前期 (大木3式)	摩耗顯著
25-7	31-7	C区 包含層②	上層	深鉢 口縁部		縄文RL, キザミを有する 隆線貼付	石英・砂礫粒(多)	良好	外:黒褐色 内:暗褐色	前期 (大木3式)	内外面煤付着
25-8	31-8	D区 Cベルト	5・6層	深鉢 口縁部		縄文RL, 結節2条, 半截竹 管沈線(鰯歛文)	石英・砂粒(少)	良好	外:暗褐色 内:黄褐色	前期 (大木3式)	外面一部煤付着
25-9	31-9	D区 Cベルト	5・6層	深鉢 口縁部		縄文RL, 橫位結節2条, 口 縁と体部境界付近にキザミ を有する貼付隆線, 内面ヨミガキ	石英・微砂粒(多)	良好	外:暗褐色 内:黒褐色	前期 (大木3式)	内外面一部煤付 着
25-10	31-10	D区 Cベルト	5・6層	深鉢 胴部		縄文RL, 竹管文(円文)	石英・微砂粒(多)	良好	暗褐色	前期 (大木3式)	摩耗顯著
25-11	31-11	C区 包含層②	上層	深鉢 胴部		多条縄文RLR, 結節	石英(多),砂粒・白色軟質 砂岩粒(少)	良好	外:明褐色 内:褐色	前期 (大木3式)	内外面一部煤付 着 二次焼成
25-12	31-12	D区 Cベルト	5・6層	深鉢 胴部		縄文RL	石英・微砂粒(多)	良好	外:橙褐色 内:黄褐色	前期 (大木3式)	内面一部煤付着
25-13	31-13	C区 包含層②	上層	深鉢 胴部		縄文LR	砂粒・白色軟質砂岩粒 (少)	良好	外:黄褐色 内:暗褐色	前期 (大木3式)	内外面一部煤付 着
25-14	31-14	C区 包含層②	上層	深鉢 胴部		縄文RL, 結節	石英・砂礫粒・白色軟質 砂岩粒(少)	良好	外:暗褐色 内:黄褐色	前期 (大木3式)	内外面一部煤付 着
25-15	31-15	C区 包含層②	上層	深鉢 胴部		縄文LR, 円文→縦位ヘラ 描沈線	石英・微砂粒(多)	良好	外:黄褐色 内:黒褐色	前期 (大木3式)	内面煤付着
25-16	31-16	D区 Cベルト	5・6層	深鉢 口縁部		縦位結節羽状縄文LR RL, 細い沈線による楕円区画内 横位沈線充填, 三角搔取, 口縁と体部境界にキザミ有 する貼付隆帶巡らす	砂粒・白色軟質砂岩粒 (多)	良好	外:明褐色 内:暗赤褐色	中期 (大木7a式)	外面一部煤付着
25-17	31-17	C区 Bベルト	5・6層	深鉢 口縁部		竹管沈線(横位2条と波 状2条を交互に施す)	微砂粒(多),石英(少)	良好	外:暗褐色 内:黄褐色	中期 (大木7a式)	内外面一部煤付 着
25-18	31-18	B区 包含層②	上層1	深鉢 胴部		縄文RL, 縦位結節, 細い 工具による楕円区画内横 位沈線充填, 口縁と体部 境界にキザミ有する貼付 隆線巡らす	砂粒・白色軟質砂岩粒 (多),石英(少)	良好	外:黄褐色 内:暗褐色	中期 (大木7a式)	内面一部煤付着



第26図 包含層②出土遺物(2) [石器]

第18表 包含層②出土遺物観察表(2) [石器]

図番号	写真番号	出土地点	層位	器種	石質	法量 (mm)			重量 (g)	備考
						最大長	最大幅	最大厚		
26-19	32-19	B区 包含層②	上層	石鎌	頁岩	28.0	15.0	4.0	1.16	基部凹形
26-20	32-20	D区 Cベルト	5層	打製石斧	董青石ホルンフェルス	100.0	51.5	35.0	210.80	
26-21	32-21	D区 Cベルト	5・6層	磨石	輝石安山岩	159.5	100.0	54.0	1,294.99	
26-22	32-22	D区 Cベルト	5・6層	磨石	輝石安山岩	69.0	55.0	21.0	134.96	

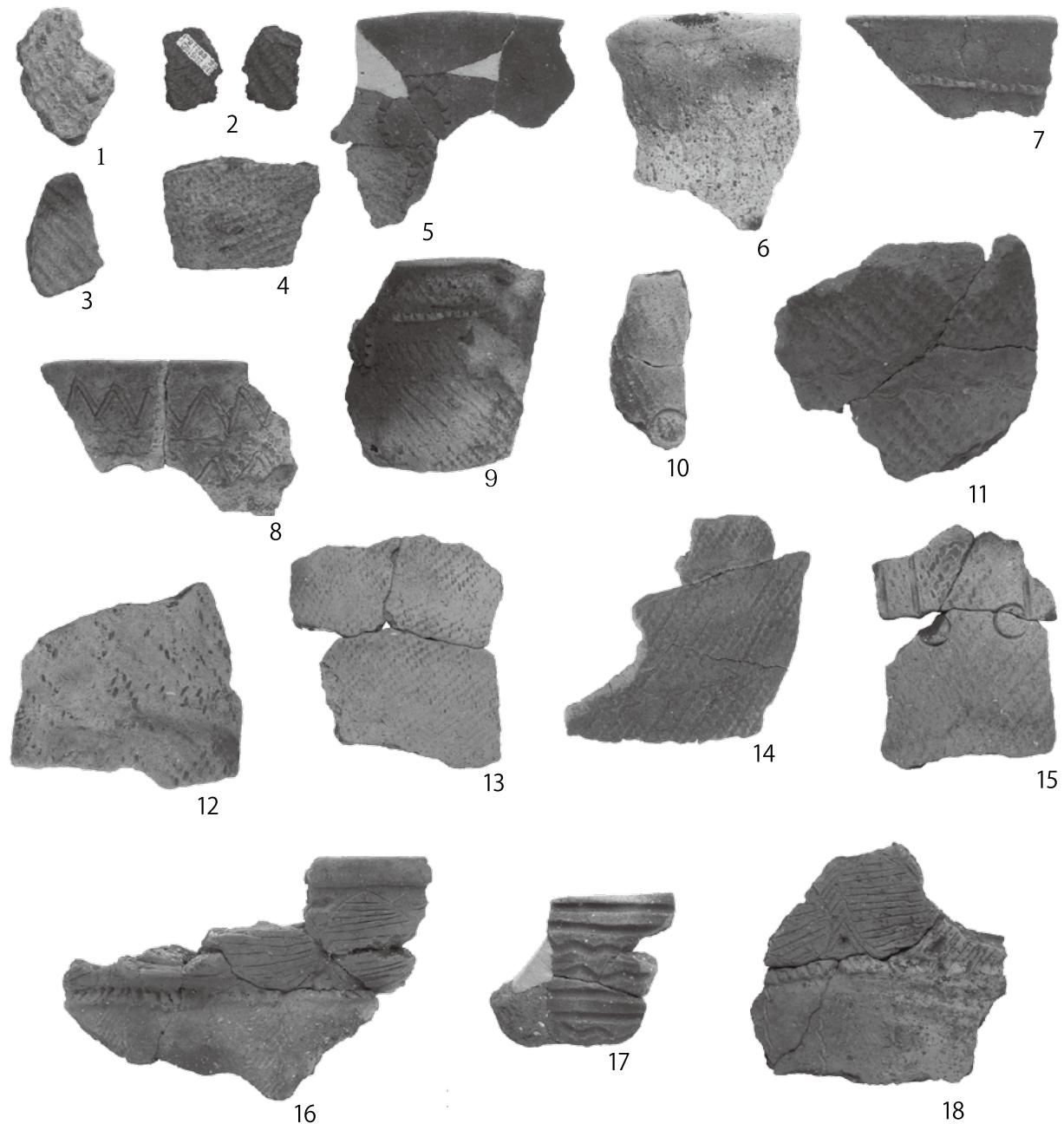


写真 31 包含層②出土遺物(1) [土器]



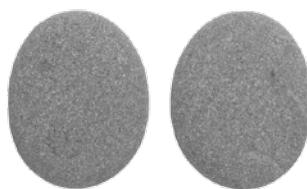
19



20



21



22

写真32 包含層②出土遺物(2)〔石器〕

註(1) 東北歴史資料館(1989)『宮城県の貝塚』98・99頁

第4章 裏方A貝塚出土石器類の石質

1. はじめに

気仙沼市大島浦の浜に所在する裏方 A 貝塚は、包含層から縄文時代の土器や石器・石製品が出土している。特に、石器・石製品は礫石器類が主体となっており、それらを中心として、岩石肉眼鑑定を実施し、岩石の産地について検討した。以下にその結果を報告する。

2. 試料

鑑定の対象とした試料は、石器類 700 点である。その内訳は、石鏸、石錐、石匙、打製石斧、磨製石斧、石籠、石槍、砥石、石皿、解体具、磨石、敲石等であり、多岐にわたる器種組成を示す。しかし、鑑定時において未分類のものも多く、器種ごとに岩石や鉱物の傾向に関する考察を行っていない点に留意されたい。

3. 分析方法

平成 29 年 3 月 16 ~ 17 日に株式会社パリノサーヴェイ技師 2 名が、気仙沼市教育委員会に来庁し、本市埋蔵文化財収納庫において岩石肉眼鑑定を実施した。岩石肉眼鑑定は、野外用ルーペを用いて行い、岩石表面の鉱物や組織を観察し、五十嵐 (2006) の分類基準に基づき、肉眼で鑑定できる範囲の岩石名を付した。なお、正確な岩石名の決定には、岩石薄片作成観察や、蛍光 X 線分析、X 線回折分析などを併用するが、今回は実施していないため、鑑定された岩石名は概査的な岩石名である点に留意されたい。

4. 結果

第 19 表に岩石組成を示した。深成岩類として、細粒黒雲母花崗岩 1 点、花崗岩 1 点、火山岩類として、かんらん石輝石玄武岩 1 点、かんらん石玄武岩 1 点、無斑晶質玄武岩 1 点、玄武岩 9 点、玄武岩質安山岩 2 点、輝石安山岩 117 点、角閃石輝石安山岩 10 点、無斑晶ガラス質安山岩 1 点、無斑晶質安山岩 1 点、安山岩 18 点、輝石デイサイト 1 点、流紋岩 2 点、ガラス質流紋岩 2 点、黒曜岩 17 点、火山碎屑岩類として、火山礫凝灰岩 6 点、安山岩質火山礫凝灰岩 3 点、安山岩質凝灰岩 2 点、凝灰岩 6 点、堆積岩類として、礫質砂岩 7 点、含礫砂岩 1 点、砂岩 60 点、泥質砂岩 2 点、砂質頁岩 22 点、頁岩 292 点、凝灰質頁岩 3 点、珪質頁岩 75 点、チャート 5 点、赤色チャート 1 点、変質岩類として、変質流紋岩 1 点、珪化岩 1 点、珪化頁岩 2 点、蛇灰岩 1 点、变成岩類として、砂質粘板岩 2 点、粘板岩 9 点、董青石ホルンフェルス 2 点、ホルンフェルス 5 点、鉱物として、赤玉石 1 点、玉髓 5 点、滑石 1 点に鑑定された。

頁岩が卓越しているほか、砂岩、輝石安山岩、珪質頁岩が多用される傾向を示す。特徴的な岩石および鉱物については写真撮影を行い図版に示した（写真 33・34）。

5. 考察

気仙沼市大島に所在する遺跡から出土した石器や石製品の産地について検討するため

には、気仙沼市周辺の地質を把握することが重要である。気仙沼市周辺の地質については、20万分の1地質図幅「一関」(竹内ほか,2007)をはじめ、5万分の1地質図幅説明書 気仙沼(神戸・島津,1961)、地域地質研究報告(5万分の1地質図幅) 志津川地域の地質(竹内・兼子,1996)、地域地質研究報告(5万分の1地質図幅) 千厩地域の地質(竹内・御子柴(氏家),2002)によって概観できる。

気仙沼市内には、一関市の千厩地区に源流を持ち、気仙沼湾にそそぐ大川が流れ、大川上流域には前期白亜紀の折壁複合深成岩体、千厩トーナル岩体が広く分布している。折壁複合深成岩体は、はんれい岩、花崗閃緑岩、花崗岩、トーナル岩、石英モンゾン閃緑岩などが分布している。千厩トーナル岩体は、折壁複合深成岩体の西側に広く占めており、石英閃緑岩、トーナル岩(花崗閃緑岩を伴う)から構成される。これらの貫入岩体は、接触変成作用により、周囲の中古生層にホルンフェルスを生じている。北上帯のペルム紀後期の登米層、叶倉層が分布している。登米層および叶倉層は、粘板岩、砂岩、礫岩などから構成される。中期ジュラ紀 - 前期白亜紀の唐桑層群は、砂岩、頁岩、礫岩などから構成される。前期白亜紀の大船渡層群をはじめとした気仙沼市大島では、白亜系の火山岩・火山碎屑岩類、堆積岩類が分布している。新月層および鼎浦層、大島層が分布している。新月層および鼎浦層は、玄武岩～安山岩質の溶岩類や火山碎屑岩類からなる。竹内・御子柴(氏家)(2002)によれば、新月層の主部層は、安山岩・玄武岩溶岩・火碎岩部層からなり、大島に分布する鼎浦層の主部は、かんらん石輝石玄武岩が分布しており、上部に輝石安山岩が、大島南部に角閃石輝石安山岩が分布している。

深成岩類の中では、細粒黒雲母花崗岩および花崗岩が確認された。これらの岩石は、気仙沼市西方の折壁複合深成岩体を構成する岩石であり、大川上流域に分布している。

火山岩類の中では、輝石安山岩を主体とし、かんらん石輝石玄武岩、かんらん石玄武岩、無斑晶質玄武岩、玄武岩、玄武岩質安山岩、角閃石輝石安山岩、無斑晶ガラス質安山岩、無斑晶質安山岩、安山岩、

第19表 岩石組成

岩石名	点数
深成岩類	
細粒黒雲母花崗岩	1
花崗岩	1
火山岩類	
流紋岩(中新世)	2
ガラス質流紋岩	2
黒曜岩	17
輝石デイサイト	1
輝石安山岩	114
輝石安山岩(第四紀)	3
角閃石輝石安山岩	10
無斑晶ガラス質安山岩(新第三紀)	1
無斑晶質安山岩	1
安山岩	18
玄武岩質安山岩	2
かんらん石輝石玄武岩	1
かんらん石玄武岩	1
無斑晶質玄武岩	1
玄武岩	9
火山碎屑岩類	
火山礫凝灰岩	6
安山岩質火山礫凝灰岩	3
安山岩質凝灰岩	2
凝灰岩	6
堆積岩類	
礫質砂岩	7
含礫砂岩	1
砂岩	60
泥質砂岩	2
砂質頁岩	22
頁岩(新第三紀)	15
頁岩	277
凝灰質頁岩	3
珪質頁岩	28
珪質頁岩(新第三紀)	47
チャート	5
赤色チャート	1
変質岩類	
変質流紋岩	1
珪化岩	1
珪化頁岩	2
変質蛇紋岩	1
変成岩類	
砂質粘板岩	2
粘板岩	8
粘板岩(雄勝石?)	1
堇青石ホルンフェルス	2
ホルンフェルス	5
鉱物	
赤玉石	1
玉髓	5
滑石	1
合計	700

輝石デイサイト、流紋岩、ガラス質流紋岩、黒曜岩が確認された。これらは気仙沼市大島に分布する白亜紀の火山岩類に由来すると考えられる。一方、備考に「第四紀」と記した輝石安山岩は、第四紀火山の噴出物に由来する可能性がある。近隣にある岩手県下の第四紀火山としては、遺跡東方にある栗駒山が挙げられる。そのため、第四紀の輝石安山岩については、栗駒山を構成する岩石と肉眼による観察や岩石薄片作製観察による鏡下での比較検討を実施することが望まれる。また、気仙沼市周辺で産地が認められない岩石としては、流紋岩、黒曜岩やガラス質流紋岩が出土している。流紋岩は、白色を呈し、緻密質の岩相を示す。岩相から仙台平野西部～南部に分布する酸性凝灰岩などから構成される高館層に由来すると考えられるが、より遠方の産地も視野に入れる必要がある。ガラス質流紋岩は、黒曜岩に類似する岩相を示す。黒曜岩の産地については、気仙沼市田柄貝塚において、微量元素による産地推定が実施された事例があり、岩手県零石町小赤沢産の黒曜岩と推定されている（蟹澤, 1986）。しかし、黒曜岩の原産地は東北地方の各所にあり、今回出土した資料については成分分析を実施することが肝要である。

火山碎屑岩類の中では、火山礫凝灰岩、安山岩質火山礫凝灰岩、安山岩質凝灰岩、凝灰岩が確認された。これらの火山碎屑岩類は、火山岩類の主体をなす輝石安山岩と同様の白亜紀の火山岩類に伴って産する。したがって、在地性の岩石と考えられる。

堆積岩類の中では、頁岩が主体となっており、礫質砂岩、含礫砂岩、砂岩、泥質砂岩、砂質頁岩、凝灰質頁岩、珪質頁岩、チャートが確認された。備考に新第三紀と記したもの以外は、堅硬緻密質であり、気仙沼市周辺のペルム系～ジュラ系に由来する在地性の岩石である。他方、新第三紀の頁岩および新第三紀の珪質頁岩は移入された岩石である。珪質頁岩は、暗褐色を呈する良質なものも存在し、秋田県～山形県の新第三系に分布が知られている。

変質岩類の中では、変質流紋岩、珪化岩、珪化頁岩、蛇灰岩が確認された。変質流紋岩は、赤玉石の部分が認められ、流紋岩と同様の産地（仙台平野西部～南部に分布する高館層）からの移入が推定される。珪化岩および珪化頁岩は珪化作用により珪酸分が濃集した岩石で、源岩が不明なものは珪化岩と鑑定した。珪化頁岩はペルム系～ジュラ系の頁岩に由来しており、在地性の岩石である。変質蛇紋岩は、磨製石斧に使用されている。トレモラ閃石が認められるほか、白色部は炭酸塩鉱物と推定される。早池峰山に分布する早池峰帶の蛇紋岩類に由来する可能性がある。

变成岩類の中では、砂質粘板岩、粘板岩、董青石ホルンフェルス、ホルンフェルスが確認された。砂質粘板岩および粘板岩は、気仙沼市周辺に分布するペルム系に由来するとみられ、在地性の岩石である。一方、石巻市雄勝地区に分布している雄勝石と推定される良質の粘板岩が1点認められ、この資料に関しては移入品である可能性が高い。董青石ホルンフェルス、ホルンフェルスは、一般に泥質岩を源岩として、地下深所から貫入した花崗岩質岩との接触变成作用により生じた岩石である。気仙沼市を流れる大川上流域において、折壁複合深成岩体、千厩トーナル岩体の周縁部に分布が認められる。堅硬緻密質の岩石であり、大川下流域や大島周辺で採取可能と考えられる。

鉱物の中では、赤玉石、玉髓、滑石が確認された。赤玉石の産地については、岩手県下



1. 542 石ヘラ 細粒黒雲母花崗岩



2. 9 輝石安山岩



3. 49 輝石安山岩(捕獲岩多含)



4. 558 無斑晶ガラス質安山岩



5. 679 流紋岩(新第三紀)



6. 17 黒曜岩



7. 398 火山礫凝灰岩

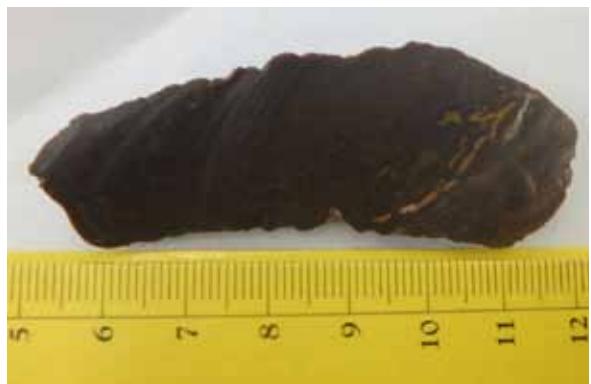


8. 39 砂岩(アレナイト質)

写真33 岩石(1)



9. 18 頁岩



10. 541 石匙 珪質頁岩(新第三紀) 良質



11. 233 チャート



12. 52 磨製石斧 蛇灰岩



13. 666 粘板岩(雄勝石)



14. 19 赤玉石



15. 619 石鱗 玉髓



16. 680 滑石

写真 34 岩石 (2)

の鉱床に産すると考えられるが、明確な産地については不明である。玉髓は、火山岩類や深成岩類の晶洞部に生じる鉱物で、特に产出は珍しい鉱物ではないため、産地の特定は困難である。滑石は、軟質であるため、遺跡近傍では礫として採取することはできない。遺跡から近い原産地としては、早池峰山に分布する早池峰帯の蛇紋岩類に由来する可能性がある。

以上、気仙沼市周辺の地質背景を考慮すると、今回、鑑定対象とした岩石は、気仙沼市周辺の地質に由来するものが大半であり、大島周辺で礫として採取可能であると考えられる。他地域から搬入されたと考えられる岩石は、第四紀の輝石安山岩、流紋岩、黒曜岩、ガラス質流紋岩、新第三紀の頁岩・珪質頁岩、変質蛇紋岩、粘板岩、滑石があげられる。

引用文献

- 五十嵐俊雄,2006,考古資料の岩石学.パリノ・サーヴェイ株式会社,194p.
- 蟹澤聰史,1986,田柄貝塚から出土した石器類の材質について.宮城県文化財調査報告書第111集 田柄貝塚Ⅱ 土製品・石器・石製品編 309-320.
- 神戸信和・島津光夫,1961,5万分の1地質図幅説明書 気仙沼.地質調査所,73p.
- 竹内 誠・兼子尚知,1996,地域地質研究報告(5万分の1地質図幅) 志津川地域の地質.地質調査所,93p.
- 竹内 誠・鹿野和彦・御子柴(氏家)真澄・中川 充・駒澤正夫,2005,20万分の1地質図幅「一関」.産業技術総合研究所 地質調査総合センター.
- 竹内 誠・御子柴(氏家)真澄,2002,地域地質研究報告(5万分の1地質図幅) 千厩地域の地質.産業技術総合研究所 地質調査総合センター,76p.

第5章 まとめ

1. はじめに

裏方A貝塚は、浦の浜に面した丘陵上に立地する縄文時代前・中・晚期の貝塚として古くから知られている遺跡である。貝層は北斜面に2か所、南斜面に1か所分布するとされているが、詳細は明らかでない。

近年、裏方A貝塚が立地する丘陵の東側から南側にかけて、個人住宅建築あるいは市道改良などに伴う確認調査を実施しているが、遺構・遺物が検出された地点はない。また、北側斜面の麓付近で防潮堤建設に伴う確認調査を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。

今回の調査において、丘陵の頂部平場の半分以上の範囲で確認トレンチを設定して調査を行ったが、遺物等が検出されたのは丘陵の北側縁辺部のみであった。

2. 遺物包含層

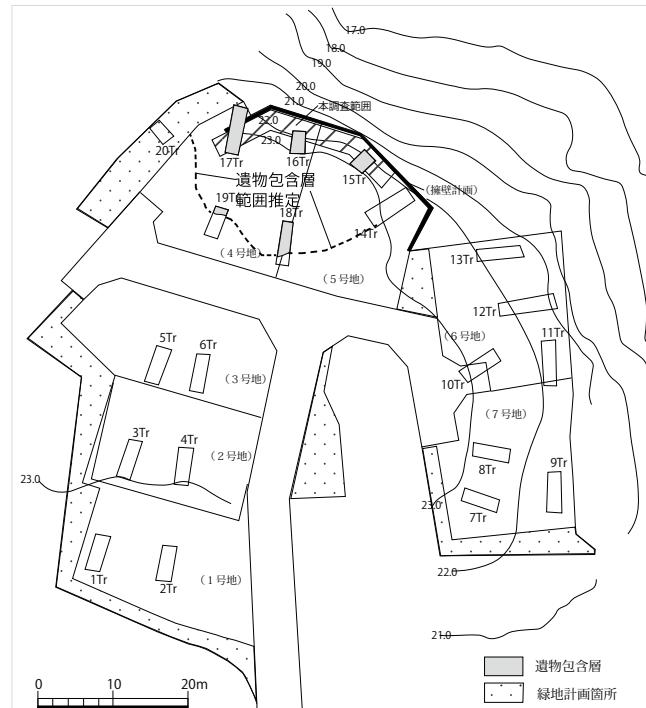
遺物包含層が検出された確認トレンチは、15Tr～19Trの5本である。15Tr～17Trでは全面で遺物包含層が検出された。15Tr～17Trは全面が遺物包含層であったが、18Tr・19Trはトレンチ内で遺物包含層の南端が確認された。また、14Trでは断面でわずかに遺物包含層と類似した堆積土が認めら、確認調査においても多量の遺物が検出された（第1章第2節参照）ため、14Tr周辺にも遺物包含層が堆積していたものと想定できる。しかし、14Tr全面が大規模な攪乱であったため、判然としない。

遺物包含層は、2種類確認した（本書においては、上層の遺物包含層を「包含層①」、下層の遺物包含層を「包含層②」と呼称した。）。包含層①は最大約0.8m、包含層②は最大約0.4mであった。また、包含層①では多量の遺物が検出されたが、包含層②では少なかった。今回の調査地点が丘陵の縁辺にあたり、北側に向かう斜面となっているためと推測できる。

3. 検出された遺物

【縄文土器】

包含層①から11,291点、包含層②から997点の縄文土器が検出された^(註2)。本調査にお



第27図 遺物包含層の範囲

いては、3本のベルトのほかは一括で採取した。その際、確認トレーナーの層序を目安として、包含層①と②に分けた。掘削にあたっては、15~20cm毎に面的に行い、面毎に1から順に付した。遺物の取り上げにあたっては、層位(上層・下層)にアラビア数字を併記して記録した。ベルトにおいては、層位毎を基本としたが、時間の制約等により、2層同時に掘削した箇所もあり、一部直上層の遺物が混入している可能性も考えられる。また、すべての遺物について時期等を分類していないため、本章においては、今回の調査で確認された傾向について述べることとする。

包含層①においては、前期の大木3式から中期の大木8b式の土器が検出された。最も多く検出された土器は、中期の大木7~8a式に比定されるものであった。また、前期の土器も中期と比して少量ではあるが、一定量検出されている。このことから、包含層①は中期中葉の大木8b式期に形成されたものと考えることができる。

包含層②においては、早期から中期の大木8b式の土器が検出されたが、包含層①と異なり、主体は前期中葉の大木3式に比定されるものであった。大木4式~6式はほとんど確認されず、大木7・8式も量的に少ない。そのため、大木7・8式の土器は、直上層の包含層①の遺物が混入した可能性も考えられる。少量であるが中期の遺物が出土しているため、断じることはできないが、包含層②は大木3式期に形成されたものと推定したい。

【石器・石製品】

石器は、磨石・敲石などの礫石器および剥片が主体であったが、製品も多く、器種も多岐にわたる。石鏃は21点検出されたが、平基1点のほかはすべて凹基のものであった。石匙は、横型が多くみられたが、図示したもの以外は欠損したものであった。

石製品は、包含層①下層で玦状耳飾りが検出された。市内でも類例をみないものである。

本調査で検出された石器・石製品のほか、一部の自然石計700点について、肉眼による石質鑑定を行った(第4章参照)。

【動物遺存体】

今回の調査において、貝層は検出されなかった。また、その他の動物遺存体も、包含層①上層でマグロの椎骨が6点連なって検出されたのみであった。

4. おわりに

今回の調査は、面積約62.5m²と狭い範囲であったが、遺物包含層が良好な状態で確認された。遺物包含層からは12,000点以上の縄文土器が検出されるなど、大きな成果を得ることができた。さらに、確認調査の成果も含め、遺跡が遺存している範囲が丘陵縁辺から北側斜面にかけての比較的狭い範囲であることが想定できた。裏方A貝塚は、調査履歴が少ない遺跡であり、当該地のほかにも縄文土器を採取できる地点もあるとされている。今後の資料の蓄積を待ちたい。

註(2) 東北歴史資料館(1989)『宮城県の貝塚』98・99頁

【参考文献】

- 荒木英夫（1989）『気仙沼の地質』気仙沼郷土研究会
- 大島郷土誌刊行委員会（1982）『大島誌』
- 気仙沼市教育委員会（1986）『宮城県気仙沼市文化財調査報告書第5集 一般県道大島線
改良工事に伴う駒形遺跡発掘調査報告書』
- 七ヶ浜町歴史資料館（2018）『大木式土器の世界』
- 戸沢允則 編（1994）『縄文時代研究事典』東京堂出版
- 東北歴史資料館（1989）『宮城県の貝塚』
- 宮城県気仙沼市（1988）『気仙沼市史Ⅱ 先史・古代・中世編』

報告書抄録

気仙沼市文化財調査報告書第23集
裏方A貝塚
－防災集団移転促進事業（浦の浜地区）に伴う
発掘調査報告書－

発行日 2021年3月31日
編集・発行 宮城県気仙沼市魚市場前1-1
印 刷 気仙沼市教育委員会
宮城県気仙沼市内松川41-1
双葉印刷株式会社